



長野県上田市  
令和2年日本遺産認定

レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」  
龍と生きるまち 信州上田・塩田平

令和4年度

# 上田市日本遺産補充調査報告書

2023.3

上田市日本遺産推進協議会





令和二年  
日本遺産認定

# レイラインがつなぐ 「太陽と大地の聖地」

～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～

独鈷山と夫神岳から扇状に開ける地・塩田平は、古来「聖地」として、多くの神社仏閣が建てられている。

山のふもとにある信州最古の温泉といわれる別所温泉、「国土・大地」を御神体とする「生島足島神社」、「大日如来(太陽)」を安置する「信濃国分寺」は、一本の直線状に配置され、レイラインをつないでいる。

夏至と冬至に、鳥居の中を太陽の光が通り抜け、神々しくぬくもりのある輝きを享受できるのだ。

先人たちが、この地が特別であると後世に伝えようと遺した様々な仕掛けは、今も、訪れる人びとにパワーをチャージさせる。

日本遺産関連情報は  
下記QRコードから



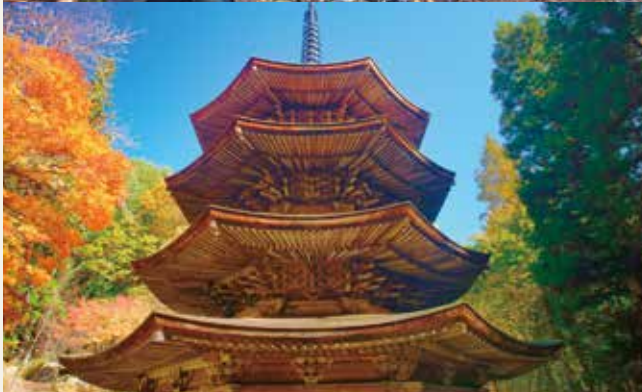
© 岡田光司

長野県上田市

# レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」物語

～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～

弘法大師ゆかりの前山寺



安楽寺八角三重塔

## 「信州の学海」

上田は、険しい山々に囲まれた盆地ゆえに、本州では一番雨の少ない地だ。「おてんとうさま」が毎日のように微笑み、穏やかな気候という特徴は、信濃国分寺が置かれたこと、鎌倉北条氏の一派が終の棲家としてここを選んだ理由でもある。

塩田平には数多くの寺社が建てられ、中国の高僧や多くの学僧が訪れたのは、山を背に構える別所温泉があったことが大きい。豊かな湯で心まで洗われる温泉の楽しみがあったからこそ、僧たちは、この地を訪れたのであろう。

別所温泉にある安楽寺を訪れてみると、薄暗い木立の中、見上げるように階段を登った先に、日本唯一の木造八角三重塔が目飛び込んでくる。微かな光の方向に仰ぎ見る屋根裏の華やかな木組みは、私たちを自ずと厳かな気持ちにさせてくれる。しかも「四重塔」にも見える不思議な形だ。

また、北向観音堂は、善光寺と「両参り」すると御利益が増すという。境内の手水(ちょうず)までも温泉を使い、湯煙が立ち上がる境内には温泉の匂いが漂う。見晴台に立つと、塩田平から市街地までを見渡せ、我はこの地に降り立ったのだ、という気持ちにさせられる。この地が僧たちにとって「特別な場所」であり、「別所」と名付けられたことも納得できる。湯煙が漂う地に花開いた仏教文化の遺産は、湯浴みの效能のみならず、訪れる人々を癒している。

別所温泉の岳の幟行事



ささら踊り(岳の幟)

## 神宿る「山」への祈り

上田の雨が少ない気候は、風雨が引き起こす災いからこの地の暮らしを守ってきた。しかし、それゆえに神は時として干害などの試練を課してきた。人びとは水源となる山々に神を崇め、祈り、恵みの雨を願った。

500年以上も続く雨乞いのまつりである「岳の幟(たけののぼり)」は、色鮮やかな幟が特徴的だ。「下り龍」を描いた幟で、夫神岳山頂に祀られた「龍“オカミ”」と呼ばれる九頭龍神を山麓の別所神社までお連れする。龍をかたどったたくさんの幟を迎えるのは、三頭獅子とささら踊りの子どもたち。カラフルな幟と衣装が鮮やかに映え、山間に歌声と太鼓の音が響くころには、本当に、龍からの雨に恵まれる。

山には、古より受け継がれてきた水への憧れと神への畏怖が投影される。龍が宿るこの山は、山菜や松茸など、山の幸をはぐみ、マツタケ小屋の隆盛につながっている。



日本遺産とは、文化庁が認定した、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーであり、各地域の魅力あふれる有形・無形の文化財群を、地域が主体となって整備活用し、国内外へ発信することで地域活性化を図るものです。（全国104件、県内4件認定）

独鈷山と舌喰池



前山寺三重塔

## 祈りの言葉は 「アメフラセタンマイナ」

塩田平はため池を造って水を蓄え、ここで温めた水を田んぼに入れて稲の生長を促し、「塩田三万石」と呼ばれる上田随一の穀倉地帯へと変身した。ため池でも「百八手」と呼ぶ雨乞いのまつりが行われる。池の周りを大勢で囲んで「たいまつ」に火をつけ、もくもくと上がる煙のなか「アメフラセタンマイナ」と唱える。ため池は稲穂をはぐむだけでなく、マダラヤンマなどの命もつないできた。人柱やカッパなどの伝説は、ため池にも神を崇めていたことをうかがわせる。

雨を願う人びとは、時に荒療治として路傍のお地藏様を川へ放り込んだ。ここでも祈りの言葉は「アメフラセタンマイナ」。お地藏様を怒らせてでも、龍(雨)との再会を願っていた。

独鈷山と夫神岳、そして麓の寺社は、常に塩田平の人びとの暮らしに寄り添ってきた。そして、路傍のお地藏様は、また川に投げ込まれないかと心配して、今日も雨雲を待ちながら空を見上げている。これが「山に神、野に仏」とも言うべき、上田の人びとががつないできた「祈りのかたち」だ。

別所線の千曲川橋梁



レイラインに沿って走る別所線

## 未来への懸け橋

このように塩田平には、この地を特別な「聖地」とする景観が遺されている。国土・大地を祀る「生島足島神社」、「大日如来(太陽)」が安置された「信濃国分寺」。生島足島神社は夏至には太陽が東の鳥居の真ん中から上がり、冬至には西の鳥居に沈む。太陽と大地は、この神秘的な光景をレイラインとして現代に遺した。

そして、この「太陽と大地の聖地」に重なるように遺したもうひとつの景観が、100年前から守り続けてきた鉄道・別所線だ。生島足島神社から、別所温泉までの軌道は、不思議なことにレイラインと一致する。そして、駅をつなぐ線路は、空から見ると龍のかたちをしていると言われる。塩田の人びとは龍を特別な神として崇め、祀り、龍とともに生きてきたことを、別所線の軌道に投影して大切に遺してきたのだ。龍の背に乗ってめぐる「太陽と大地の聖地」は、これからも、まぶしいばかりの輝きとぬくもりをもって、訪れる人の心に光を与えてくれるだろう。





# レイラインがつなぐ 「太陽と大地の聖地」

～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～



## 「レイライン」とは、 夏至の朝日が照らす光の線

レイラインは、「大日如来(太陽)」を安置する信濃国分寺と「国土・大地」を御神体とする生島足島神社を直線状に結んでいる朝日が照らす光の線のことです。

### 【構成文化財一覧】

#### 信州の学海

- ① 安楽寺八角三重塔
- ② 木造惟仙和尚坐像・木造恵仁和尚坐像
- ③ 常楽寺本堂
- ④ 常楽寺石造多宝塔
- ⑤ 北向観音堂
- ⑥ 善光寺地蔵絵馬
- ⑦ 愛染カツラ (別所五木)
- ⑧ 舞田の石造五輪塔

#### 神宿る「山」への祈り

- ⑨ 前山寺三重塔
- ⑩ ちがい石とその産地
- ⑪ 西光寺阿弥陀堂
- ⑫ 中禅寺薬師堂
- ⑬ 中禅寺木造薬師如来座像
- ⑭ 中禅寺木造金剛力士像
- ⑮ 前山塩野神社拝殿及び本殿
- ⑯ 法住寺虚空蔵堂 附 厨子
- ⑰ 別所温泉の岳の幟行事
- ⑱ 別所神社本殿 (神楽殿) (本朝縁結大神祠)
- ⑲ 鞍が淵と蛇骨石

#### 祈りの言葉は「アメ フラセタンマイナ」

- ⑳ 千駄焚き・百八手
- ㉑ 奈良尾石造大姥坐像
- ㉒ 保野の祇園祭

#### 未来への懸け橋

- ㉓ 信濃国分寺跡
- ㉔ 信濃国分寺本堂
- ㉕ 信濃国分寺三重塔
- ㉖ 信濃国分寺石造多宝塔
- ㉗ 牛頭天王祭文
- ㉘ 上田市八日堂の蘇民将来符頒布習俗
- ㉙ 八日堂縁日図
- ㉚ 泥宮
- ㉛ 生島足島神社本殿内殿
- ㉜ 生島足島神社摂社諏訪社本殿
- ㉝ 生島足島神社文書
- ㉞ 長福寺銅像菩薩立像
- ㉟ 別所線の鉄道施設
- ㊱ 塩田平のため池群



日本遺産関連情報は  
下記QRコードから





## 例 言

- 1 本書は長野県上田市において令和4年度に実施した、日本遺産補充調査の報告書である。
- 2 調査は、令和4年度芸術文化振興事業費国庫補助金を得て、上田市日本遺産推進協議会（事務局：上田市政策企画部交流文化スポーツ課）が直営で実施した。  
〈上田市日本遺産推進協議会〉会 長 土屋陽一（上田市長）  
副会長 西澤恒幸（塩田平文化財保護協会会長）  
副会長 峯村秀則（上田市教育委員会教育長）  
委 員 中村 彰（上田市自治会連合会会長）  
委 員 児玉卓文（上田市文化財保護審議会会長）  
委 員 小林信彦（長野県上田地域振興局商工観光課長）  
委 員 久保友二（長野県教育委員会文化財・生涯学習課長）  
調査組織（事前準備・現地調査・整理・報告書刊行）  
担 当 者 古平浩之・谷口弘毅・中田由真（上田市教育委員会生涯学習・文化財課）  
現地協力者 西澤恒幸・龍野藤人・宮原信一・佐藤甚一郎・佐藤克哉  
写真提供者 岡田光司
- 3 調査は、現地調査、整理、報告書刊行を含めて、令和4年12月23日から令和5年3月17日まで行った。
- 4 本書の編集刊行は事務局が行った。本文の執筆及び総括は谷口が行い、古平・中田がこれを補佐した。
- 5 本書が刊行されるまでには、多くの方々や諸機関の御理解と御協力を賜った。以下、御芳名を記して深く感謝の意を表したい。（順不同・敬称略）  
文化庁文化財部記念物課、長野県教育委員会文化財・生涯学習課、  
塩田平のため池を愛する会、塩田まちづくり協議会、岡田光司

## 目 次

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| 第1章 調査の目的と方法          |     |
| 第1節 調査の目的             | 2   |
| 1 「塩田平のため池群」に関する課題    | 2   |
| 2 塩田平における小規模ため池調査の実施  | 3   |
| 第2章 調査の結果             | 4   |
| 第1節 塩田平における小規模ため池調査   | 4   |
| 第2節 塩田平における41ヵ所のため池調査 | 46  |
| 第3章 調査の成果と課題          | 90  |
| 参考資料 日本遺産認定資料から抜粋     | 91  |
| 様式3-1 構成文化財一覧         | 92  |
| 様式3-2 構成文化財写真一覧       | 107 |



## 第1節 調査の目的

本書で報告する補充調査は、上田市の日本遺産「レイラインがつなぐ『太陽と大地の聖地』～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～」のストーリーを補完し、その魅力アップを目的として、市民への周知の根拠となる情報収集と、新たな構成文化財の候補物件を抽出するために行った。

## 1 「塩田平のため池群」に関する課題

本州以南で年間降水量が最も少ない上田市のなかでもさらに雨が少ないとされる塩田平は、山間部がほとんどを占める長野県において貴重な平野部が広がること、良質な土壌が広がることなどから古くから稲作が盛んに行われていた。しかし、雨が少なく水量が豊富な河川も乏しいことから、農業用水の確保が大きな課題として様々な対策が取られてきた。灌漑用水の整備やため池の築造といった土木工事から、岳の幟や千駄焚・百八手といった雨乞い行事まで、あらゆる手段を駆使して弥生時代から稲作を行ってきた塩田平の人々の歴史は、現在でも多く受け継がれている。

その中でも特徴的とされるため池については、稲作のための灌漑施設としての役割の他、百八手や石仏を放り込むなどの雨乞い行事等の場として、また数々の民話の舞台、「マダラヤンマ」などの貴重な動植物の生息の場としても重要なものとなっている。その歴史については、中世以前から徐々に築造されていたと考えられているが、最も整備されたのは江戸時代の仙石氏統治時代（1622年～1706年）とされている。その後、現代まで受け継がれてきたため池群は、平成22年（2010）に農林水産省が選定した「ため池百選」に「塩田平のため池群」として選定されている。

一方、塩田平のため池の数についてははっきりした数字が存在せず、上田市誌別巻（2）『図でみる街や村のうつりかわり』において、市誌編さんに伴って実施した地籍図からの拾い上げでは、「上田市全体で314、塩田平には239」としている。また、小学校3・4年生の学習教材である『わたしたちの上田市』では「大小200あまりのため池」としている。

比較的規模の大きいため池については塩田平土地改良区の「ため池データベース」に41ヵ所紹介されており、「塩田平のため池を愛する会」等によって池の規模や特徴、伝承、周辺環境等の調査が行われ、ホームページやパネル等でその成果が紹介されている。

しかし、個人や小集団等によって管理されている小規模ため池についてはこれまで現地調査を踏まえた悉皆調査は実施されておらず、その数は推定値とせざるを得ない状況である。

本日本遺産である「レイラインがつなぐ『太陽と大地の聖地』～龍と生きるまち信州上田・塩田平～」のストーリーの中でもため池は重要な要素であることから、本年度に36番目の構成文化財として「塩田平のため池群」が追加認定されたが、そこに含まれているのは規模や管理者等が把握されている41ヵ所のため池のみとなっている。

しかし、古くから塩田平の住民が受け継いできたため池やそれに付随する諸要素を物語るには、41ヵ所のため池のみでは不十分であることは明らかであり、小規模ため池も含めた全体の把握を行うことは現ストーリーを補完する大きな要素となりうると考えられる。

灌漑施設の整備が進む一方、米の消費量が減少している現代社会においては、ため池の農業用水確保という面での重要性は低下しつつあり、41ヵ所のため池をはじめとする比較的規模が大きく、管理者がはっきりしているため池は維持がなされているが、小規模ため池はその数が年々減少しているの

が現実である。

以上のとおり、日本遺産ストーリーの重要な要素であるため池群の現状及び全体像を把握することは今後のストーリーの充実や活用において必要であると考え、補充調査を実施することとした。

## 2 塩田平における小規模ため池調査の実施

今回実施した調査は固定資産税における地目が「ため池」となっているものや、航空写真・住宅地図等によって池と推定されるものを拾い上げ、その情報を基に現地調査を行い、ため池と推定されたものを対象とした。

また、ため池の定義については調査が冬期であったことも鑑み、現状で水が溜まっていなくても堤が確認できるなどため池としての形状を保っているものを「ため池」としてカウントすることとした。

「塩田平」の範囲については、塩田地域に加え川西地域や城南地域を含める場合もあるが、日本遺産の構成文化財としての「塩田平のため池群」は塩田地域内のため池で構成されていることから塩田地域内とした。



## 第1節 塩田平における小規模ため池調査

様々な媒体から拾い上げられたため池の可能性がある情報を現地調査によって確認し、ため池としたものをここで報告したい。

| ため池 No. 1                                                                                           | 住所 富士山 1292                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・水なし</li> <li>・草木におおわれている</li> <li>・664㎡</li> </ul> |                                                                                           |
| 地図<br>            | 写真<br> |

| ため池 No. 2                                                                                                 | 住所 富士山 1337                                                                                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・草木、ササにおおわれている</li> <li>・中央に水あり</li> <li>・135㎡</li> </ul> |                                                                                            |
| 地図<br>                 | 写真<br> |

|                                                                                                                  |                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| ため池 No. 3                                                                                                        | 住所 富士山 2011-イ                                                                              |
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・水がない</li> <li>・267m<sup>2</sup></li> </ul>                      |                                                                                            |
| 地図<br>                         | 写真<br>  |
| ため池 No. 4                                                                                                        | 住所 富士山 2051                                                                                |
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・草におおわれている</li> <li>・水がない</li> <li>・1140m<sup>2</sup></li> </ul> |                                                                                            |
| 地図<br>                        | 写真<br> |



## ため池 No. 5

住所 富士山 2400

- その他（所見等）
- ・土砂で埋まっていて、土手がない
  - ・草木におおわれている
  - ・入り口に JA 堆肥センターがある
  - ・208m<sup>2</sup>

地図



写真

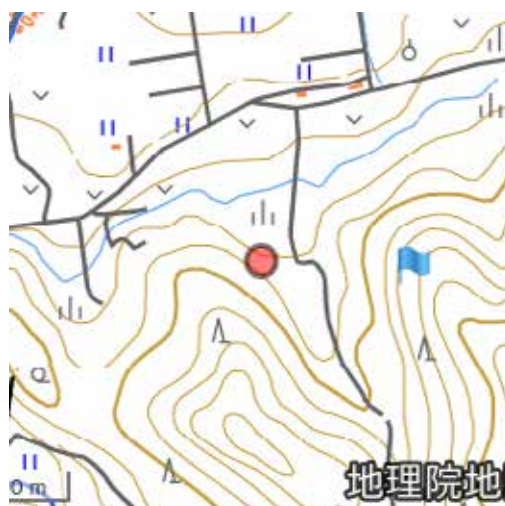


## ため池 No. 6

住所 富士山 3867

- その他（所見等）
- ・池の痕跡あり
  - ・北側は荒れた畑（梅）
  - ・土砂で平に埋まっている
  - ・485m<sup>2</sup>
  - ・水なし
  - ・南側は竹林

地図



写真



## ため池 No. 7

住所 富士山 3870

- その他（所見等）
- ・土手の一部が崩れて水位低下、根でかろうじて残っている
  - ・余水はけ用 U 字溝あるが、土砂で埋まっている
  - ・南側は、林
  - ・北側は、竹林（土手を強くしている）
  - ・115m<sup>2</sup>

地図



写真



## ため池 No. 8

住所 富士山 3915

- その他（所見等）
- ・土手らしき物がある
  - ・土砂で埋まっている
  - ・沢の林の中にある
  - ・132m<sup>2</sup>

地図



写真





## ため池 No. 9

住所 富士山 3917

- その他（所見等）
- ・土手の一部が崩れて水なし
  - ・沢に土手を作った形状あり
  - ・沢の林の中にある
  - ・185m<sup>2</sup>

地図



写真



## ため池 No. 10

住所 富士山 4035

- その他（所見等）
- ・二ツ木峠道南の窪地（南に大きなU字溝あり）に小さな池跡がある
  - ・正確に特定するには詳細図が必要
  - ・305m<sup>2</sup>

地図



写真



|                                                                                                                            |                                                                                           |          |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| ため池 No. 11                                                                                                                 | 住所                                                                                        | 富士山 4088 |
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水が無い</li> <li>・ 土手は有る</li> <li>・ 面積の 2 割位しかない</li> <li>・ 596㎡</li> </ul> |                                                                                           |          |
| 地図<br>                                   | 写真<br> |          |

|                                                                                                                                           |                                                                                            |          |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| ため池 No. 12                                                                                                                                | 住所                                                                                         | 富士山 4092 |
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木々におおわれている</li> <li>・ 水はたまっている</li> <li>・ すぐ上側（南側）に依田川用水路がある</li> <li>・ 449㎡</li> </ul> |                                                                                            |          |
| 地図<br>                                                 | 写真<br> |          |



## ため池 No. 13

住所

富士山 2290-5

その他（所見等）

- ・草におおわれている
- ・水は少ない
- ・653m<sup>2</sup>

地図



写真



## ため池 No. 14

住所

下之郷乙 470

その他（所見等）

- ・位置がはっきりしない
- ・詳細図を取る必要あり（長野大学の土地？）
- ・野生動物観測用カメラあり
- ・238m<sup>2</sup>

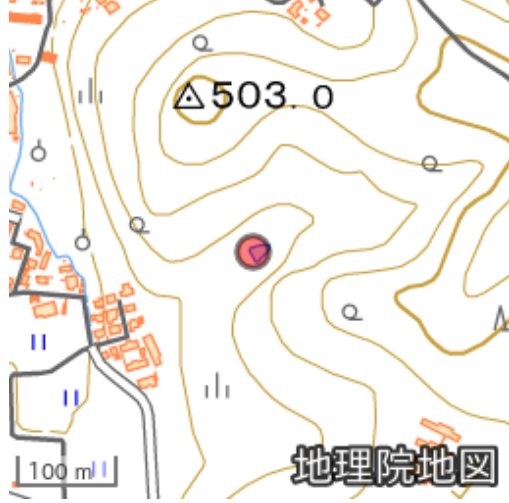
地図



写真



| ため池 No. 15                                                                                                                 | 住所                                                                                        | 下之郷乙 409 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・草木におおわれている</li> <li>・土手の一部がくずれて水なし</li> <li>・1001m<sup>2</sup></li> </ul> |                                                                                           |          |
| 地図<br>                                   | 写真<br> |          |

| ため池 No. 16                                                                                                                     | 住所                                                                                         | 下之郷乙 411 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂で埋まっている</li> <li>・水なし</li> <li>・周囲は林</li> <li>・1990m<sup>2</sup></li> </ul> |                                                                                            |          |
| 地図<br>                                      | 写真<br> |          |



## ため池 No. 17

住所

下之郷乙 730- イ

- その他（所見等）
- ・ 池の跡はあり
  - ・ 水なし
  - ・ 沢が 2m 位低くなり、水路ない
  - ・ 522m<sup>2</sup>

地図



写真



## ため池 No. 18

住所

下之郷乙 1247

- その他（所見等）
- ・ 水なし
  - ・ 草におおわれている
  - ・ 760m<sup>2</sup>

地図



写真



|                                                                                                                                    |                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| ため池 No. 19                                                                                                                         | 住所 下之郷乙 1252                                                                              |
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・半分埋めてある</li> <li>・ヨシにおおわれている</li> <li>・水無し</li> <li>・1150m<sup>2</sup></li> </ul> |                                                                                           |
| 地図<br>                                           | 写真<br> |

|                                                                                                                                                        |                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| ため池 No. 20                                                                                                                                             | 住所 下之郷乙 1253                                                                               |
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・半分埋めてある</li> <li>・ヨシにおおわれている</li> <li>・水有り、横に葎用ハウスあり、水散布に使用している</li> <li>・766m<sup>2</sup></li> </ul> |                                                                                            |
| 地図<br>                                                              | 写真<br> |



ため池 No. 21

住所

下之郷 875

- その他（所見等）
- ・水なし
  - ・アシにおおわれている
  - ・944m<sup>2</sup>

地図



写真



ため池 No. 22

住所

下之郷 910

- その他（所見等）
- ・水なし
  - ・ヨシにおおわれている
  - ・950m<sup>2</sup>

地図



写真



## ため池 No. 23

住所 舞田 861

- その他（所見等）
- ・株式会社ホシバより、山林側に位置
  - ・水なし、草木多し

地図



写真



## ため池 No. 24

住所 八木沢 1345

- その他（所見等）
- ・民家そば
  - ・水なし、草木多し

地図



写真





| ため池 No. 25                                                                                                               | 住所 | 山田 688-1                                                                               |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------|
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・土手は残っている</li> <li>・草木しげる</li> <li>・水少々たまっていた</li> <li>・山林の下端</li> </ul> |    |                                                                                        |
| 地図                                     |    | 写真  |

| ため池 No. 26                                                                                        | 住所 | 野倉 364                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ため池の跡は確認できた</li> <li>・現在は水もなく利用されていない</li> </ul> |    |                                                                                         |
| 地図             |    | 写真  |

## ため池 No. 27

住所 野倉 455- イ

- その他（所見等）
- ・ため池の跡であることは確実
  - ・現在は水もなく利用されていない

地図



写真



## ため池 No. 28

住所 野倉 1307-1

- その他（所見等）
- ・かつてはため池だったと思われる
  - ・現況は堤はあるが、水は張られていない

地図



写真





## ため池 No. 29

住所 野倉 1490- 口

- その他（所見等）
- ・ かつてはため池だったと思われる
  - ・ 現在は池としては利用されていない（形状は残っている）

地図



写真



## ため池 No. 30

住所 別所温泉 976 番

- その他（所見等）
- ・ 貯水あり
  - ・ 1229m<sup>2</sup>
  - ・ 周囲は草木繁茂
  - ・ 小字「日影」の山裾の小高い所
  - ・ 土手はしっかりしている
  - ・ すぐ下に人家あり

地図



写真



## ため池 No. 31

住所

別所温泉 2211

- その他（所見等）
- ・別所公園、ハス池より山林側に位置
  - ・かすかに水あり、草木多し

地図



写真



## ため池 No. 32

住所

別所温泉 2309

- その他（所見等）
- ・民家より砂防側へ位置
  - ・水なし、草木多し

地図



写真





## ため池 No. 33

住所

別所温泉 2318

その他（所見等）

- ・ 民家より砂防側へ位置
- ・ かすかに水あり、草木多し

地図



写真



## ため池 No. 34

住所

富士山 1265

その他（所見等）

- ・ 水なし
- ・ ヨシにおおわれている
- ・ 2363㎡

地図



写真



## ため池 No. 35

住所 富士山 1276 - 3

- その他（所見等）
- ・ 水なし
  - ・ 土手の草刈りはされている
  - ・ 内面の周囲にヨシが生えている
  - ・ 1336㎡

地図



写真



## ため池 No. 36

住所 富士山 1963 - イ

- その他（所見等）
- ・ 水あり
  - ・ 土手の草は刈ってある
  - ・ 水面の周辺にヨシが生えている
  - ・ 495㎡

地図



写真





## ため池 No. 37

住所

富士山 1975 - イ

- その他（所見等）
- ・草（ガマ）が多い
  - ・水はある
  - ・581m<sup>2</sup>

地図



写真



## ため池 No. 38

住所

富士山 4102

- その他（所見等）
- ・良く管理されている
  - ・1520m<sup>2</sup>

地図



写真



## ため池 No. 39

住所 富士山 4103

- その他（所見等）
- ・土砂で埋っている
  - ・水は全くない
  - ・草木で覆われている
  - ・1818㎡

地図



写真



## ため池 No. 40

住所 富士山 5052

- その他（所見等）
- ・下流の沢田が荒廃して管理放棄
  - ・水はない
  - ・隣接した2ヶ所が池らしいが特定できない
  - ・詳細図が必要
  - ・889㎡

地図



写真





ため池 No. 41

住所 富士山 5077

- その他（所見等）
- ・下流の沢田が荒廃して管理放棄
  - ・水あり
  - ・287m<sup>2</sup>

地図



写真



ため池 No. 42

住所 富士山 5078

- その他（所見等）
- ・下流の沢田が荒廃して管理放棄
  - ・水あり
  - ・376m<sup>2</sup>

地図



写真



|                                                                                          |                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| ため池 No. 43                                                                               | 住所 富士山 2290 - 28                                                                          |
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理良い</li> <li>・630㎡</li> </ul>          |                                                                                           |
| 地図<br> | 写真<br> |

|                                                                                                      |                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| ため池 No. 44                                                                                           | 住所 富士山 1961 - 38                                                                           |
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・木々に覆われている</li> <li>・水はある</li> <li>・1259㎡</li> </ul> |                                                                                            |
| 地図<br>            | 写真<br> |



ため池 No. 45

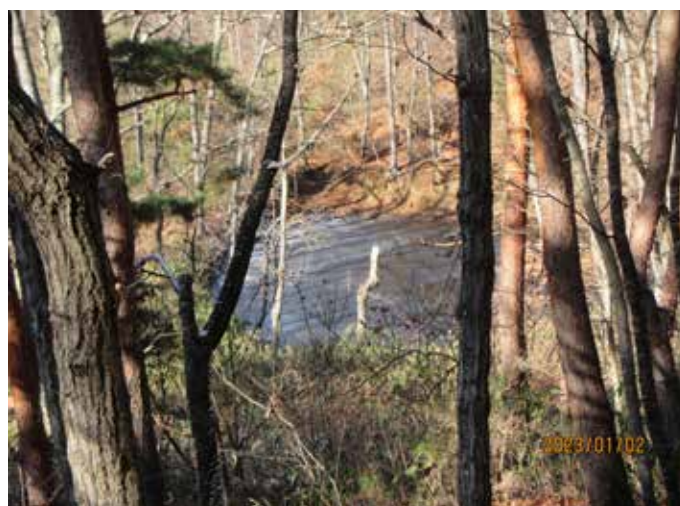
住所 下之郷乙 695

- その他（所見等）
- ・池又は池跡らしき物が3ヶ所あり、木と笹に覆われている
  - ・詳細図を取らないと確定できない
  - ・981m<sup>2</sup>

地図



写真



ため池 No. 46

住所 下之郷乙 912-1

- その他（所見等）
- ・水あり
  - ・土手にヨシが生えている
  - ・419m<sup>2</sup>

地図



写真



## ため池 No. 47

住所

下之郷乙 1187 - イ

その他（所見等）

- ・ 良く整備されている
- ・ 2254m<sup>2</sup>

地図



写真



## ため池 No. 48

住所

下之郷乙 1254

その他（所見等）

- ・ 水あり
- ・ 周囲はヨシで覆われている
- ・ 819m<sup>2</sup>

地図



写真





## ため池 No. 49

住所

下之郷 1252 - 1

その他（所見等）

- ・水あり
- ・土手、水面の多くがヨシで覆われている
- ・555m<sup>2</sup>

地図



写真



## ため池 No. 50

住所

下之郷 1248 - 3

その他（所見等）

- ・水あり
- ・土手、水面ともにヨシで覆われている
- ・872m<sup>2</sup>

地図



写真



## ため池 No. 51

住所 下之郷 965-1

- その他（所見等）
- ・水あり
  - ・土手はヨシに覆われている
  - ・1279m<sup>2</sup>

地図



写真



## ため池 No. 52

住所 下之郷 813-25

- その他（所見等）
- ・良く整備されている
  - ・1660m<sup>2</sup>

地図



写真



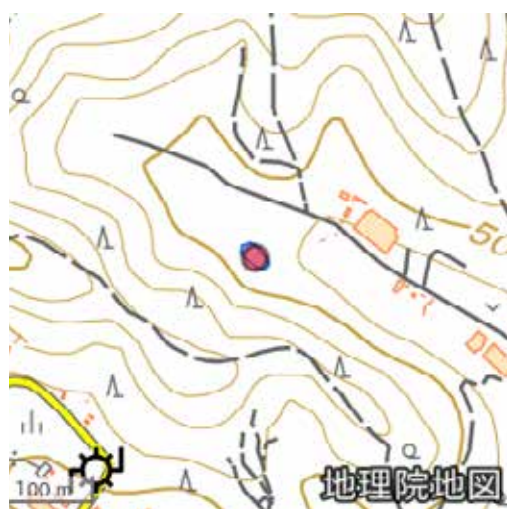


## ため池 No. 53

住所 舞田 855

- その他（所見等）
- ・株式会社ホシバより山林側へ位置
  - ・農業用ため池、草木多し

地図



写真



## ため池 No. 54

住所 前山 550 - 水

- その他（所見等）
- ・水たまりあり
  - ・周囲は雑木繁茂
  - ・土手の天端巾は大きい
  - ・1600m<sup>2</sup>
  - ・塩田の館の南西側
  - ・東側と北側に墓地あり

地図



写真



| ため池 No. 55                                                                                                                         | 住所                                                                                        | 手塚 80 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・貯水あり</li> <li>・外周草木繁茂</li> <li>・土手はしっかりしている</li> <li>・466m<sup>2</sup></li> </ul> |                                                                                           |       |
| 地図<br>                                           | 写真<br> |       |

| ため池 No. 56                                                                                                                           | 住所                                                                                         | 手塚 83 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・水たまりあり</li> <li>・外周草木繁茂</li> <li>・土手はしっかりしている</li> <li>・753m<sup>2</sup></li> </ul> |                                                                                            |       |
| 地図<br>                                            | 写真<br> |       |



## ため池 No. 57

住所

手塚 351

- その他（所見等）
- ・ 水たまりあり
  - ・ 全体に草木繁茂
  - ・ 土手は残っている
  - ・ 357m<sup>2</sup>

地図



写真



## ため池 No. 58

住所

手塚 542

- その他（所見等）
- ・ 貯水あり
  - ・ 周囲は草木繁茂
  - ・ 南側と西側が山林に接する
  - ・ 個人の農業用水池
  - ・ 462m<sup>2</sup>
  - ・ 竜王下池の南
  - ・ 野倉への登り口

地図



写真



| ため池 No. 59                                                                                                                                                                                                                | 住所                                                                                            | 手塚 551 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| <p>その他（所見等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 竜王上池</li> <li>・ 貯水あり。農業用水に活用していない</li> <li>・ 手塚自治会で管理している（草刈など）</li> <li>・ 山林内にあり</li> <li>・ 土手はしっかりしている</li> <li>・ 越流堰あり</li> <li>・ 東側（下流側）に放棄水田数枚あり</li> </ul> |                                                                                               |        |
| <p>地図</p>                                                                                                                               | <p>写真</p>  |        |

| ため池 No. 60                                                                                                                                                                                                        | 住所                                                                                             | 手塚 94 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| <p>その他（所見等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所有者により管理がされている</li> <li>・ 476㎡</li> <li>・ 取水装置も埋設されている（ビニール管とバルブ）</li> <li>・ 山林に出口にあり</li> <li>・ 貯水状況であるが、下流の所有水田は山田新池から来る水で足りており、積極的に使用はされない</li> </ul> |                                                                                                |       |
| <p>地図</p>                                                                                                                      | <p>写真</p>  |       |



## ため池 No. 61

住所

山田 588

- その他（所見等）
- ・貯水あり（満水）
  - ・外周は雑木しげる
  - ・山林の下端
  - ・357m<sup>2</sup>

地図



写真



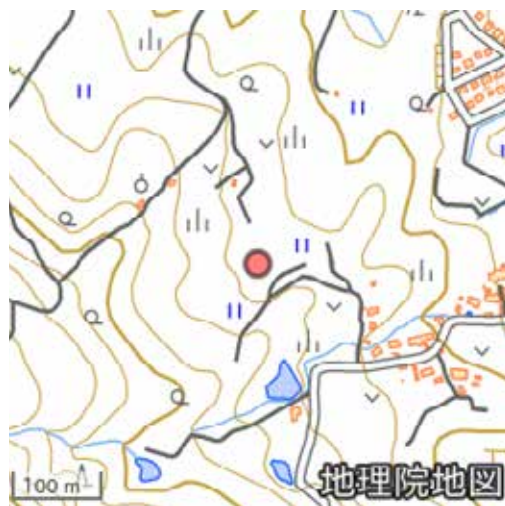
## ため池 No. 62

住所

山田 732

- その他（所見等）
- ・少々水たまる
  - ・外周に雑木繁茂
  - ・476m<sup>2</sup>

地図



写真



|                                                                                                                                |                                                                                           |        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| ため池 No. 63                                                                                                                     | 住所                                                                                        | 山田 737 |
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・少々水たまり</li> <li>・外周草木繁茂</li> <li>・土手は残る</li> <li>・247m<sup>2</sup></li> </ul> |                                                                                           |        |
| 地図<br>                                       | 写真<br> |        |

|                                                                                                            |                                                                                            |             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| ため池 No. 64                                                                                                 | 住所                                                                                         | 富士山 1946- 口 |
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理されている</li> <li>・水が十分にある</li> <li>・良質的な農業用貯水池</li> </ul> |                                                                                            |             |
| 地図<br>                  | 写真<br> |             |



ため池 No. 65

住所

富士山 2010-2

その他（所見等）

- ・水がある
- ・実質的な農業用貯水池

地図



写真



ため池 No. 66

住所

富士山 4770-1

その他（所見等）

- ・灌水用貯水槽又は池

地図



写真



## ため池 No. 67

住所 古安曾 1428

- その他（所見等）
- ・ 塩田平土地改良区で改修している
  - ・ 下流沢田用地

地図



写真



## ため池 No. 68

住所 保野 433-1

- その他（所見等）
- ・ ため池と思われる
  - ・ 塩吹池の上段に道路をはさんだ位置にある
  - ・ あまり灌漑用に利用されてはいないようだが、ため池としての設備は備えている

地図



写真





## ため池 No. 69

住所 前山 302-1

- その他（所見等）
- ・ 沢筋を塞ぎとめて造られている
  - ・ 草繁茂
  - ・ 前山寺墓地の上流端部
  - ・ 貯水あり（少々）
  - ・ 越流堰あり
  - ・ 東側と南側が山林となっている。

地図



写真



## ため池 No. 70

住所 古安曾 1512

その他（所見等）

地図



写真



## ため池 No. 71

住所 富士山 4438-2

その他（所見等） ・ 灌水用貯水槽（個人）

地図



写真



## ため池 No. 72

住所 富士山 4625- 口

その他（所見等） ・ 灌水用貯水槽（個人）

地図



写真





## ため池 No. 73

住所 富士山 3460-3

その他（所見等） ・ 灌水用貯水槽（個人）

地図



写真



## ため池 No. 74

住所 富士山 3183-2

その他（所見等） ・ 灌水用貯水槽（個人）

地図



写真



## ため池 No. 75

住所

古安曽 1259-2

その他（所見等） ・ 灌水用貯水槽（個人）

地図



写真



## ため池 No. 76

住所

手塚 1116-7

その他（所見等） ・ 個人の池  
・ 畑作用と思われる

地図



写真





## ため池 No. 77

住所

富士山 1961-20

その他（所見等）

- ・ 沢に造った池
- ・ 出口に水門あり
- ・ 草木に覆われているが、一部水あり
- ・ 現在は調整池の機能がある

地図



写真



## ため池 No. 78

住所

手塚 737-3

その他（所見等）

- ・ 全体に竹繁茂
- ・ 舌喰池の西側、市道の北側
- ・ 竹林内に池跡あり

地図



写真



|                                                                                                                       |                                                                                           |        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| ため池 No. 79                                                                                                            | 住所                                                                                        | 山田 584 |
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 笹竹茂る</li> <li>・ 水なし</li> <li>・ 土手は残っている</li> <li>・ 山林の下端</li> </ul> |                                                                                           |        |
| 地図<br>                              | 写真<br> |        |

|                                                                                                                          |                                                                                            |        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| ため池 No. 80                                                                                                               | 住所                                                                                         | 山田 689 |
| その他（所見等） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 草木茂る</li> <li>・ 土手は残っている</li> <li>・ 水たまりなし</li> <li>・ 山林の下端</li> </ul> |                                                                                            |        |
| 地図<br>                                | 写真<br> |        |



## ため池 No. 81

住所 山田 696

- その他（所見等）
- ・草木が著しく茂る
  - ・土手は荒れている
  - ・水たまりなし
  - ・山林の下端
  - ・湿地状

地図



写真



## ため池 No. 82

住所 山田 941

- その他（所見等）
- ・山林内
  - ・竹木全体に繁茂
  - ・山田神社の東南へ約 110m
  - ・わずかに水溜まる
  - ・土手、かろうじて残る
  - ・山の沢筋に築造

地図



写真



|                                                                                                                                                                     |                                                                                                              |        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| ため池 No. 83                                                                                                                                                          | 住所                                                                                                           | 山田 766 |
| <div>その他（所見等）</div> <div><div><div>・山林化荒廃田の上</div><div>・草木竹繁茂</div><div>・水なし</div><div>・土手は残る</div></div><div><div>・下流土手側に獣除け柵あり</div><div>・昼間も暗い</div></div></div> |                                                                                                              |        |
| <div>地図</div> <div></div>                                                         | <div>写真</div> <div></div> |        |



## 第2節 塩田平における41か所のため池調査

前述したとおり「塩田平のため池を愛する会」によって調査され、まとめられた41カ所のため池についてもここで掲載することとしたい。

### 1 塩田平のため池はどのような目的で造られたのですか？

《米作りに必要な水を得るためです》

塩田は年間降水量が800～900mm（全国平均約1500mm）と、日本でも有数の雨の少ない所で、昔から人々は米作りの水を得るのに大変苦労してきました。産川、尾根川、湯川などの水量は少なく、川に流れる水だけでは水田の一割も潤す（うるおす）ことができません。そこで、ため池を築いて冬から春先にかけて川の水を蓄え、米作りに利用してきました。塩田平は粘土質で保水力が高く、漏水の心配がないことと一帯の傾斜がゆるやかなことがため池築造には有利だったのです。

江戸時代は、上田藩としても財政を豊かにするため新田開発を勧め、そのために「ため池」が必要になったのです。塩田平の農家と上田藩の目的の一致が多いため池を生み出し、維持されてきたのです。

### 2 塩田平のため池はいつ頃造られたのですか？

《平安時代初期から昭和の時代まで造られてきました》

塩田平には条里的遺構がいくつか見つかっています。これが平安時代初期だとすれば、このころから「ため池」造りが始まったと考えられますが、現在その資料は見つかっていません。

戦国時代から江戸時代の元和年間にかけて、塩田は真田氏の領地になりますが、この時代にいくつかの池が改修されたり造られたりしています。この時代の築造は村（自治会）単位に実施されたようです。

ついで、元和8年から宝永3年（1622～1706）までの塩田平は、上田城主として仙石氏が治めました。この間に改修・築造された池が最も多く、記録に残っている大きな池だけで38を数えます。この時代は真田時代と違って、村単位でなく2カ村から数カ村にわたって池の水が使われるように造られています。

ついで、宝永3年から幕末まで松平氏によって上田領内が治められましたが、この時代になると新田開発が進み、真田・仙石氏の時代に改修・築造された池の水だけでは不足するようになりました。そこで、さらに池のかさ上げ工事や新池の築造が行われています。

そうしたことによって、塩田平で300を数えたため池は、現在では三分の一ほどに減っています。

### 3 塩田平のため池の構造はどのようなになっていますか？

《下の図1を見てください》

塩田平のため池の築堤型式（堤を築くときの型式）は、一文字型・コの字型・半円型・円型・長方形型があります。いずれも地形を巧みに利用して造られています。

- ・一文字型は、3方が自然の地形を利用し1方に堤を造るという方法で築かれたもので、「幕宮池」がそうです。
- ・コの字型は、長方形をした池の3方に堤が築かれたもので、「手洗池」がそうです。
- ・半円型の池は、池の3方に半円形に堤を造ったもので、「舌喰池」がそうです。
- ・円型の池は、平地地帯の池を造るのに用いた方法で、「上窪池」がそうです。

堤の断面を見ると、下の図にある「中心はがね」といわれる部分に最も質のよい粘土を用い、池の内側（前腹（まえばら））には、「中心はがね」に次いでよい粘土が使われ、外側には比較的良質でないものが使われています。堤の勾配（こうばい）は、池の大きさや水量によって、また、水圧のかかる場所とかからない場所で多少の違いはありますが、江戸時代には、池の内側は7寸勾配〔底面の長さが一尺（約30cm）とすると高さは七寸（約21cm）の勾配〕、外側は9寸勾配が基準とされています。

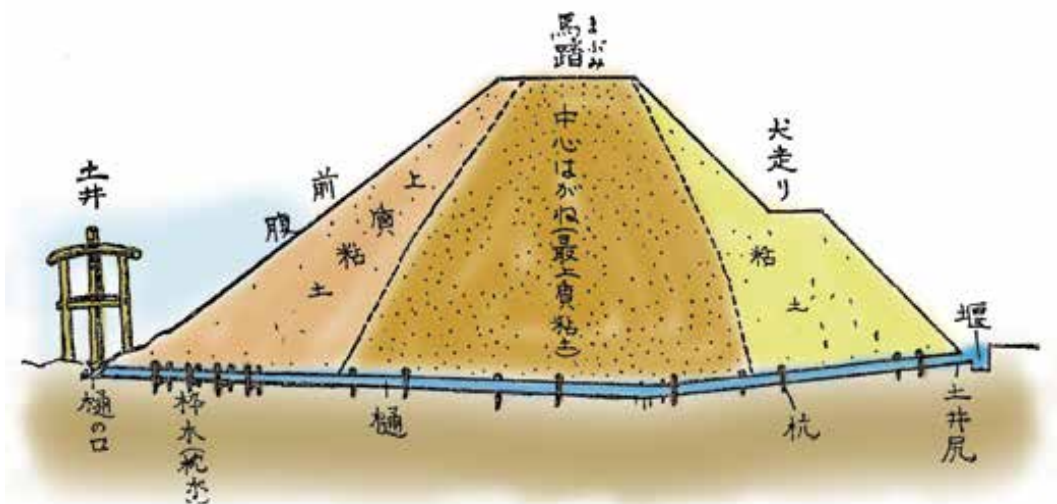


図1 ため池の構造

#### 4 溜めた水はどのようにして田んぼに流すのですか？

《土井（どい）というものを使って池の水を出し、水路を通して各田んぼに入れます》

土井の構造は、図2のように、笠木・立柱・樋の棒・中棧・樋の口などの名前がつけれ、木材は、普通松材か栗材が使われています。樋の伏せ方は、図1のように堤の中心部または樋の口より3分の2くらいのところで「くの字」に折れ曲がって伏せられています。これは樋の材が松材であるため、樋の中に常に水があるようにしておくとう腐らないのです。すばらしい先人の知恵が働いているのです。



図2 築造当時の土井の構造

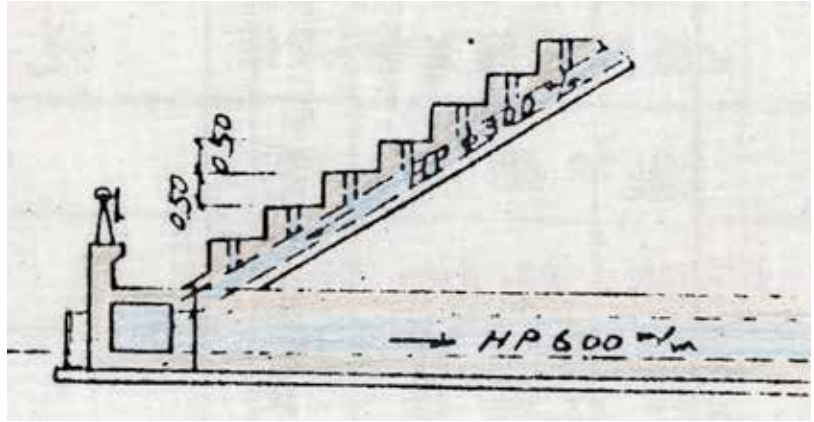
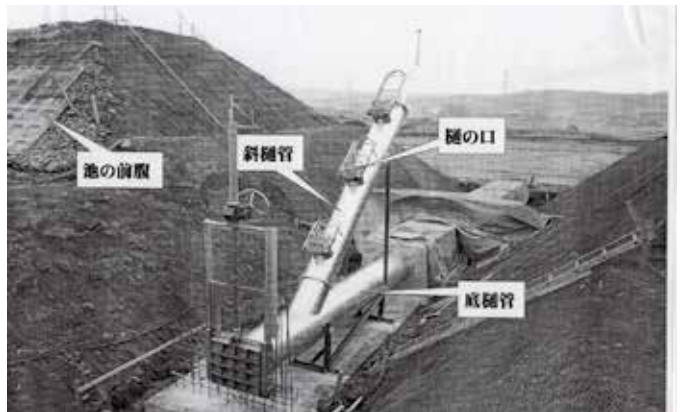


図3 最近の斜樋の構造



#### 5 池はどのようなやり方で造られたのですか？

《池普請（いけぶしん）の記録からみると以下のようになっています》

上田藩の普請の場合は、工事の監督として上田藩から役人が来ました。人夫・扶持米（ふちまい）・工事に必要な諸道具・樋材なども上田藩から出されています。

池の改修や築造の願いが出されると、慎重に吟味した上で許可を出して工事が進められました。敷地が決定すると、基礎工事として、「中心掘」といって地盤の堅い部分まで掘り割ります。つぎに「土井掘り」といって樋を伏せる部分を掘り、樋伏せが終わると、いよいよ築堤が始まります。

土を運ぶ時に使う簀（もっこ）も縦2尺5寸・横2尺7寸と定められ、奉行が吟味したものが使われました。もっこで運ばれた土は堤の部分に平らに敷かれ、その上を「かけや」や「たこ」を持った人夫が4列か6列縦隊で70～80人が並び「あ、どっこいしょ、ありわさあーの、よいとこな」の掛け声にあわせて「かけや」や「たこ」と脚で土を踏みながら、行ったり来たりして築き上げていきました。

1702年（元禄15）の記録によると、保野の塩吹池の大修理では、人足は最初に1万人、さらに追加の1万人を加えて計2万人。別に庄屋小頭、芝切・材木受付などの人足が3千百余人を要し、これらの人足は領内にお触れが出て、全域から集められました。



上本郷薬師堂に残されていた「もっこ」と「たこ」



### 6 その後何百年もの間どのように管理・補修されてきたのですか？

《各池は、かさ上げや拡張を繰り返し、何年かおきに池の内面（前腹が波で少しずつ削られ崩されていく）を補強してきました》

ため池ができた後も改修は切実な問題で、村にとっては大事業でした。「土手が悪くなって水がたまらないのでたいへん困っています」「土手の前腹の土が池水の波でだんだんはぎ取られて、土手の厚さが薄くなり水がたまりません」「山崩れで本土井のわきまで埋まってしまい、その後、少しの雨でも土砂が押し出してたまる水が少なくなりました」等々の願いが藩に出されています。

許可が出ると、池築造の時のように、多くの人夫、物資、資金をかけて改修工事が行われました。何百年もの間、このようにしてため池は地域の人々によって維持管理されてきました。

そして早魃（かんばつ）が続くと村中集まって雨乞いをしました。また、いつもは仲の良い者同士が水争いの喧嘩になることもありました。村単位の水争いに発展したこともあったそうです。

### 7 その他ため池にまつわること

○ 昭和30年代から40年代初期までは、冬には子どものスケート場になりました。



○昭和40年代から50年代初期まで、鯉の養殖が盛んに行われ、「塩田鯉」の名が全国に知れ渡りました。



○雨乞いのため、ため池の土手の上で塩田平一斉に火を焚くことや、百八手といって、竹の棒の先に麦わらをしばりつけたたいまつに火をつけて「あーめふーらせ、たんまいな」と言いながら、ため池の土手の上をまわって歩くことなどをしました。また、大姥様（おおばさま）や地蔵様の像を池の水に漬けて雨乞いをした地区もありました。



また、夏の水浴び（水泳）場所としても大いににぎわいました。すり鉢状の池で、しかも表面と下では水温が随分違うので危ないことをしたものです。でも、先輩が心得ていて上手に指導してくれました。

ただ、やはり水難事故もあり、池によっては水神様を祀って、子どもの水難事故撲滅を願いました。



## 01 夫婦池（めおといけ）

### 1 名前の由来

今は一つの池になっている夫婦池ですが、かつては真ん中に境界土手があって、二つの池に区切られていました。そのことから夫婦池と呼ばれました。時代は不明で、後ほど境界土手を削り取って統合されたのが今の池です。名称は昔のままの夫婦池と呼ばれているのです。

### 2 夫婦池の位置

所在地は「上田市下之郷字迎原（むかいばら）」地籍にあります。この池は、生島足神社から御旅所に通じる御柱道を横断する大鳥居を過ぎて、直ぐ左折して約100mの右側にあります。周囲には下之郷東山を背景にした小さなため池群が散在していますが、その中でも比較的大きな池が夫婦池です。【下記の航空地図参照】



夫婦池の全景 向こうに見える生島足神社の大鳥居



圃場整備内の夫婦池の位置 上田女子短期大学附属幼稚園提供 川崎航空写真社撮影（高度約1,000m）1982年

### 3 規模（ため池データベース 2018年4月現在）

|         |                         |
|---------|-------------------------|
| 築 造 年   | 1 6 1 1 年（慶長 16）        |
| 総 貯 水 量 | 5, 0 0 0 m <sup>3</sup> |
| 満 水 面 積 | 6, 0 0 0 m <sup>2</sup> |
| 提 高     | 3 m                     |
| 提 長     | 1 4 5 m                 |
| 灌 溉 面 積 | 5 h a                   |



全国ため池百選（農水省）説明看板／NO.1 夫婦池

### 4 塩田平東山ため池群・水利慣行

築造当初は東山降雨の絞り水だけを集めた池なので、旱害被害は塩田平で最も過酷でした。依田川導水が完成するまでは、数年に一度の旱魃被害に襲われるので死活的なため池でした。この様な大小のため池は、「東山ため池群」と呼ばれ、東山と尾根川の間には今でも40個ほどあります。この地区ではその苦闘の歩みからの教訓から学び、今では下之郷耕作組合に灌漑の権限を委任していますので、安心して米づくりが出来るようになりました。

### 5 特記事項

- 土手に「水神祠」が鎮座していましたが、何時の頃か行方不明になりました。心を痛めた専業農家の方が最近「祠」を新調して、祭典を復活させました。
- 当池は何時も水鳥類が多く生息して生物相が豊富のようで、上田市天然記念物・マダラヤンマも飛び交って、その種保存に貢献しています。
- 土手は葦化していますが、毎年の春先には焼却処置（土手焼き）をしていますので、ため池植物群落はかろうじて維持されています。
- 下之郷東山を背景に見渡せば、完備された圃場整備のため池・水田群、生島足神社の大鳥居、前方の塩田平、それらを網羅した里山景観は非常に美しく、写真家に好まれています。ここは、日本遺産認定「太陽と大地の聖地」の直下でもあります。



夫婦池の水神様



## 02 瓢 箆 池 (ひょうたんいけ)

## 1 名前の由来

瓢箆池は、その名の通りの「瓢箆型」の形から名づけられました。上田市自然運動公園の造成(駐車場用地)の際、かなり埋められてしまったので、今は、瓢箆型の面影は全く見られませんが、以前の名で呼ばれています。

## 2 瓢箆池の位置

所在地は、「上田市下之郷字中布敷」(なかぬのしき)地籍にあります。この池は下之郷東山に降った雨を漏らさずに利用するので、水集めには特別に苦労しました。池は自然運動公園看板〔写真①〕の真後ろに位置し、運動広場・体育館と駐車場・流水プールに挟まれ、周りを樹木に被われた場所〔写真②〕にあります。

## 3 規模(ため池データベース 2018年4月現在)

| 築 造 年   | 江戸時代以前にあったが、<br>1709年(宝永6)に築造 |
|---------|-------------------------------|
| 総 貯 水 量 | 1, 650 m <sup>3</sup>         |
| 満 水 面 積 | 6, 000 m <sup>2</sup>         |
| 提 高     | 3 m                           |
| 提 長     | 105 m                         |
| 灌 溉 面 積 | 2 h a                         |

## 4 水利慣行ほか

下之郷東山近辺の字「布引・三郎山・十火矢」地籍の水田は旱害常襲地でしたので、瓢箆池は灌漑用として大変に重要視されてきました。

しかし、1965年(昭和40)に大学用地に水田が提供されて以来、灌漑面積が激減して権利者は6戸になりました。今はさらに減少して利用者は2戸(字三郎山の水田)になりましたので、瓢箆池の灌漑用水としての役割は低くなっています。

## 5 瓢箆池の新しい価値・役割の誕生

灌漑機能の低下した瓢箆池ですが、それに替わって「新しい価値・役割」が誕生しました。それは、【里山を背景にした自然運動公園に位置づけされた池】です。

## (1) 市民の集い・憩いの場としての「瓢箆池」

広葉樹林に被われた池堤には「休憩用ベンチ」や「観賞用藤棚」「飲料水」が設置されて、市民が自由にくつろぐ広場となっています〔写真③〕。この棚の下で一家団欒し、またヴァイオリン演奏や観察会なども行われています。

## (2) 生物種の保全・繁殖の場としての「瓢箆池」

瓢箆池の周囲は自然が豊かで意識的に護られています。すぐ横の三郎川には「蛍」が乱舞して注意・保護の看板があり、池土手には「昆虫・鳥類・小動物」の生息看板が掲げられています〔写真④〕。ここは、いつも湛水状態のため池ですので、「水辺の生きもの・魚類たち」が安心して生存・繁殖できる場でもあります。

極めつけは、トンボの宝石と呼ばれる「市指定文化財(天然記念物)マダラヤンマ」が多数生息しています。さらには頻繁に水鳥が飛来し、最近では貴重な「カワセミ」の生息が確認されて写真家の撮影スポットにもなっています。

## (3) 里山学習の場としての「瓢箆池」周辺

ここはまた、「里山の動植物、ため池の生物、人間の諸活動」が絶妙なコンビネーション(組合せ)を形成している典型的な場(「里山生態系」)です。したがって、【自然・里山学習の場】として貴重であり、すでに有効に活用されています。



写真①『自然運動公園正面案内板』直ぐ後ろに「瓢箆池」存在



写真②生い茂る樹木に囲まれた常時湛水の「瓢箆池」全景



写真③瓢箆池の土手堤に設置された「ベンチ・藤棚・転落防止柵・飲料水」など



写真④豊かな生物相を説明する瓢箆池にある看板

## 03 迎原下池（むかいはらしもいけ）      04 迎原上池（むかいはらかみいけ） 05 宮原上池（みやはらかみいけ）      06 鳥居上池（とりいかみいけ）

下之郷東山界隈には小さな「ため池群」があります。依田川導水の恩恵、圃場整備によって、以前に比べて激減していますが、ここでは、塩田平土地改良区台帳の41の池に含まれている下記の4つの池について説明します。

### 1 4池の概要(ため池データベース 2018年4月現在)

| 名 称  | 所在地    | 総貯水量              | 満水面積                | 堤高 | 堤長  | 灌漑面積 | 築造年   |
|------|--------|-------------------|---------------------|----|-----|------|-------|
| 迎原下池 | 下之郷字迎原 | 560m <sup>3</sup> | 1,000m <sup>2</sup> | 2m | 58m | 2ha  | 1711年 |
| 迎原上池 | 下之郷字迎原 | 980m <sup>3</sup> | 1,000m <sup>2</sup> | 3m | 33m | 2ha  | 1690年 |
| 宮原上池 | 下之郷字宮原 | 980m <sup>3</sup> | 1,000m <sup>2</sup> | 3m | 72m | 2ha  | 1711年 |
| 鳥居上池 | 下之郷字宮原 | 900m <sup>3</sup> | 1,000m <sup>2</sup> | 3m | 75m | 2ha  | 1630年 |

### 2 各池の特徴など

「4池」とともに灌漑受益面積は2haです。かつて灌漑利用戸数は各6戸でしたが、今は「宮原上池」だけが利用されています。しかしながら、これらの池は、「マダラヤンマ」(市天然記念物)などの生息可能池でもあります。以下、各池の「特徴」と「写真」を紹介してみます。

◎迎原下池：現在は灌漑利用がされておりません。

◎迎原上池：池水面にヨシ類が繁茂し、灌漑利用は行われていません。

◎宮原上池：生島足島神社・御旅所の西側地籍(字宮原)にあり、灌漑に利用されています。

◎鳥居上池：生島足島神社・大鳥居の南方にあり、灌漑利用はありません。

### 3 各池の全景写真



迎原下池



迎原上池



宮原上池



鳥居上池

4 まとめ 塩田平で最も過酷な旱害常習地の「ため池群」でしたが、今では依田川導水の恩恵を受けて、これらの池の必要性は激減しました。わずかに「宮原上池」だけが活用されている現状です。



## 07 浅間池（あさまいけ）

## 1 池の名称由来

大吹池（おおふきいけ）改修に当たり、下之郷耕地整理組合の設立が認可された際、その役員会での祝宴が盛り上がり、その場で「浅間池」（あさまいけ）の名称が決められました。これは、南側の里山山頂に鎮座している「浅間社」に由来したものでした。

## 2 浅間池の地理的位置

所在地は「上田市下之郷字下雲雀」（しもひばり）地籍にあります。当池は浅い山の下之郷東山麓で塩田平でも旱魃被害の常襲多発地帯でした。

昭和50年代から誘致された「リサーチパーク」の西南に位置し、現在はその公園的様相をも呈しています。



浅間池の全景

## 3 規模（ため池データベース 2018年4月現在）

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 総貯水量 | 41,340 m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 6,000 m <sup>2</sup>  |
| 堤高   | 9 m                   |
| 堤長   | 202 m                 |
| 灌漑面積 | 25 ha                 |

## 4 水利慣行

当初は下之郷東山から流れる「絞り水」に依存していましたが、水量が極めて少なく、非常に難儀していました。その苦闘の末に、現在は「依田川」から北線が新設（昭和16～39年）され、水量も確保されるようになりました。



池土手を「かけや」で叩き突き固める処女会の活躍（浅間池工事）

## 5 浅間池の築造・改修の歴史

## (1) 概要

- 1771年（正徳元） 浅間池の前身「大吹池」（辰野藤左衛門外14名持池）築造
- 1933～1940年（昭和8～15） 大吹池の拡張工事を着工・竣工（灌漑面積21町歩）
- 1969～1971年（昭和44～46） 県営事業として波止ブロックの護岸工事の着工・完了

## (2) 「大吹池」から「浅間池」への改修工事の歩み（下之郷に残る記録より）

|             |       |                                                                               |
|-------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 1933年（昭和8）  | 7月28日 | 長野県耕地課岩村田出張所の井出三津雄技手より、新池築造候補地の調査が行われた結果、大吹池を拡張（水量10倍）することになった。               |
| 〃           | 11月5日 | 改修に当たり、大吹池代表から3か条の申し入れ有り（①従来の受益者の必要水確保の事、②耕地組合費用の負担はしない事、③決壊等の場合は収穫賠償保障をする事）。 |
| 1934年（昭和9）  | 3月3日  | 下之郷耕地整理組合の設立が認可された。                                                           |
| 〃           | 3月18日 | 役員会祝宴の席にて、一同の希望により「浅間池」と命名された。                                                |
| 〃           | 3月20日 | 午前9時から公会堂にて起工式が挙行された。                                                         |
| 1940年（昭和15） | 5月11日 | 下之郷浅間池、改造工事竣工する（灌漑面積21町歩）。                                                    |

## 6 新たに発掘された「大吹池⇒浅間池」の誕生伝承

※本調査は1994年（平成6）、当時85歳の下之郷の古老・依田英夫氏（故人）からの聞き取りです。

- (1) デラボッチが投げた「黄金石」（こがねいし）が落ちて出来た「大吹池」  
超巨人（デラボッチ）が、大石を保福寺峠から須川に投げたが、途中の下之郷に落ちてしまい、その「窪地」が大吹池になったのだそうです。
- (2) 浅間池築造の際、大吹池から移動・安置した黄金石を恐れ・崇めた村人たち  
不思議にも落下した黄金石は池の水を全部吸ってしまっていて困り果てた村人たちは、黄金石を近くの畑に移動させました。そして村人たちは「絶対にいびらない！」と約束し、移動を厳禁しました。もしも破ると「村中に疫病が流行る」と恐れられました。
- (3) 地元住民により、東塩田小学校に移転・安置・寄贈された「黄金石」（円形庭園の庭石）  
黄金石については、『東塩田小学校百周年記念誌』に、昭和38年5月12日「庭石寄贈、伊藤実氏他15名」と記されています。所有者の関隆明様宅には「感謝状」と「写真」があります。

## 08 居守沢大池（いもりさわおおいけ）

### 1 所在・地理的位置

所在地は上田市富士山上居守沢です。塩田川久保峠の登り口の集落（久保）出口より長野大学に通じている道を北へ 800m 程行った道の右側にあります。池は、東山の斜面に築造されており、周囲は果樹園と森林になっています。西側の土手下から、東山観光農園の「イチゴ」のハウスが広がっています。



### 2 名前の由来

かつては上居守沢には居守沢大池の他に数個の小さな池がありました。上居守沢の池とすれば大きい池なので、この池名が付いたのだと思われます。

### 3 規模（ため池データベース 2018 年 4 月現在）

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 総貯水量 | 3, 000 m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 4, 000 m <sup>2</sup> |
| 堤高   | 3 m                   |
| 堤長   | 113 m                 |
| 灌漑面積 | 3 ha                  |

### 4 築造と改築の歴史

築造 1630 年（寛永 7）  
改修 1900 年（明治 33） 波止護岸、余水吐改修、取入口改修

### 5 現在の状況

かつては、山から流れ出た水を取り入れて池を満水にしていました。1964 年（昭和 39）、依田川導水北線の水路改修工事が完了してからは、依田川導水を取り入れるようになりました。

この水の受益戸数は 9 戸でしたが、平成 10 年代の初め、7 戸の農家が水田を東山観光農園に貸与し、それ以後は、この水の受益戸数は 2 戸だけとなりました。

### 6 居守沢大池とマダラヤンマ

マダラヤンマの雄は、瑠璃色に輝いていることから、「わが国で最も美しいトンボ」とも、また、「飛ぶ宝石」とも言われています。

東塩田地域のため池一帯の自然環境がマダラヤンマの生育に適しており、この居守沢大池も、周囲が果樹園と森林になっており、池にはアシやガマなどの挺水生物や藻類が繁茂し、トンボにはたいへん恵まれた環境の池です。

「マダラヤンマ観察会」が何度もこの池で行われています。

また、トンボ愛好家による採集や、植物が踏み倒されることのないよう、トンボを愛する住民や団体が保護活動を行っています。マダラヤンマ保護研究会の方のお話によると、「保護活動でマダラヤンマはわずかに増え、すぐには個体数が減らない程度になった。」とのことでした。



居守沢大池周辺の地図



撮影：早川慶寿氏



## 09 中 池（なかいけ）

## 1 池名の由来

中池ができた頃の下之郷の集落は、当時の上田往還（上田から長久保宿へ通ずる道。生島足島神社の西側、現在の主要地方道上田丸子線より西約80m）沿いにあった西村区域と、少し離れた東村区域に人家が集まっていました。その中間の地で生島足島神社のお宮池より一段高い場所に造られたことから、「中池」と呼ばれるようになったのではないかと思います。



## 2 地理的位置

主要地方道上田丸子線沿で生島足島神社から南へ150mほどの集落の中にあります。尾根川の伏流水が流れている位置にあたり、太古の昔からここは清水が湧き出していたであろう場所になります。上流部に下之郷新池と清水池が、下流部にお宮池があります。

## 3 歴史

(1) 原形の成立年代は不明。おそらく湧き出る清水を利用して、お宮池より少し高い場所で小さな池を造り、お宮池下流域及びその東側に新田を開発したと考えられます。

(2) 1624年（寛永元）築造され、その後改修をくり返してきました。

昭和58年の工事は主要地方道上田丸子線の拡幅改良工事のため（平井寺トンネル開通による交通量増加の対応として行われました）、西側堤体の一部が削り取られ道路に沿って石積みとなりました。また、池の南半分（3059㎡）を新池のしゅんせつ土（約4500㎡）で埋め立てました。そして埋め立て地の池沿いには市道を新設し、他は県道改良工事の代替地として地権者に提供され畑になった外に、地区生活改善センターやゲートボール場も設置されました。



埋め立て前の中池（宮入松人氏）  
池の奥側（南側）で埋め立てが始まっている

## ※中池の主な工事

|             |                           |
|-------------|---------------------------|
| 不明          | 原形の小さなため池があったと思われる        |
| 1624年（寛永元）  | 築造したと伝えられている              |
|             | 改修をくり返してきた                |
| 昭和30年代      | 尺八型取水設備への改修               |
| 〃           | 余水吐工事、波除護岸工事、池の周りにフェンスの設置 |
| 1983年（昭和58） | 池の南半分埋め立て工事               |
| 2010年（平成22） | 池の西部堤体漏水対策工事              |

## 4 規模（ため池データベース 2018年4月現在）

|      |        |
|------|--------|
| 総貯水量 | 6,000㎡ |
| 満水面積 | 5,000㎡ |
| 堤高   | 3m     |
| 堤長   | 91m    |
| 灌漑面積 | 5ha    |



区民で魚捕り（埋め立て前）（横関晴弘氏）

## 5 エピソード

※ 夏休み中子どもたちは池で水泳をしました。（小学校にプールができたのは昭和35年です）小学生低学年は中池で、高学年になると新池で泳ぎました。最初は土井まで泳ぐことが目標で、ようやく土井までたどり着くとつかまって一休み、また勇気をだして岸边までかえってきました。土井は飛び込み台としても使われました。池の横断ができるようになると一人前と認められました。当時は下之郷だけでなく他の地区の子どもたちも、自分の地区の池で水泳をしていました。

※ 池には鯉や鮒やエビなどがいて子ども達はいつでも釣りをしていました。大人も6.7月には鯉釣りをしました。夏の終わりには鯉、鮒、エビ等の漁獲権利を入札で払い下げました。権利者は秋の終わりには池の水を払い、漁獲物は区民や業者に販売しました。

※ 冬はスケート場になりました。昭和30年代中ころまで中池でも新池でもスケートが盛んで子どもたちが大勢集まりました。特にお宮池は早くから凍り、西側の日陰は相当おそくまでできました。その後気候変動や水質の変化等で氷の状態が悪く危険なため、池でのスケートはできなくなりました。

## 10 下之郷新池（しものごうしんいけ）

### 1 池名の由来

下之郷の尾根川西側には池が三つあり、新池は最も新しく造られた池なので「新池」と呼ばれたのではないかと思います。お宮池は形式的に古い池であり、塩田平ではかなり古い時代からあったと考えられます。中池が造られたのは1624年（寛永1）で新池より18年ほど前です。



### 2 地理的位置

主要地方道上田丸子線沿いで生島足島神社から450mほどの位置にあります。古くは上田から中山道の長久保に向かう重要な街道でした（当時は現道より西の古い道から新池の西南部より池に登り南土手の上を通過して石神の荒屋へ）。現在は三才山トンネルを経て松本方面へ通じる重要な道路です。尾根川の伏流水が流れている部分にあたり、太古の昔からここは清水が湧き出していた場所でした（上流部に清水池が下流部には中池、お宮池と続きます）。新池は下之郷集落西側の広い水田地帯を潤しています。

### 3 歴史

(1) 原型の池の成立年代は不明。おそらく尾根川の伏流水が湧き出る清水をためていた小さな池があったと考えられます。

(2) 1642年（寛永19）築造されたと伝えられています。1716年（享保元）大改修工事が行われ約4倍の大きさになりました。以後改修築工事をくり返してきました。

尾根川からの取水は来光寺池でとった残りの水だけだったので常に水には悩まされてきました。水不足になった時は来光寺池から水を分けてもらえるよう昔から約束があり、今でも来光寺池水利組合に維持管理費や工事の折には一部負担金を納めています。

(3) 1922年（大正11）堤体改修工事が行われました。（内腹の改修工事、右写真参照）



大正11年 内腹の改修工事（淵田寛氏）

※下之郷新池の主な工事

|             |             |                            |                |
|-------------|-------------|----------------------------|----------------|
| 1642年（寛永19） | 築造されたと伝えられる | 昭和30年代                     | 尺八型取水設備へ改修     |
| 1716年（享保元）  | 改修工事4倍の大きさに | 〃                          | 波除ブロック、フェンス    |
|             | その後何回も改修工事  | 1983年（昭和58）                | 池の浚渫（中池埋め立てに）  |
| 1922年（大正11） | 内腹の改修工事     | 2017年（平成29）<br>～2021年（令和3） | 耐震化工事（塩田平初の工事） |
| 1944年（昭和19） | 洪水吐増設工事     |                            |                |

### 4 規模（ため池データベース 2018年4月現在）（耐震化工事後）

|      |                      |                      |
|------|----------------------|----------------------|
| 総貯水量 | 74,000m <sup>3</sup> | 74,000m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 36,000m <sup>2</sup> | 36,000m <sup>2</sup> |
| 堤高   | 7m                   | 6.57m                |
| 堤長   | 431m                 | 412m                 |
| 灌漑面積 | 32ha                 | 34ha                 |

### 5 水利の慣行

下之郷地区は駒瀬川・尾根川を境に東側と西側で水系が違います。現在の東側は浅間池と北の入池を主な水源に、西側は新池・中池・お宮池を水源として水を供給しています。昔から、下之郷は池の貯水量に対して水田面積が他の地区よりかなり多いので、水が足りませんでした。そこで、大事な水を効率的に使うために、水田の水管理は昔から伝統的に行われてきた年間を通して役水です（水利の係がすべての田の水を管理します。自分の田でも勝手に水を入れることができません。必ず係にお願いして順番に水を入れてもらいます）。

尾根川より西側の田に5月田植えのために水を入れる時には、新池と中池とお宮池の水を同時に抜いて一気に田に水を入れます。一通り田植えが終わると、中池とお宮池には新池から水を補充しながら新池の水でまかいます。当然水は足りませんので、ひと月に4日間割り当てられた依田川から来る水を池に溜めておきます。

尾根川より西の下之郷地区水田で下之郷新池の水が届かない場所があります。そこは来光寺池から水を供給してもらっています。3歴史の項で記した水利に関した維持管理費とは別に、その地区の耕作者は来光寺池水利組合に水利費を支払っています。



## 11 清 水 池（しみずいけ）

## 1 池名の由来

清水池のある場所の小字名は“上清水”です。また、現在も池の中に清水が湧き出しています。

このことから清水池という池名がついたのではないかとされています。

## 2 地理的位置

東塩田小学校の北東、校地に接した位置にあります。ここは、尾根川から西に150メートルほど離れた、かつては尾根川が流れていたかもしれない位置にあり、尾根川の伏流水が清水となって湧き出る場所です。



## 3 歴史

(1) 上記の状況からかなり古い時代に造られた池であろうと推測されます。（尾根川伏流水の湧き水を利用した池として、この池から下流方向に下之郷新池、中池、生島足島神社の宮池があります。）

(2) 1807年（文化4）池の修復記録があります。

池の形はほぼ円形に見えますが、自然の地形を巧みに利用し、北側に堤を積み上げて造られています。最初はごく小規模の池で、後に増築され今の池になったものと思われます。この池は比較的小型の池です。

## 4 その他

かつては池の底からの湧き水と、東南側から尾根川の水を取り入れていました。現在は池の西南にある来光寺池の水路を利用して取り入れていました。尾根川には今も取り入れ口が残っていますが、改修されて現在は下之郷新池の取水口として使われています。この池が潤してきた田んぼの水は、現在はほとんど来光寺池からの水で間に合っています。

昭和20～30年代末には、冬になるとスケート場として利用されていました。その他学校の子供たちの格好の遊び場でもあり、水が少なくなると小魚を捕ったりカラスガイなどを採ったりして遊びました。最近は危険という理由で、子ども達が池に近づくことは止められ、池周辺の豊かな自然環境が遊びや学びに生かされにくくなってきています。



昭和40年代には塩田鯉の生産が盛んになり、この池も鯉の養殖池として利用され、大量の鯉が出荷されていたこともあります。

※1812年（文化9）当時の庄屋小野家の古文書（壬申歳日記）に、興味深い記述があります。

6月7日 手土産に岩魚を持って行って川邊儀兵衛様に投網を注文した。代は 壱歩と約束してきた。

6月25日 石神組頭助右衛門は帰りに川邊儀兵衛様へ寄って、網が出来たので持ってきてくれた。

6月25日 清水の池でフナがとれるというので行った。（投網で）ほどほどにとって帰った。

（注）川邊儀兵衛は網打ち衆でした。殿様に客が来ると魚をとって出しました。侍は特技があればそれを生かして内職をしていました。

※小さい池ですが環境がよいのか、カイツブリやカモの仲間が住み着いています。冬になるといろいろな種類のカモも飛来します。

## 5 清水池の変遷

|            |                                |
|------------|--------------------------------|
|            | 築造年は不明、原始的ため池。周辺から弥生式土器が出土している |
| 1807年（文化4） | 池の修復をした。                       |
|            | 定期的に土手の改修工事を行っています             |
| 昭和40年代     | 土井改修工事をしました（土手を掘り割り斜樋に交換）      |
| 昭和50年代     | 東から北土手に波止め護岸工事をしました            |

## 6 規模（ため池データベース 2018年4月現在）

|      |                      |
|------|----------------------|
| 総貯水量 | 6,000 m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 5,000 m <sup>2</sup> |
| 堤高   | 4 m                  |
| 堤長   | 132 m                |
| 灌漑面積 | 5 ha                 |

## 12 久保池 (くぼいけ)

### 1 所在・地理的位置

所在地は上田市富士山上刈又です。久保峠への登り口の集落(久保)入口より南へ 100m 程行った道の左側にあります。「ため池」が比較的小型であり、平地の他の池のような堤の盛り上がりの高さが周囲の田や畑の土手と同じですので、遠くからでは池を見つけないで済みます。



### 2 名前の由来

窪みのある土地に築いた池なので、最初は「くぼ池」と言っており、やがて近くの集落「久保」を取り「久保池」と改名したとの説と、久保集落の人が中心となり築いた池なので、最初から「久保池」と言われていたとの二つの説があります。

### 3 歴史

(1) 「久保池」は戦国時代末期の 1576 年(天正 4)に築造されたと伝えられています。塩田平には「久保池」以前にも小さな「ため池」がかなりあったと考えられていますが、塩田平の「ため池施設台帳」に登録されている 41 の「ため池」の中では最も古い時代に築造されたと記録されています。

(2) 1967 年(昭和 42)波除護岸工事が「久保池」全面に行われました。

(3) 1994 年(平成 6)に土井抜きが大変なので、サイフォン取付工事が行われました。

### 4 管理

富士山財産組合が富士山地区にある三つの大きな池(北の入池・水沢池・砂原池)と同様に久保池も管理しています。堤の草刈りは下組自治会が行なっています。

久保池周辺の地図



### 5 水源

「ため池」は窪地の中に築造されているので、築造された頃は、周囲の水を入れて「ため池」に水を満たしていたものと考えられます。

その後大規模な改修もなく、古い形を今に伝えている池です。現在は北の入池の水も入れています。北の入池に「依田川導水」が入るようになり灌水不足の心配が少なくなりました。1994 年(平成 6)の大旱魃の年には、旱魃に困窮していた下之郷の人々の水田に、二昼夜連続で「久保池」から大きな水中ポンプで汲み上げ、水田を水で潤すことができました。

### 6 その他

昭和 20 年代子どもたちがスケートをしました。

昭和 30 年代から平成の初め頃まで塩田鯉を養殖していました。

塩田鯉の養殖後、草魚を放しましたが、自然消滅してしまい長く続きませんでした。

久保峠登り口の道路より久保池の堤を望む



### 7 規模(ため池データベース 2018 年 4 月現在)

|      |                      |
|------|----------------------|
| 総貯水量 | 5,000 m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 5,000 m <sup>2</sup> |
| 堤高   | 3 m                  |
| 堤長   | 80 m                 |
| 灌漑面積 | 5 ha                 |



## 13 北ノ入池（きたのいりいけ）

## 1 地理的位置

北ノ入池は塩田平の最東部、ニツ木にあり、県道別所丸子線沿い、ニツ木峠入口の山麓に築造されています。

## 2 自然環境

塩田では、沢山池に次いで大きく、池の東側にはアシが生え、淡水魚もたくさん住んでいます。また、南側の耕地と山林が北ノ入池とともに「猟銃禁止区域」に指定されていることもあって、水鳥は勿論、山野の鳥が数多く飛来します。

2013年(平成25)9月末に、国の特別天然記念物のコウノトリが兵庫県豊岡市(上田市の姉妹都市)から当地に飛来し、話題になりました。



ドジョウをついばむコウノトリ  
写真提供 小川稔氏

## 3 観光

池端には、木の柵に似せたコンクリートの柵があって、ベンチや東屋が設置されていて、小公園散策の場となっています。池の周りにも遊歩道が整備されています。

池の入口には、県道に通じる駐車場もあり、車で気軽に鳥の観察等を楽しめる池でもあります。



自然豊かな北ノ入池

## 4 管理面

現在、北ノ入池は、富士山財産管理組合が管理しており、3～4年に一度の割合で池替え(土砂払い)を行い、池の保全に努めています。

なお、土手の草刈りは年に二度(春・秋)富士山中組・下組の住民が行っています。

## 5 開発と改修の歴史

|                              |                                          |
|------------------------------|------------------------------------------|
| 1663(寛文 3)                   | 北ノ入池工事が許可される。面積 7.8ha、深さ 4.5m、土井の高さ 4.4m |
| 1686(貞享 3)                   | 堤 2.1m 上げる。3 の土井できる。                     |
| 1714(正徳 4)                   | 北ノ入池 堤 1.5m 上がり、4 の土井できる。水深 7m5cm        |
| 1799(寛政 11)～1943 年(昭和 18)の間、 | 前腹突工事 5 回行う。                             |
| 1813(天保 2)及び 1933 年(昭和 8)    | 堤 0.9m 上げる。                              |
| 1963 昭和 38                   | 老朽復旧波除護岸工事施工 2 の土井尺八改造工事。                |
| 1973 昭和 48                   | 1 の土井改造工事                                |
| 1985 昭和 60                   | 東側地区護岸工事                                 |
| 1986 昭和 61                   | 波除護岸根継工事及び土堤にフェンス張工事                     |
| 2010 平成 22                   | 転落防止柵の設置改修工事、堤側に遊歩道設置                    |

※ 北ノ入池には 4 つの土井があります。堤上げを何回も行ったことにより、沢から土砂が積り池の貯水量が減ることを防止するとともに、新田開発が出来ました。

## 6 規模(ため池データベース 2018 年 4 月現在)

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 総貯水量 | 266,000m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 78,000m <sup>2</sup>  |
| 堤高   | 9m                    |
| 堤長   | 363m                  |
| 灌漑面積 | 92ha                  |



市民に親しまれる北ノ入池の公園

## 7 その他

## ① 北ノ入池の記録について

1714 年(正徳 4)の 2 月から 3 月にかけて、砂原池の

新築工事と北ノ入池の増設が行われた時の資料に「喜多野入池砂原池御普請萬覚帳」と記載されていました。

## ② 1954 年(昭和 29)に、中組の青年団では北ノ入池の堤に牧草を蒔き、牛や馬の飼料としました。

## 14 砂 原 池 （すなはらいけ）



### 1 地理的位置及び由来

砂原池（標高 556m）は奈良尾の東部砂原峠入口にあります。砂原池は 1714 年（正徳 4）に築造されました。その後幾度かの修理を経て、今日に至っております。

鎌倉時代に砂原池はまだ無く、現在の池の真ん中を砂原峠の頂上に向かって鎌倉道が通じていました。武田信玄は川中島に出陣するときは、砂原峠を度々越えているので、この鎌倉道を通ったと考えられます。

### 2 水源及び灌漑

富士嶽山及び砂原峠より発した駒瀬川上流の清流が水源です。奈良尾地域・西水沢の水田を潤しています。

す。なお、砂原池は標高が高いので、依田川導水を利用できません。大干魃（かんばつ）になった 2005 年（平成 17）には 3,000 m<sup>3</sup> 余りの塩田揚水（千曲川より）を、奈良尾地区にある揚水機でポンプアップして水不足を凌（しの）ぎました。

### 3 管理面

富士山地区にある 4 つの池（北の入池・水沢池・砂原池・久保池）と山林は、富士山財産管理組合によって管理されています。当組合は正副組合長・理事 6 名・各池の池守などの役員がいて、3～4 年に 1 度の割合で土砂払い、池を干して池の保全に努めています。また春には土手の草を焼き、土手を守っています。

また、役員は 4 つの池の水神祭を実施しています、豊作や水難事故防止などを祈願して、各水神に切り下げを付けたしめ縄を飾り、米・塩・ネギ・大根・人参などを供え、祈願した後に直会（なおらい）をします。



奈良尾の揚水ポンプ小屋

### 4 マダラヤンマ（ヤンマ科のトンボ）と砂原池



マダラヤンマ

マダラヤンマは雄の腹部に鮮やかな瑠璃色に輝く斑紋があり、日本で最も美しく「トンボの宝石」と言われています。近年では、環境の変化に伴い生息数が激減する中で、上田市内ではアシ・ガマ・フトイなどの水中植物が自生する東塩田東部一帯のため池で多く確認されています。2006 年（平成 18）に「マダラヤンマ及び砂原池」は上田市の天然記念物に指定されました。

### 5 開発の歴史

- 1714 年（正徳 4） 砂原池新築工事始まる。高さ 1 丈 6 尺、北土堤長さ 38 間、南土堤 36 間、本樋長さ 17 間 1 尺、高さ 1 丈 1 尺 7 寸、樋の口径 4 寸 5 分、2 の樋長さ 10 間、高さ 7 尺、樋の口径 4 寸、人足 7,111 人
- 1718 年（享保 3） 川修理工事行う。
- 1728 年（享保 13） 川修理工事行う。
- 1731 年（享保 16） 川修理工事行う。
- 1738 年（元文 3） 秋の洪水のため、川修理工事行う。
- 1742 年（寛保 2） この地方、大洪水のため、川大修理工事行う。
- 1753 年（宝暦 3） 洪水のため、川修理工事行う。
- 1775 年（安永 4） 池土堤 3 尺上げる。人足 3229 人
- 1967 年（昭和 42） 波除け護岸工事 一の土樋改造工事施工、 工事費 239 万円
- 1976 年（昭和 51） 南側護岸工事
- 1979 年（昭和 54） 南側護岸工事

### 6 規模（ため池データベース 2018 年 4 月現在）

|         |                       |
|---------|-----------------------|
| 総 貯 水 量 | 44,000 m <sup>3</sup> |
| 満 水 面 積 | 10,000 m <sup>2</sup> |
| 堤 高     | 9 m                   |
| 堤 長     | 151 m                 |
| 灌 漑 面 積 | 6 ha                  |



## 15 水 沢 池（みずさわいけ）



## 1 地理的位置

水沢池は富士山中組の南部水沢にあり、雨吹川沿いで馬場班・町屋上班のほぼ中央に築造されています。

## 2 水源

かつて水沢池の水源は、尾根川・雨吹川・駒瀬川の水でした。しかし1947年(昭和22)ニツ木峠の隧道が貫通し、依田川の水が水沢池に導水されるようになってからは、水沢池の水源のほとんどが依田川の水になりました。

## 3 依田川用水

塩田地方は古来より雨量が少なく大きな川がないため、ため池による水田灌漑が行われていました。塩田に内村川・依田川から水を引こうという考えは江戸時代にも何回もありました。それが特に1924年(大正13)の大干ばつを契機に塩田全体の大きな課題となりました。県も一緒になって練った案の中から、産川上流に沢山池を造ること、沢山池の水が届かない東塩田地域は依田川から導水すること、を塩田平全体で推し進めることになりました。

1940年(昭和15)測量の結果、北の入池の方が御嶽堂水路よりも低いことがわかり、御嶽堂用水路から引水が可能との結論になりました。その後富士山・東塩田・依田の関係者が10数回にわたり話し合った結果、依田川導水期成同盟会が設立されました。1941年(昭和16)より先ず御嶽堂地区にてポンプによる揚水事業が推進されました。その後、第2次世界大戦に遭遇し、労力・資材の極度の欠乏により工事は難航しました。しかし、あらゆる困難を克服して1947年(昭和22)ニツ木隧道が貫通し、依田川の水がニツ木峠を越え富士山地区をうるおすことになりました。その後更に工事を進め、事業が完了し東塩田地域全体に依田川の水が行きわたったのは1961年(昭和36)のことでした。



ニツ木隧道の塩田側出口(久保峠)ここで南線と北線に分かれる

## 4 灌漑

依田川用水のおかげで現在は水不足で困ることが殆んどありません。ただ、水沢池の西側(西水沢)の水田は、水不足で困ることがあります。その理由は、西水沢の水田は三の土井から導水しているのですが、三の土井の樋の口が浅いため、田植えの頃水沢池の水面が樋の口より下がる場合があります。その時には池守が、水中ポンプで池の水を樋の口まで揚水し、水不足の水田に導水しています。



樋の口が浅い三の土井

## 5 池の管理

富士山財産管理組合が管理しており、3～4年に一度の割合で土砂払いをして池を干し、池の保全に努めています。春、土手草を焼き土手を守るための作業もしています。なお、池の土手草刈りは年に二回(春・秋)富士山中組・奈良尾の住民が行っています。

## 6 開発と改修の歴史

- ※1647年(正保4) 唐沢池(水沢池)開発される。面積1町3反4畝 人足3462人
- ※1715年(正徳5) 池普請を行う。人足3603人 唐沢(からさわ)池の名称を変えて水沢池とする。(唐は空に通じ縁起が悪いので水沢に変えたという。)
- ※1740年(天文5) 池普請を行う。人足4191人
- ※1802年(享和2) 池普請を行う。人足4021人
- ※1862年(文久2) 池普請を行う。人足5701人
- ※1943年(昭和18) 前腹付工事を行う。11月着工、翌年竣工
- ※1966年(昭和41) 波除護岸工事・一の土井改造工事行う。
- ※1970年(昭和45) 南側護岸工事(石積)・フェンス取り付け工事行う。

## 7 規模(ため池データベース 2018年4月現在)

|      |                      |
|------|----------------------|
| 総貯水量 | 32,000m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 13,000m <sup>2</sup> |
| 堤高   | 5m                   |
| 堤長   | 285m                 |
| 灌漑面積 | 18ha                 |

## 8 その他

- ① かつての富士山小学校・東塩田中学校では、児童・生徒のスケート場として使用していました。
- ② 馬場班・町屋上班の防火貯水池の水源ともなっています。

## 16 来光寺池（らいこうじいけ）

### 1 池名の由来

来光寺池の西に 1640 年（寛永 17）頃まで来光寺という寺院があった。廃寺になってからも本尊・薬師如来像と、安置する薬師堂は（場所は移ったが）現存している。来光寺池辺りの小字名は「来小路」（らいこうじ）で、この寺院名か小字名が池名になった。

### 2 地理的位置

山から平地になる谷口にある池の内部にある湧水と、山から流れてくる水とが池の原点であり、この下方に水田地帯が広がっている。

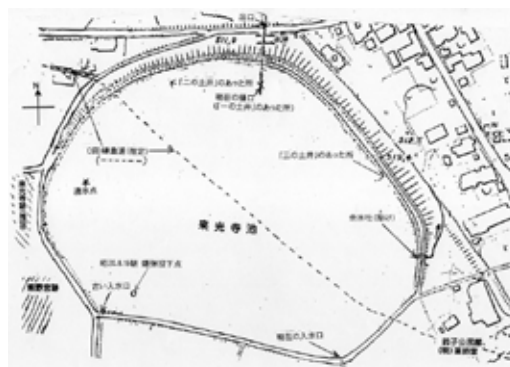


### 3 歴史

(1) 原形 成立年代不明。かつて、谷を横切って「鎌倉道」が通っていてその道が土手（堤防）でもあった。当初は尾根川からの水路はなかった。

(2) 1622 年（元和 8）以降、増築・改修工事をしてきた。17 世紀の大工事で、土手を鎌倉道より下方に築いて広くしたり、何回か嵩上げ（かさあげ）や修築工事をしてきた。それに伴い尾根川から、更に戦後は依田川用水からも引水している。

\* 1924 年（大正 13）の大干害で、更に大量の灌漑用水確保の気運高揚



#### \* 来光寺池の主な工事

|                     |                                    |
|---------------------|------------------------------------|
| 1622 年（元和 8）        | 増築したと伝えられている                       |
| 1691 年（元禄 4）        | 土手 1 丈嵩上、深さ 1 丈 6 尺となる             |
| 1722 年（享保 7）        | 修築                                 |
| 1812 年（文化 9）        | 修築                                 |
| 1841 年（天保 12）       | 土手 3 尺嵩上、一の土井と前腹部修築                |
| 1891 年（明治 24）       | 前腹部修築、一の土井 1 丈 5 尺・二の土井 1 丈 2 尺に拡張 |
| 1930～32 年（昭和 5～7）   | 土手修理、池の底浚渠工事                       |
| 1942 年（昭和 17）       | 池の拡張、斜樋管工事、土手 3 尺嵩上                |
| 1957～58 年（昭和 32～33） | 依田川用水導入の南線通水路工事                    |
| 1961 年（昭和 36）       | 老朽改修、嵩上げ 50 cm、波止め壁・グラウト工事         |
| 1973 年（昭和 48）       | 斜樋の底樋管新調（3 つあった土井を 1 つにした）         |
| 1980 年（昭和 55）以降     | 波止め護岸工事・防護フェンス等の工事 4 回以上           |

### 4 規模

|      |                        |
|------|------------------------|
| 総貯水量 | 231,000 m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 50,000 m <sup>2</sup>  |
| 堤高   | 9 m                    |
| 堤長   | 440 m                  |
| 灌漑面積 | 70 ha                  |

ため池データベース 2018 年 4 月現在

\* 堤塘（土手）の形式；半円形

\* 取水構造；（1973 年までは）

斜樋管取水栓式（尺八式）

\* 余水吐構造；溢流堤式（いつりゅうていしき）堤の一部を切り込み、そこからあふれた水が流れ出る形式

### 5 水利慣行

\* 江戸時代中期までに確立。今でも池のある鈴子から常に水利正副組合長（長の元名は「大世話人（おおせわにん）」）が出る。

\* 1691 年（元禄 4）の取決め：配水は鈴子・石神・下之郷村へは一昼夜、平井寺村へは半日の割合

### 6 エピソード

- ① 「大姥様<sup>おおばさま</sup>」と雨乞い：干害時に大姥様の石像（奈良尾）を池に沈めて怒らせ雨を降らせようとした
- ② 池は、水泳、スケート等大河のない塩田では子どもの遊び場であった。そこで水難事故もあった
- ③ 昭和 30 年代前後に、養鯉をしたり、土手の草等を乳牛の飼料にしたりした
- ④ 水神（石造）：昔水神様を祀って、子どもの水難事故撲滅を願った。毎年水神祭を行っている
- ⑤ 1945 年（昭和 20）8 月 15 日朝、来光寺池等に米軍機から爆弾が投下され、「穴」が今も残っている



## 17 手洗池（てあらいいけ）

## 1 概要

県道別所丸子線沿い柳沢集落の西に位置します。山のふもとで大雨等でも土砂が流れ込みにくいところで、集水面積が広く、良質の粘土がその場で調達できる場所に造られています。池の形は長方形で、その三方に土手が築かれているコの字型築堤の代表的な池です。池水は、西側は神戸川（ごうどがわ）から、東側は中ノ沢から取り入れられています。先人の努力によって、現在は遠く武石沖から10 km余にも及ぶ水路を造り依田川の水がこの池まできています。



「手洗池」の名の起こりには次のような伝説があります。

昔雷山のふもとに大きなケヤキの木がありました。このケヤキの木の枝が折れると、嵐がおきて家や山野が荒らされました。村人は大樫に差し障りがあると考えようになりました。

ちょうどそんな時、木曾義仲の臣手塚太郎金刺光盛（てづかのたろうかなさしみつもり）が通りかかりました。早速相談すると「ケヤキを切り倒すから、御神木（ごしんぼく）としそこに神様を祀（まつ）るがよい」と言われ、光盛が近くの池で手を净め、ケヤキを切り倒してくれました。言われる通り村人が神様を祀ると、それから恐ろしい大嵐はなくなりました。光盛が手を净めたので、「手洗池」と名付けました。



手洗池からは、遠く浅間山、烏帽子岳、根子岳などが望め、無言館への遊歩道や田園空間整備事業の一環として池一周の遊歩道が整備されました。現在は地域の人々の散歩コースになったり、塩田巡りの皆さんのコースの一部になったりしています。池にはカイツブリの親子がくらし、大きな鯉が群れをなして泳ぎ、立ち寄る人々のほっとする空間になっています。

## 2 池の歴史

1654 年（承応 3） 築造されたと伝えられています

1716 年（正徳 6） 東側に池の増築工事をしました

1817 年（文化 14） 土手のかさ上げ（3 尺）工事をしました。この時の人夫 10, 563 人、内上田領各村より 8, 963 人、柳沢より 6, 100 人出すとの記録あり  
その後も何回か改修工事が行われています

1928 年～30 年（昭和 3～5） 北土手前腹改修工事をしました（4 列縦隊で横樋を振り地固め）「サードッコイ、アリワサーアノ、ヨイトコナー。トコドッコイ、アリワサーアノ、ヨイトコナー」

1954 年～55 年（昭和 29～30） 東土手前腹改修工事、2 の土井改修工事をしました（土手を掘り割り斜樋に交換）

1959 年（昭和 34） 3 の土井改修工事をしました（土手を掘り割り斜樋に交換）

昭和 30 年代末まで 夏は子ども達の水泳場、冬はスケート場として利用されました

昭和 40 年代 鯉の養殖が行われました（塩田鯉の銘柄で全国へ）

1965 年～79 年（昭和 40～54） 北土手～西土手～南土手波除けブロック工事をしました

1981 年～85 年（昭和 56～60） 漏水止めセメント注入工事をしました（土手にボーリングし注入）

1985 年（昭和 60） 1 の土井改修工事をしました（最も深い土井を斜樋に交換）

## 3 規模（ため池データベース 2018 年 4 月現在）

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 総貯水量 | 91,000 m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 30,000 m <sup>2</sup> |
| 堤高   | 9 m                   |
| 堤長   | 384 m                 |
| 灌漑面積 | 27 ha                 |

## 4 エピソード

池づくりには上田藩から専門の土木技師が来て、腰に短刀を付けて指揮をしていたという。怠ける者は髪あるいは腰にも赤い布片が付けられ、監視の目が届くようにされたという。工事の人夫は上田藩全域に割り当て、毎日数百人もの人々が集められ、いわゆる人海戦術による工事が行われたという。工事は農閑期の冬場の仕事で、現在のような靴や防寒着などがない時代、草鞋ばきで働いたという。遠くから働きにきた人は近くの家に泊まって働いたという。1 日働いて米 1 升が人夫賃として支払われたという。（柳沢誌と伝承より）

## 18 平井寺池（ひらいじいけ）

1 築造年 1949 年（昭和 24）

2 規模（ため池データベース 2018 年 4 月現在）

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 総貯水量 | 5,000 m <sup>3</sup>  |
| 満水面積 | 14,000 m <sup>2</sup> |
| 堤高   | 9 m                   |
| 堤長   | 78 m                  |
| 灌漑面積 | 5 ha                  |

\* 近年の豪雨による土砂の流入のため貯水量は減少している。



3 築造の経過

平井寺池は塩田平において一番新しく築かれたため池です。独鈷山・安曽岡山の東南山麓を源としている尾根川（カジカなど生息する清流）の上流部を堰き止めたダム式のため池です。

1949 年（昭和 24）5 月に当時の工事委員長（金澤弘氏）から旧東塩田村村長（滝澤精良氏）に出された報告書（来光寺池水利組合保管資料）の写しによると、1942 年（昭和 17）に干ばつが当地方を襲い、尾根川の水に頼る平井寺集落では米の収穫量が皆無になったことから、地元・村・各区長・来光寺池大世話人並びに耕地課（県）と研究した結果、戦時下（太平洋戦争）での食糧増産と地方開発の目的で、ため池の新設が決定されたと記されています。

その記録によると、1943 年（昭和 18）1 月 17 日から村営工事（実際の工事は地元の請負方式 工事委員長 窪田耘平氏）として測量が開始されました。同年 12 月には平井寺公会堂で地鎮祭、翌年 2 月に土地買収、3 月 1 日から工事が開始されました。この日の日誌によれば、上田蚕業学校（現上田東高校）から先生・生徒が 40 名工事に参加していると記されています。同じ月の日誌には、上田中学（現上田高校）・丸子農商学校（現丸子修学館高校）、上田商工学校（現上田千曲高校）などの教師・生徒が大勢工事に参加しています。これは、太平洋戦争中のため若者が戦地に招集されていて作業員が集まらなかったため、上田蚕糸専門学校・各中等学校・小学校・公民学校・婦人会・男女青年会などに勤労奉仕を要請し、一般作業員と共に工事が進められました。ほぼ完成に近づいた 1945 年（昭和 20）10 月 6 日からの連日の豪雨により大洪水が起き、せっかく仕上がっていた堤防も流失してしまい工事は中断されました。



工事日誌等の一部

1947 年（昭和 22）9 月に当時の北原村長と県の耕地課と協議した結果、再びため池の工事が開始され、1949 年（昭和 24）5 月 28 日に竣工しています。

工事費報告によると、総額 81 万円でその主な内訳は次の通りです。

労賃 63 万円 生徒・婦人会・青年団・一般作業員 3 万人

資材費 15 万円 ヒューム管、セメント、木材、レール

また、最初の工事が始まる 1943 年（昭和 18）12 月には、当時の東塩田村村長 宮原藤三氏と来光寺池大世話人 金澤真一氏、下之郷総代 横関延靖氏との間で協定書が結ばれています。その要旨は、完成後の池の管理は来光寺池管理者に任せること、下流の既得水利権を絶対に侵さないこと、貯水面積は五反以下とすること、池の堤を嵩上げ・拡張する時は、来光寺池・新池の管理者の了解を得ることなどが決められていました。当時の水利権に対する強い権利意識が表れています。

戦時中上田蚕業学校に在学中のときに勤労奉仕で参加した林一清さん（平井寺）は、池の土手を築くために池の内側から土砂を積んだ重いトロツコを押したことやお昼に出されたみそ汁のしょっぱい味を今でも思い出すと言います。また、戦後になって堤のかさ上げ工事に参加した鈴子の田中晃美さんは、土砂をいっぱい入れたトロツコを友達数人とレールの上を押して作業に参加し、日当がもらえてうれしかったと話されています。

ため池の完成後は、冬場に溜めた水が春からの稲作に使われ、現在も貴重な水源として活用されています。しかし、川を堰き止めた構造のため、近年の豪雨災害により大量の土砂が流入し、その都度市や県・国の支援により、地元来光寺池水利組合等で復旧作業をし、池の維持管理に努めています。



## 19 倉保根池（くらほねいけ）

1 所在地 上田市本郷字倉保根

2 規模(ため池データベース 2018 年 4 月現在)

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 総貯水量 | 7, 000 m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 8, 000 m <sup>2</sup> |
| 堤高   | 3 m                   |
| 堤長   | 144 m                 |
| 灌漑面積 | 7 ha                  |



3 特徴・エピソード

(1) 始め

築造は、仙石氏が上田藩主だった 1644 年(正保元)とされています。

1706 年(宝永 3)に上田藩が各村々からその村の実情を書いて出させた『宝永の差し出し帳』によると、当初の倉保根池は、「東西三十八間南北三十間」(同地区・下本郷の上原池より小さい)とあります。

名前の由来は、字・倉保根の地にあったためと思われます。

普請に要する材木、木工、木挽(こびき)、釘、かすがい、薪(まき)、諸道具等一切のものは時の領主・仙石氏から下され、人足には一人一日米一升ずつ下されました。

(2) 増築

1881 年(明治 14)・1882 年にわたって県下の全体の諸状況を書いた郷村誌には「倉保根溜池(民有地) 東西四十七間 南北六十三間 周囲二百二十五間 面積一町一畝十歩深さ六尺 村の東北の方にあり 本村田反別四町二反五畝の用水に正保 2 酉年新築す嘉永元申年修繕す」とある。東西が三十八間→四十七間(約 85m)、南北が三十間→六十三間(115m)と増築され、南北は約 2 倍の大きさとなりました。

(3) 場所

倉保根池は下本郷のため池として、水田利用やかつては蓮池、稚魚育成などにも活用されました。しかし、池の北西部に建つ家々は下小島地区であり、下小島地区の防火用水にもなっています。

(4) 四っ池(上原池・倉保根池・甲田池・上窪池)

下本郷は上本郷の新田だったので、行政は本郷一本で行われてきました。

それを 1889 年(明治 22)に上本郷・下本郷各々行政を独立することに。が、昔から上下一緒に管理し利用していた四っ池(上原池・倉保根池・甲田池・上窪池)は切り離すことは出来ないと、1911 年(明治 44)にこの四っ池の管理規程が定められ以来、両地区合同で管理運営してきました。

水利問題の話し合いのため上下連合委員会がもたれ一年交替で当番にあたり、春の花見の頃上下全区民が集まって親睦を図りました。しかし太平洋戦争の最中の 1942 年(昭和 17)には無期延期となり、1959 年(昭和 34)には「見合わせ」となり現在に至っています。

(5) 修理・修繕

戦後の大きな工事としては、1966 年(昭和 41)～1978 年(昭和 53)に全面浚渫・泥止工事、1971 年(昭和 46)～1979 年(昭和 54)に波止護岸工事が行われました。現在は、年一回区民総出で池の土手の草刈りを続けています。

(6) 養鯉

昭和 30 年頃から塩田平でため池養鯉が始まりましたが、倉保根池では上原池から遅れること 5 年後の 1967 年(昭和 42)から行うようになりました。年間の水揚げ量は、1971 年(昭和 46)の稚魚取り上げ 5 トン。この事業も約 15 年間継続しましたが、やがて霞ヶ浦の養鯉量が増え鯉の値が下がるなど社会の経済状況に押され、1981 年(昭和 56)にはやむなく養鯉組合から脱退し、翌 1982 年 9 月 19 日には養鯉部解散会が行われました。

(7) 倉保根池水田化取止めのこと

1940 年(昭和 15)2 月の上本郷下本郷連合委員会で、倉保根池を水田に変えることを決めた。当時、池は泥で埋まって浅くしかも一面に葦が生え貯水量が少なかったため、水田化して少しでも米を増産した方が良くということになったのだ。

そして「中塩田村自作農創設開墾事業」として詳細な設計まで準備された。

しかし 3 月に入り、それを聞いた下小島地区では、「これは大変なことだ」と関係地主 16 名連署の「池を潰(つぶ)されてはこの池水掛りの田の水が困るので是非取りやめてもらいたい」との稟請(りんせい・願い出る)書を上本郷・下本郷両地区長宛てに提出した。要望は聞き入れられ倉保根池の水田化は取りやめになった。

(参考資料『下本郷の歴史・その一』・ふるさと塩田村々の歴史第二集)

## 20 上 原 池 （うわはらいけ）

1 所在地 上田市下本郷字上原

2 規模(ため池データベース 2018 年 4 月現在)

|         |                            |
|---------|----------------------------|
| 総 貯 水 量 | 4 6 , 0 0 0 m <sup>3</sup> |
| 満 水 面 積 | 1 4 , 0 0 0 m <sup>2</sup> |
| 堤 高     | 6 m                        |
| 堤 長     | 4 6 4 m                    |
| かんがい面積  | 2 5 h a                    |



3 特徴・エピソード

- (1) 始め→上原池はいつごろ造られたのか不明です。が、『小県郡史』に 1637 年(寛永 14)・1638 年(同 15)増築と書かれているところからそれより前に池はあったと思われます。1706 年(宝永 3)上田藩は藩内の各村々からその村の実情を書いて出させました。それが『宝永の差し出し帳』です。それによると当初の池は、「下本郷池東西四十間南北三十二間」の大きさとあります。その時はまだ「上原池」の名はありませんでした。名の由来は上原の地にあったので「上原池」となったと思われます。
- (2) 増築→前述の 1637 年(寛永 14)・1638 年(同 15)、時の領主仙石氏から増築を仰せつけられ、普請に要する材木、木工、木挽(こびき)、釘、かすがい、薪(まき)、諸道具等一切のものは殿様から下され、人足には一人一日米一升ずつ下されました。
- (3) 修繕→松平氏時代の 1726 年(享保 11)、1849 年(嘉永 2)と増築・修繕で始めより約 2 倍強の大きさになったと思われます。  
1881 年(明治 14)・1882 年(同 15)にわたって県下の全体の諸状況を書いた郷村誌には「上原池(民有地)東西八十九間 南北六十四間三尺 周囲三百十五間 面積一町九反一畝十歩 深さ一丈六尺 村の東北の方にあり 本村田反別 十一町四反七畝八歩の田用水に供す 新築年月日不詳 寛永十四丑十五寅年増築享保十一年嘉永二酉年修繕す」とある。
- (4) 下本郷とは→上本郷が古くあって下本郷はその新田であったことは『宝永の差し出し帳』によって明らかですが、下本郷の村落がいつからできたのかは不明です。『宝永の差し出し帳』によると 1625 年(寛永 2)以前から人々が住み田畑を開拓していたと思われます。1706 年(宝永 3)に領主仙石氏へ取り調べて差し出した名寄帳には「上組(上本郷か)戸数およそ 50 戸、下組(下本郷か)およそ 2 戸・・・」とあり、約 400 年前には家が 2 軒あったということになります。  
その後上原池の増築や修繕により上原池が大きくなっていくと、それだけ水も確保できるようになり田が増えていった。水田が増えれば人も移って来る・・・と考えられます。地と水と人の暮らしは強く繋がっていたと改めて感じられます。
- (5) 下本郷には上原池、倉保根池の他に、小さい池では前池、下池、千石池、宮越池が、上原墓地から五加の南宮ノ上(なぐのみや)を結ぶ線の窪地にありました。『小県年表』これは大昔、産川の水が五加の上方から南宮ノ上、上原を通って下小島の方へ分流してできたと考えられる窪地に自然にできたものと思われませんが、蒲(がま)や葦(あし)が密生していた窪地とともに圃場整備事業によってすっかり平らとなり、今は面影もありません。
- (6) 最近における上原池の大きな工事としては、1966 年(昭和 41)～1971 年(同 46)の松代地震災害復興工事として、上原池に漏水防止のアロン(薬液の名・土中に注入して固める)注入が行われ、また、1971 年(昭和 46)～1979 年(同 54)に波止護岸工事が行われました。年一回区民総出の池の土手草刈りは、今現在も続いています。
- (7) 1958 年(昭和 33)から塩田平でため池養鯉が始まりましたが、上原池では 1962 年(昭和 37)から行うようになりました。年間の水揚げ量は、1975 年(昭和 50)17 トン。事業も 20 年間継続しましたが、やがて霞ヶ浦の養鯉量が増え鯉の値が下がるなど社会の経済状況に押され、1981 年(昭和 56)には養鯉組合から脱退し、翌 1982 年 9 月には養鯉部解散会が行われました。

(参考資料『下本郷の歴史・その一』・ふるさと塩田村々の歴史第二集)

伝承① むかし、村上義清(むらかみよしきよ)の家来に手塚久兵衛という人がいた。久兵衛は戦(いくさ)で手柄をたて、義清より本郷村において五十貫文の土地を頂(いただ)いたそうだ。喜んだ手塚久兵衛は、神様の御蔭(おかげ)だと感謝して上原の地に祠(ほくら)をたて八幡(はちまん)大菩薩(だいはさつ)(今の菅田別神社)を祀(まつ)った。その祠(ほくら)を守るために寛永 2 年頃からその子孫がこの地に住みついたとのことだ。

伝承② むかし、となり村の下之郷に住んでいた横関氏が下本郷の地を新しく開墾(かいこん)したと。そして自分の子ども三人に上本郷と下本郷と小島を分けあたえたとのことだ。

どちらも確かな資料はないが、村に伝わる話だ。



## 21 小島大池（こじまおおいけ）

## 1 規模（ため池データベース 2018 年 4 月現在）

|      |                        |
|------|------------------------|
| 総貯水量 | 102,000 m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 39,000 m <sup>2</sup>  |
| 堤高   | 6 m                    |
| 堤長   | 577 m                  |
| 灌漑面積 | 45 ha                  |



## 2 築堤方式

西側は自然地形を生かした堤防 東・南・北側は築堤

## 3 築造

1617 年（元和 3）（塩田村々の歴史） 1618 年（元和 4）（上田市のため池台帳） 年号の違いは着工と完成年度の違いか？

## 4 大規模改修

1717 年（享保 2） 土手 3 尺かさ上げ修築

## 5 池の保守管理

米作の基幹施設として大事にされてきた。昭和 20 年代まで毎年地元民が池に入り泥を攪拌し、泥水状態にして用水路へ排出し泥の堆積を防いだ。土手固めの作業も数年おきに行われ、時には大規模改修を行った。近年は必要に応じ業者に依頼し、機能と安全性確保の工事を行う。目下沢山水系の池では大規模防災工事を実施中で、小島大池も工事を行っている（2022 年現在）。自治会が上小島、下小島に分かれた後も小島水系組合として共同管理をしている。

## 6 池の果たした役割

塩田は平たん地が多く粘土地、水さえあれば水田開拓が容易。この池の築造で小島地区では江戸時代に開拓が進む。1683 年（天和 3）に藩主仙石政明の勧めで小島村より 16 戸が開拓に参加し小島新田と呼ばれた。それがやがて下小島になった。

## 7 昔の水利事情

小島地区は、干ばつ地帯塩田の最下流にあり、周囲が平地で集水面積が極めて少ない。そのため水には特に難儀をした。山田池の水とともに、浦野川の水を保野経由で湯川に落とし、保野、下本郷とで利用していた。

## 8 現在の水利事情

沢山池完成後は、沢山池や産川の水を追開沢川に落とし、中野地籍から大池専用ともいえる堰に取入れ通水しているため、昔より格段と改善された。隣接する上流の保野地区より水利事情は良くなった。小島には小さな池、荒池、二つ池、南長池、北長池が（後段のイノシシの話にある長池はこのこと）あったが水利事情が改善されたこともあり今は残っていない。

## 9 歴史的な大事件

徳川綱吉の生類相憐れみ令が出たころ、イノシシの群れが池に飛び込み、何頭か水死し大事件になった。（後段参照）

## 10 話題

近年、白鳥が時々飛来し滞在する池の一つ。コウノトリもしばしば逗留した時期もある。テレビのミステリードラマの舞台になったこともある。隣接する池生神社とともに地域の人々と隣接する保育園児に親しまれる小島大池です。

※ 資料作成に当たり小島水利組合の正副組合長、土地改良区理事、文化財保護協会当地会員さんからアドバイスをいただきました。



池の脇に設置されている説明板

## 小島大池のイノシシ騒動

七月のあつい日の小島村での事件。

下之郷山の方から、何やらおおぜいの人たちが走って来た。それに鉄ぼうの鳴る音もしてまるで山狩りのような一団だったと。

村人がびつくりして外に出て見ると、イノシシが何頭かまっすぐに小島村へ向かって田んぼの中を走って来るではないか。

イノシシの群れは、小島の田を荒らすと今度は保野の田んぼの方へ。そこもさうさんに荒らし、その向こうの福田の田んぼの方も行って荒らした。

そのうちイノシシの群れはくると向きを変えて、また小島村の方へと走って来ると、田植えの終わったばかりの田を荒らし始めた。

小島の彦左衛門は、

「イノシシのやろめー、おれのでえじな田をめちゃくちゃにしやがつてー、」と叫ぶと、くわがらをを振り回して田の中に飛びこんでいったと。

するとその時、「ばんぱーん」と、鉄砲の音。追いかけてきた一人が空砲を撃ったのだ。

驚いたイノシシの群れは、近くの小島大池に次々と飛びこんで行った。その数、二十二頭も。

「イノシシはけしからん。田畑を荒らし回って、野菜など食い散らかしていく」

「このさいだ。思いきつて、殺しちゃえ」

「そうせえ。そうせえ。池に落ちてちようどいい機会だ」

そこへ小島村の組頭・次右衛門が走ってきて叫んだ。

「まてまて、生き物を殺した者が死罪になったという話を聞いたぞ。おちつけ」

「なあに、たかがイノシシだ。殺してみんなで食っちゃえはわからねえ」

「ばか言うでねえ、子犬を殺しただけで打ち首だぞ」

打ち首の話を聞いた村人たちは、真青になって立ちすくんでしまったと。

大池の中では、何頭かのイノシシがアップアップしている。

おろおろしている内に、イノシシたちは池の藻に足をとられてブクブクと沈んでいくではないか。

「えれえことだ。助けろ、助けろ」

村人たちはあわてて大池に入ってイノシシを助けたが、五頭が溺れ死んでしまった。

それを見た小島村の庄屋は、組頭の次右衛門をすぐ上田のお役所へ報告に走らせた。

そして死んだイノシシを池の土手に寝かせムシロをかぶせて四人の村

人を番につけ、「お沙汰があるまでは、誰も近づけるな」と、言いつけた。

村人は生き残ったイノシシたちを池から上げると「もう田を荒らすなよ、山から降りてくるな」と、言い聞かせて下之郷山へ帰してやったと。

次の日、庄屋と組頭は打ち首になるかとほらはらしながら、大池の堤に出てお沙汰を待った。

昼すぎになってやっと上田のお役人が来た。

見聞後、言いわたされたのは次のとおり。

「大池の東にある長池の脇に丁寧に穴を掘ってイノシシの死骸を埋める事。

三尺五寸の木札に、『元禄二年巳七月二十三日小島大池へ入り申

し候猪の子五つ、もくにからまり死申候に付、則(すなわち)、此所

に埋置申候、以上』と書き、イノシシを埋めた側に立てる事。」

小島の村人たちは、イノシシを埋めた回りに竹垣を結び「さげちよう」をした。

ていねいに葬ったので村におとがめはなかった。との事だ。

江戸時代に生き物を殺したりいじめたりしてはいけないというおふれを出した將軍・徳川綱吉のころの塩田の実話。

なお「生類憐れみの令」の記録に残る事例は上田近辺ではこの話のみ。

(塩田文化財研究所編「塩田平の民話」より再話)



## 22 加古池〔かこいけ〕

## 1 概要

- ・所在地 上田市大字保野字塩吹  
☆「保野」の信号を川西医院に向かって北に行くと、道沿いの左側にあります。
- ・築造年 太古の湯川の氾濫による沼地を 1704 年(元禄 17)改修し築造。  
(領主仙石越前守に乞ひ官費を以て新築す。―「明治の塩田郷村誌」)
- ・水系 湯川

## 2 規模(ため池データベース 2018 年 4 月現在)

|      |                      |
|------|----------------------|
| 総貯水量 | 6,000 m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 6,000 m <sup>2</sup> |
| 堤高   | 2 m                  |
| 堤長   | 125 m                |
| 灌漑面積 | 8 ha                 |

## 3 名前について

「かこ池」「かご池」の2種類の読み方が見られる。

かこ池

『宝永三年の差出帳』、「ため池データベース」

かご池

現在、保野区の多くの人は「かご池」と呼んでいる。

表記に「籠池」もある。通称は「はす池」である。

「あら池(新池)」とよばれていたこともあった。

## 4 役割

塩吹池が 1702 年(元禄 15)に築造されるまでは農業用水の主力だったが、塩吹池が完成すると塩吹池を補助する中継のため池の役割をおった。現在も多くの農家が利用している。近年、7 月末から白い蓮の花が池一面に咲くことで有名になっている。

## 5 大切な食料だった加古池のレンコン

以前は稲刈り終了後レンコン掘りが解禁され、地域の大切な食料となりました。

また、戦中・戦後の一時期、青年団が掘り出し販売したこともありました。

小さいけれど、味が凝縮しており、とってもおいしかったそうです。

現在では、池が強粘土で掘り出すのが大変なため、また、商店で容易に手に入るようになったこともあり、掘る人はいなくなりました。

最近お盆の「花市」用に、蓮の花を購入に来る業者が何軒かあります。

「蓮を肥やす」ために… (昭和 26 年 1 月の保野新年総会の申し合わせ)

・加古池の蓮を肥やすため全戸より人糞を一荷出すこと。\*一荷＝前後で 2 樽

(\*レンコンが地域の大切な食料であったことが分かります。)

## 6 鯉と加古池

塩田の多くの池で鯉を飼っていた昭和年代、ここでは鯉の稚魚を飼っていました。10 cm 位にしてから他の池に移しました。池が浅いので稚魚を飼うのに適していたそうです。また、鯉釣り大会が行われたこともありました。

ザリガニ対策には鯉を！

2016 年(平成 28)池の半分ほど蓮の芽が出ない、という事があり、ザリガニの仕業ではないかと推測されました。

そこでザリガニ退治のために池に大きな鯉を放したところ、蓮が次第に復活し、2018 年(平成 30)は池一面に白く大きな花が咲きました。ザリガニは子ども達には人気がありますが、田んぼのあぜに穴を開けるなど、いろいろな被害が出ています。(資料『保野誌』 上田市保野自治会 2018 年発行)



## 加古池の場所はもともとは湯川だった

人類がまだいなかった前代のころ、大道刈・竜昌院沢が押出して湯川を埋め、今のように湯川が曲がった。(『保野誌』)

太古の湯川は現加古池の辺りを流れ下っていたと地質学者は推定している。その流れが、山からの土砂の流入などで止められ現在の流れになったと想像される。旧流に残された川の跡が沼地化し、その沼を改修して池とした。



コウノトリ

加古池と近くの塩吹池には、2014 年頃コウノトリがたびたび訪れました。写真愛好家のカメラが賑やかでした。

(撮影 保野 倉島袈裟明氏)

## 23 塩 吹 池 〔しおふきいけ〕

### 1 規模(ため池データベース 2018 年 4 月現在)

|         |                             |
|---------|-----------------------------|
| 総 貯 水 量 | 1 1 5, 0 0 0 m <sup>3</sup> |
| 満 水 面 積 | 3 5, 0 0 0 m <sup>2</sup>   |
| 堤 高     | 8 m                         |
| 堤 長     | 4 7 4 m                     |
| 灌 漑 面 積 | 4 8 h a                     |

### 2 池と名前の由来

元は近くにある塩野神社の手洗い池。その後神社は火災のため現在地へ移転。やがて 300 坪ほどの小さな池になり、江戸時代中期に今の規模の大きな池になりました。晴天が 2、3 日続くと、地面に真っ白い塩が吹き出たため塩吹池と呼ばれるようになりました。

### 3 築造

1702 年(元禄 15) 第 1 期工事 2 月 20 日より 34 日の日数 藩内 20, 000 人動員し築造。今のような大きな池になる

1705 年(宝永 2) 第 2 期工事 3 月 10 日より 31 日の日数 藩内各村々割人足 19, 000 人

65 年後 第 3 期工事 堤高を 3 尺かさ上げ 4 の土井設置

### 4 築堤方式 西側は自然地形を生かした堤防、東・南・北側は築堤。

### 5 池の保守管理

米作の基幹施設として大事にされてきました。昭和 20 年代まで毎年地元民が池に入り泥を攪拌し、泥水状態にして用水路へ排出し泥の堆積を防ぎ、土手固めの作業も数年おきに地域総出で行いました。近年は必要に応じ業者に依頼し、機能と安全性確保の工事を行います。目下沢山水系の池では大規模防災工事を実施中で、塩吹池も工事が行われています(2022 年現在)。

### 6 池の果たした役割

塩田は平たん地が多く粘土地、水さえあれば水田開拓が容易。この池の築造で保野地区は新田開発が進み、保野新田と呼ばれる 10 数戸の新たな集落が作られました。⇒現在は約 90 戸弱の家。

### 7 昔の水利事情

浦野川の水を越戸地区で水路に取り込み、仁古田、横山の山沿いを經由して保野の塩吹池に導水。この水は山崎用水と言い、保野ばかりでなく、小島、本郷でも利用。1889 年(明治 22)、3 村は水利権を放棄し、保野は湯川上流の舞田地籍から新設の水路により塩吹池に導水しましたが、湯川の水は山が浅いため、水量が少なく、水には相変わらず難儀をしました。

### 8 現在の水利事情

沢山池完成後は、沢山池の水を手塚・舞田地区の水路を通し湯川に落とし、前述の舞田地籍から取水し池に入れました。しかし沢山池から湯川までの水路は、手塚地区、舞田地区の一般水路を借用しているため、水不足の年は下流まで水が来なく、手塚・舞田の水利委員の皆さんの協力を得てやっと確保しているというのが実態です。干ばつ時には真っ先に被害をこうむる地区の一つで、塩吹池専用の用水路を作っておくべきだったというのが、当地区の声です。

### 9 塩吹池以外の保野の池

加古池、共有池は別ページをご覧ください。新池(あらいけ)伝説の長者原理兵衛が耕地を提供。その耕地を共同で耕作し、得た収益で築造。いわゆる「催合造り」の池。昭和後半に行われた圃場整備事業の折、埋め立てられました。龍昌院所有の小さな池もありました。



塩吹池に飛来した  
コウノトリと白鳥

#### ため池と自然

・植物の種類が豊富。希少植物やイブキジャコウソウ、ウツボグサ、フデリンドウ等。

自治会で植物保護地区に指定し保護。

・近年、白鳥、コウノトリが飛来。ここ数年は未飛来。他の水鳥は、多くはないが毎年飛来。

#### ため池と子ども

昭和 20(1945)年代までは、水泳、スケート、土手での芝滑りなどの遊び場。水難事故等で禁止になる。

#### 生活用水としても利用

上記年代まで、洗濯、鍋・釜の下洗いなどにも利用。伝染病の流行で取りやめ。上水施設造り始まる。

#### 鯉の養殖

上窪池から始まった鯉の養殖、瞬く間に塩田全域の池に広がる。塩吹池でも昭和 37 年～55 年まで実施。



## 24 女池 [おんないけ]

## 1 概要

所在地 上田市大字五加字八丁  
 築造年 1650年(慶安3)  
 形式 皿池  
 その他 重ね池

## 2 規模(ため池データベース 2018年4月現在)

|      |                      |
|------|----------------------|
| 総貯水量 | 18,000m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 9,000m <sup>2</sup>  |
| 堤高   | 2.5m                 |
| 堤長   | 202m                 |
| 灌漑面積 | 10ha                 |

## 3 灌漑区域と堰名

窪田地区(堰名なし)

## 4 築造と改修の歴史

| 年号          | 事項                          |
|-------------|-----------------------------|
| 1650年(慶安3)  | 築造 灌漑面積5町9反5畝               |
| 1692年(元禄5)  | 改修                          |
| 1801年(享和元)  | 改修 前腹工事                     |
| 1932年(昭和7)  | 改修 失業救済事業                   |
| 1947年(昭和22) | 改修 泥揚工事                     |
| 1964年(昭和39) | 改修 波止護岸                     |
| 1970年(昭和45) | 改修 波止護岸工事                   |
| 1974年(昭和49) | 改修 波止護岸工事                   |
| 2020年(令和2)  | 改修 道路拡幅のため東側を埋立(貯水量の1/16程度) |

## 【女池の「塩田八栄稲荷社」と「道祖神」】

- (1) 「塩田八栄稲荷社」オルガン針KK中塩田工場(現五加自治会館)脇に建てられたが、1952年(昭和27)工場拡張に伴い移転。
- (2) 「道祖神」塩田八栄稲荷社にあるものは当初6班のものだったが、1961年(昭和36)頃班の再編成により7班のものとなる。6班は堤体東南地籍に新しく道祖神を設置。
- (3) 2022年(令和4)県道拡張に伴い稲荷社を廃止

## 5 養鯉事業の歴史(男池・女池)

|             |                                                                                      |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 1958年(昭和33) | 塩田町養魚生産組合発足し、ため池を利用して養鯉事業を始める。                                                       |
| 1961年(昭和36) | 事業発展のため塩田養殖漁業協同組合を設立。五加も加入し、「塩田鯉」の銘柄で養殖販売活動に入る。採卵から成魚までの一貫生産に従事し、利益金はため池の前腹工事等に使われた。 |
| 1976年(昭和51) | 塩田養殖漁業協同組合の昭和50年度会計が赤字決算となる。                                                         |
| 1977年(昭和52) | 五加区総会において、塩田養殖漁業協同組合からの脱退を決める。                                                       |

## 25 男池 [おとこいけ]

## 1 概要

所在地 上田市大字五加字八丁  
 築造年 1644年(正保元)  
 形式 皿池  
 その他 重ね池

## 2 規模(ため池データベース 2018年4月現在)

|      |                      |
|------|----------------------|
| 総貯水量 | 50,000m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 21,000m <sup>2</sup> |
| 堤高   | 5m                   |
| 堤長   | 565m                 |
| 灌漑面積 | 20ha                 |

## 3 灌漑区域と堰名

- (1) 中本郷地区(松原水路)
- (2) 夏堰地区(夏堰水路)

## 4 築造と拡張・改修の歴史

| 年号                | 事項                      |
|-------------------|-------------------------|
| 1644年(正保元)        | 築造                      |
| 1679年(延宝7)        | 拡張 人夫12,000人            |
| 1718年(享保3)        | 改修 人夫7,000人             |
| 1801年(寛政13)       | 改修 前腹工事土樋伏替             |
| 1863年(文久3)        | 改修 灌漑面積24町8反            |
| 1930年(昭和5)        | 改修 前腹工事                 |
| 1934年(昭和9)        | 改修 春蚕不況救済事業             |
| 1946年(昭和21)       | 改修 前腹工事                 |
| 1948年(昭和23)       | 改修 落水口改修工事              |
| 1952年(昭和27)       | 改修 南堤工事                 |
| 1965年(昭和40)       | 改修 前腹波止護岸工事             |
| 1973年(昭和48)       | 改修 土樋尺八方式に改修            |
| 2015年(平成27)~2018年 | 堤体工事・土井改修工事・用水路工事・防護柵設置 |

女池



男池



## 26 五加前池（ごかまえいけ）

### 1 概要

所在地 上田市五加南在家  
 築造年 1622 年(元和 8)  
 水系 産川

### 2 規模(ため池データベース 2018 年 4 月現在)

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 総貯水量 | 45,000 m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 18,000 m <sup>2</sup> |
| 堤高   | 5 m                   |
| 堤長   | 512 m                 |
| 灌漑面積 | 15 ha                 |



### 3 『宝永差出帳』にみる五加 3 池の名称・規模・築造年

|    | 東 西  | 南 北  | 現在の池名 | 築 造 年        |
|----|------|------|-------|--------------|
| 荒池 | 68 間 | 46 間 | 前池(力) | 1622 年(元和 8) |
| 新池 | 87 間 | 89 間 | 男池(力) | 1644 年(正保元)  |
| 今池 | 56 間 | 43 間 | 女池(力) | 1649 年(慶安 2) |



### 4 文献にみる「前池」の名称の変遷

- ① 1706 年(宝永 3) 「荒池」と明記 『宝永差出帳』
- ② 1801 年(享和 元) 「前池」と明記 五加区有文書・五加村庄屋甲田勝太郎前池普請の記録
- ③ 1881 年(明治 14) 「前池」と明記 『明治の進達書』

### 5 池名「前池」「荒池」を考える

- ① 五加集落の中を西から東へ産川が流下していて、それより南の地区を通称前五加と言いつたされている。かつて前五加に出来たため池であるから「前池」となったのではないと思われる。
- ② 前池は五加 3 池の中で一番早く築造されたため池である。前池の最初の表記は「新池」で、言葉で表現すると「あらいけ」と称した。しかし、1644 年(正保元)新しい池(男池)が出来たので「あらいけ」を「荒池」と表記したのではない。

### 6 前池の築造と改修の歴史

| 築造<br>改修 | 年 号           | 工事内容等                  |
|----------|---------------|------------------------|
| 築造       | 1622 年(元和 8)  | 新築                     |
| 改修       | 1699 年(元禄 12) | 人夫 6,000 人             |
| "        | 1718 年(享保 3)  | 人夫 6,500 人             |
| "        | 1801 年(享和 元)  | 人夫 3,503 人<br>『五加区有文書』 |
| "        | 1806 年(文化 3)  | 人夫 5,500 人             |
| "        | 1886 年(明治 19) | 前腹工事                   |
| "        | 1933 年(昭和 8)  | 失業救済事業<br>工費 457 円     |
| "        | 1945 年(昭和 20) | 底樋新設工費 206 円 23 銭      |
| "        | 1953 年(昭和 28) | 前腹工事(アリワサー方式)          |
| "        | 1966 年(昭和 41) | 前腹波止護岸工事工費 709 万円      |
| "        | 1975 年(昭和 50) | 漏水止工事                  |
| "        | 2019 年(令和 元)  | 土樋工事                   |



### 7 灌漑区域 通称前沖地域

### 8 五加前池養鯉事業の歴史

- ① 1961 年(昭和 36)5 月 塩田養殖漁業協同組合(塩田養鯉)が設立され、五加も加入する。
- ② 1975 年度(昭和 50) 塩田養鯉会計が赤字決算となる。
- ③ 1977 年(昭和 52)2 月 五加区総会において五加養鯉部の塩田養鯉からの脱退を決める。



## 27 共有池〔ともいけ〕

## 1 概要

所在地 上田市舞田前沖 中塩田小学校前の道を舞田に向かって行くと、学校から約1km行った道の右側にあります。

築造年 1622年(元和8) 藩主 仙石忠政  
2015年(平成27) 樋の改修 鳥居式から尺八樋へ

水系 湯川 追開沢川



## 2 規模(ため池データベース 2018年4月現在)

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 総貯水量 | 28,000 m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 18,000 m <sup>2</sup> |
| 堤高   | 4 m                   |
| 堤長   | 62 m                  |
| 灌漑面積 | 10 ha                 |

## 3 名前の由来

「池が作られた江戸時代には違う名前だった」  
この池の水は、始めから舞田・保野の2つの地区が使っていました。そして江戸時代には舞田では「下ノ池」保野では「保屋池」と、それぞれが別の名前で呼んでいました(『宝永の差出帳』1706年)。  
池の水については昔から決まりがつくられていましたが、だんだんと崩れて舞田と保野の争いとなりました。

「いつ頃から共有池(ともいけ)というようになったのか？」

池の水のことで争いが治まらなかったので、1894年(明治27)その頃の中塩田村の甲田勝村長が仲裁に入り、舞田・保野の間で契約書が結ばれました。それが今でも生かされ、両区が協力し合って池を管理し、水を使っています。

さて名前がいつ「共有池」となったのか、はっきりした資料は見つかりません。しかし1881年(明治14)の記録(『長野県町村誌』)には舞田では「前沖池」保野では「保野池」と書かれていますから、その後、村長さんが仲裁に入った明治27年頃に「2つの地区が共に仲良く水を使おう」という事で「共有池」と名付けたのではないかと推測されます。

舞田からどうやって保野まで水を運ぶのか？



保野側← 保野の湯川の上を通る水管橋 →舞田側

共有池からは、鉄製の枠に強化プラスチックのU字溝をつないで渡しています。昔は長い木をくり抜いた木製でした。まず用水は保野二の堰に落ちます。それから保野の街の中を通り、主に、福田に近い5,6班へ送られます。

(写真左手 保野二の堰への落水、右手 舞田側)

\* 鳥の写真撮影 香川敏明氏

\* 資料 『舞田自治会誌』(2006年)  
『中塩田時報』他

## 舞田と保野の青年会が明治時代に鯉の養殖をする

○1912年(明治45)2月15日 共有池が舞田と保野の青年会に貸与され鯉の管理をする  
○1929年(昭和4)3月「舞田・保野両区青年会役員の養鯉経営に関する懇談会の記録」  
1912年(明治45)以後18年間養鯉を経営してきた。

利益は、活動写真を無料で公開したり、石材で道標を建立したりした。その他は主として、両区の親睦を図るために使用した。

○1931年(昭和6)「舞田・保野養鯉組合創立20周年記念祝賀式」 村長、小学校長、中塩田青年会長、両区協議員、創立功労者、両区青年会員の総勢90名の参加で盛大に行った。

・・・・その後・・・・

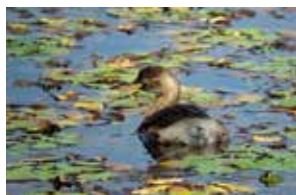
○1961年(昭和36)再び舞田・保野両区で養鯉事業を開始

その頃「塩田鯉」の名で塩田にある多くの池で鯉が養殖されていた。

しかし他地域に押されたり、水の汚れなどの問題もあり1986年(昭和61)共有池養鯉組合は解散した。解散式は舞田公民館で行われた。

## ようこそ 共有(とも)池へ

池にはカイツブリ・バン等の留鳥が生息する他、秋から冬にかけて北の国からミコアイサ・コガモ・ハシビロガモなどの鴨類が越冬のため訪れます。白鳥やコウノトリがやって来たこともあります。また、サギやカワウの姿が見られることもあります。



カイツブリ



白鳥



コウノトリ

## 28 上 平 池 [うわだいらいけ]

### 1 概要

- (1) 所在地 上田市大字舞田字上平沖  
 (2) 築造年 1662 年(元和 8) 藩主 仙石忠政  
 1961 年(昭和 36)～1967 年(昭和 42)  
 改修波止護岸工事、余水吐工事、転落防止柵  
 (3) 掛入水路 現在は沢山方面(古くは小野一水路、追開沢川より掛入っていた)

### 2 規模(ため池データベース 2018 年 4 月現在)

|         |                       |
|---------|-----------------------|
| 総 貯 水 量 | 25,000 m <sup>3</sup> |
| 満 水 面 積 | 14,000 m <sup>2</sup> |
| 堤 高     | 4 m                   |
| 堤 長     | 277 m                 |
| 灌 溉 面 積 | 20 ha                 |



### 3 池の名前・その他

『宝永の差出帳』1706 年(宝永 3)は「上ノ池」と記される。

『明治の町村誌』1881 年(明治 14)には「上平沖池」と記される。

上ノ池壺つ 長サ六拾間 よこ五拾間  
 下ノ池壺つ 長サ七拾間 よこ六拾五間  
 (\*注 「下ノ池」は現共有池)  
 普請や破損の場合は地頭より、材木・大工・木挽・釘・かすがい・薪・諸道具とともに人足一人につき、一日米一升が支給された。

#### 【上平沖池】

東西八十五間、南北六十四間一尺六寸、周囲二百九十八間、深さ一丈一尺、反別一町八反二畝一歩、西南の方にあり。本村田反別二十三町二反五畝十二歩の用水に供す。元和八年新築し修繕費用官費たりしに、維新以降民費に属す。

#### ※草魚(そうぎょ)を入れての菱対策

上平池では、水質悪化や異臭のもととなる菱対策として毎年 50 匹くらいの草魚を入れています。毎年 12 月ごろに「佐久養殖漁業協同組合」に注文し翌年の 3 月に池に入れます。草退治を人手でやるのはとても大変なので助かっているそうです。

#### (佐久養殖漁業協同組合の方のお話)

草魚は埼玉県の業者さんから仕入れています。  
 今迄は何力所かで草魚を飼育していましたが、今では埼玉県の業者さんだけになってしまいました。卵の採れ方によって養殖される数が変わってくるので、価格も変動します。例えば 2017 年は 1 匹 1200 円にもなりました。  
 2019 年は大体 650 円位。2020 年は 700 円～800 円位かと思われます。



草魚(埼玉県鈴木養魚場)

#### ※上平池の養鯉

上平池では農事部が鯉の管理をしていました。  
 1958 年(昭和 33)、塩田平のため池利用による養鯉組合が結成され、1960 年(昭和 35)になると「塩田養殖漁業協同組合」が結成されました。

舞田地区内の上平池・共有池もこれに参加しました。

1961 年(昭和 36) 白蓮 90 匹・草魚 30 匹・ブナシ(鯉)30 kg 放流

1962 年(昭和 37) 大量の鯉が浮き上がる

1963 年(昭和 38) 白蓮収穫量多く販売する

1964 年(昭和 39) 成魚 780 kg・フナ 133 kg・白蓮 190 kg 水揚げ

- 昭和 40 年代の塩田養殖漁業協同組合  
業績高く 売上高 2 億円を超す 日本一の養鯉組合と言われる

- 昭和 50 年後半

業績悪化 霞ヶ浦や群馬県などで安い鯉が生産され始める。また、需要の減少、飼料・人件費の値上がり、土手の傷み、水質汚染もあり、1985 年(昭和 60)組合を脱会 \*資料『舞田自治会誌』(2006 年)他



上平池 鯉の水揚げ(年代不明)



## 29 中野前池 [なかのまえいけ]

## 1 概要

所在地 上田市中野  
 新築年 1630年(寛永7) 藩主 仙石忠政  
 水系 産川、追開沢川

## 2 規模(ため池データベース 2018年4月現在)

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 総貯水量 | 40,000 m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 18,000 m <sup>2</sup> |
| 堤高   | 5 m                   |
| 堤長   | 550 m                 |
| 灌漑面積 | 24 ha                 |



## 2 特徴・エピソード

## (1) 中野前池の三杯池

中野地区は、水田が八割以上もある稲作地帯でしたが水利の便が悪く、古くから干ばつに見舞われ村民の苦しみの種でした。中でも中野前池は、「中野前池の三杯池」と言われ、稲作にはこの池の水の三杯分が必要でした。一杯は冬の間に貯めた分で、あとの二杯分は水上(上流)や山田池などからの水に頼っていました。ひでりが続いて中野前池に水がなくなると、村中総出で雨乞いをしました。夕方薄暗くなってから、竹や棒の先に麦ガラをしばりつけた松明(たいまつ)に火をつけて「雨降らせたんまいな、ナーム、諏訪の大明神」と唱えながら池のまわりを何度も回りました。すると不思議にもたいてい雨は降ったようです。それでも大ひやけの時は、諏訪の上社まで行ってお水もらい、青年会が駅伝式に和田峠を越えて運び、中野・諏訪神社の境内にある井戸に入れて、雨が降るのを祈ったこともあったそうです。

## (2) 前池よりも上にある水田は「池はずれ」、下の方で池の水がかかる水田は「池がかり」と呼ばれました。

## (3) 「元木の地蔵、末木の薬師」の伝説は、一快く水をくれた手塚と水をもらった中野の深い関係を物語るものと言われ、中野地区では、今でも毎年正月には手塚の正副自治会長・協議委員・水利関係者を公民館にまねき懇親会をしています(ふるさと塩田・村々の歴史)。

こんな縁から、手塚地区と中野地区は大変に仲が良かったそうです。ある時、中野前池の土手道を馬に乗った人が通りかかりました。すると突然に馬が「ヒヒーン」と暴れ出してころび、人も馬も大けがをしてしまいました。それは、地蔵さまと薬師さまの向かい合う目線(直線で約三キロメートル)の邪魔をしたからでした。そこで村人は謝罪の意を込めて、土手に馬頭観世音を建てました。(文責・神田愛子)

元木の地蔵さまと末木の薬師さまはもと一本の柳の木を分けて合って作られたので、向かい合うように設置されたのです。手塚の地蔵尊は中野の方を向き、中野の薬師尊は手塚の方を向いています。また同じ人が刻んだので、ほぼ同じ大きさです。

むかし、独鈷山のふもとに元木沢に、柳の太木が立っていました。塩田を回ってこられた弘法大師さまは、その立派でみずみずしい柳の木に不思議な力を感じ、霊木として、幹の根元の方で地蔵尊をきざみ、手塚の元木沢の岩場に北向きに祀りました。また末の方を使って薬師尊をきざみ、中野地区にお堂を建てて南向きに安置しました。

## 「元木の地蔵・末木の薬師」



元木の地蔵(手塚 無量寺)



末木の薬師(中野 薬師堂)

## 30 甲 田 池 [こうだいけ]

### 1 概要

所在地 上田市十人  
 新築 1621 年(元和 7) 上田藩主 真田信之  
 築増 1641 年(寛永 18) 上田藩主 仙石忠政  
 修繕 1724 年(享保 9) 上田藩主 松平忠周  
 増築 1854 年(嘉永 7) 十人村の土地を買い受け  
 水系 産川



### 2 規模(ため池データベース 2018 年 4 月現在)

|         |                       |                                             |
|---------|-----------------------|---------------------------------------------|
| 総 貯 水 量 | 94,000 m <sup>3</sup> | 築堤の型は、平地の築堤方法の典型で、貯水量を多くするために池の周囲を全部築堤してある。 |
| 満 水 面 積 | 30,000 m <sup>2</sup> |                                             |
| 堤 高     | 6 m                   |                                             |
| 堤 長     | 665 m                 |                                             |
| 灌 溉 面 積 | 28 ha                 |                                             |

### 3 池の名前の由来

『宝永差出帳』(宝永 3 年=1706)によると、十人村では「高田池」、上本郷では「本郷甲田池」と記録されている。その後、高田池は、「こうだいけ」と呼ばれるようになった。唯一個人の名が付けられた池。『小県郡年表・上野尚志著』によると、「甲田池は甲田某が再築に功あるを以て名づく」とある。功ある者とは、五加村の甲田清右衛門と思われる。

### 4 特徴・エピソード

- (1) 堤長塩田平のため池の中で 2 番目に長い。
- (2) 旱魃の時には産川からの取水に苦勞し、用水を村の完全統制にした年が何度かあった。1938 年(昭和 13) 沢山池ができてから水利関係は以前よりも緩和されたが、まだ充分ではなかった。
- (3) 旱魃の時は、村中あげて「雨乞い」をした。武高国神社(別名・八幡様)に祈願した後、麦わらで大きな松明(たいまつ)を作り甲田池の堤を「雨降らせたんまいなあ」と唱えながら廻った。塩田中の各村が一斉に行ったので、夏の夕空に塩田平一面に点々と火が燃え壮観だった。そして、雨乞い後不思議と雨が降った。

※甲田池にはこんな伝説がある

#### 「甲田池のカッパ」

昔、甲田池に一匹のいたずらカッパが住んでいました。ある日お百姓さんが、池の土手の杭に馬をつないでおきました。するとカッパは馬の綱を杭からはずして、馬を池の中へ引きずりこもうとしました。

馬は驚いて、カッパをひきずったまま馬小屋へとび帰りました。カッパは引きずられて、頭のお皿の水がこぼれてしまい、簡単にお百姓さんにつかまってしまいました。

困ったカッパは、祝い事がある時、お膳を用意すると約束しお百姓さんに許してもらいました。

それからというもの、婚礼やお祭りの時、お客の数だけお膳を頼むと、カッパは庭先にそろえてくれるようになりました。

ところがある時、近所の人々が、一人分のお膳をかくして持ち帰ったので、全部そろえて返せなくなりました。それからは、お百姓さんがいくら頼んでもお膳を貸してもらえませんでした。



## 31 上 窪 池 [かみくぼいけ]

## 1 池の成り立ち

上窪池は上本郷の上窪地籍にあります。

産川から上窪堰などにより取水しており、甲田池とともに上本郷全体と柳沢の一部の水田用水を供給している大切な池です。

江戸時代の1645年(正保2)の改修築以前は、この池は泥池といわれていました。泥池といわれていたその池は、どのような状況のどのような規模の池であったのかは記録がないのでわかりません。しかし、かつて産川は今の流路より南の方を流れており、上窪池の所在地の上窪地籍はその当時の産川の河床と考えられる凹地であって、安曽岡山からの湧水があり湿田となっているところです。その湿田で昔の人々は稲を育てて近くの地で生活していたのだと考えられます。そのことは、近くにある梓木(わくぎ)

などの地名が残る地籍から弥生式土器・土師器・昔の人々の住居址などが出土していることなどから証されています。

その上窪の湿田の続きのところに上窪池があるので、上窪の湿田の続く辺りは泥沼のようになっていて、それで泥池といわれていたのではないかと考えられます。

その上窪池の西土手に泥宮という神社があります。祀られている神様は泥宮大神です。本殿は一間社流造で、その前に拝殿があります。境内には古い杉が五、六本あるだけの小さなお宮ですが、前方に安曽岡山、独鈷山、そして前山寺、龍光院が望め、東方に東塩田の水田地帯が広がり、ちょうど扇のかなめのようなところにあります。まさに安曽郷の中心地本郷であることを思わせる地であります。

泥は稲を育ててくれる大切なものです。上窪の湿田で稲を育てて生計をたてていた人々は、この泥をありがたい神聖な大切なものとしてあがめ、神として祀り、稲の生育を祈り、また収穫を喜び合い、神に感謝したものと考えられます。東の方下之郷に、生島足島神社がありますが、このご神体も大地であり、上本郷の泥宮のご神体と同じものであり、生島足島神社のもとはこの上本郷の泥宮にあったのではないかと伝えられています。

## 2 築造・修築の歴史

1645年(正保2) これまであった泥池を大きく改修して上窪池となりました。(泥池の築造年は不詳)

1724年(享保9) 修築

1848年(嘉永元) 増築 古安曽村柳沢組の土地を買い入れ増築しました。

1968年～69年(昭和43～44) 合わせて423mの波止工事及び余水吐工事一カ所  
(明治・大正・昭和・平成年代にも多くの修理工事などが行われています)

## 3 規模(ため池データベース 2018年4月現在)

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 総貯水量 | 25,000 m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 12,000 m <sup>2</sup> |
| 堤高   | 4 m                   |
| 堤長   | 312 m                 |
| 灌漑面積 | 12 ha                 |

## 4 上窪池は「塩田鯉」発祥の池

一時期塩田平の各ため池ではたくさんの鯉が飼われていて、「塩田鯉」として有名でした。その「塩田鯉」は、1958年(昭和33)にこの上窪池で発祥(はじめられる)しました。その後、塩田の各池でも飼育されるようになりました。上窪池のほとり泥宮の境内に「塩田鯉発祥の地」(常楽寺半田孝海大僧正書)と刻まれた石碑が建っています。その裏面には、塩田(中組)出身の歌人峯村国一の短歌が刻まれています。

この碑は、塩田鯉を初めて飼ったのが上本郷の上窪池であるので、1968年(昭和43)に塩田鯉誕生十周年を記念して塩田町がここに建てたのです。



## 32 荒 池 [あらいけ]

### 1 荒池の所在

地籍は上田市大字十人内の南西に位置する。小字名は「軒民(けんたみ)」。

現在でも池の敷地の大部分が、大字新町地籍の字「細場江(ほそばえ)」へ入り込み、腹からおへそが飛び出たような形になっている。これは1781年(安永10=天明元年・松平氏治世代)～1814年(文化11)にかけて十人村が新町から土地を購入し、荒池を修増築した結果と考えられる。



### 2 規模(ため池データベース)

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 総貯水量 | 18,700 m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 7,600 m <sup>2</sup>  |
| 堤高   | 4 m                   |
| 堤長   | 380 m                 |
| 灌漑面積 | 27 ha                 |

### 3 荒池及び水利に関する管理組織の変遷

当初、「水利組合」が組織され、組合長は十人区長が兼職した。

1957年(昭和32) それまでの水利組合を廃止し、農家組合を設立。

1963年(昭和38) 十人区機関から別れ独立し、農家のみによる「農家組合運営」となり現在に至る。(参考)1970年(昭和45)、上田市合併により、「十人区」から、「十人自治会」となる。

現在、荒池の施設管理者＝十人農家組合。

### 4 荒池への用水取り入れ堰(せぎ)

- ◆ 荒池への主たる用水取り入れ堰は、産川の新町・字王子にある左岸頭首工(とうしゅこう)から取水している。

- ◆ この堰の名称は「四の堰」(よんのせぎ)と呼ばれている(長野県町村誌(明治15年3月付け手塚村の報告)で使用している名称)

このように呼ばれる理由は、産川上流の沢山池の放流口下から数えて、第4番目の頭首工から取水する堰であるからであろう。なお、「一の堰」「二の堰」「三の堰」の頭首工は、全て手塚地籍内の産川左岸にある。

- ※「軒民堰」(けんたみせぎ)。長野県町村誌の報告で、十人村が使用している名称。

このように呼ばれる理由は、荒池が十人・字軒民内にあるので、軒民に行く堰という意味であろう。

### 5 荒池の近年の改修履歴

1921年(大正10) 北側の前腹工事(池内側の法面工事のこと)

1933年(昭和8) 北側の崩れ復旧工事

1966年(昭和41) 「ガルフシール張り」工事、その後いたみ多し

1973年(昭和48) 波除(なみよけ)護岸工、余水吐工

1975年(昭和50)～ コンクリートブロック張りによる工事を実施(池内側)

2013年度(平成25)～ 県営農村地域防災減災事業(旧事業名＝県営地域ため池総合整備事業)

※目的 2011年(平成23)3月11日に発生した「東日本大震災」に伴う福島県須賀川市の「藤沼湖」の決壊災害等を踏まえ、沢山池を含む同水系17箇所の池の防災・改良・貯水能力回復等の事業を実施

※事業主体 長野県(担当現地機関＝上田地域振興局・農地整備課)。県営事業

※地元負担金等実務取りまとめ機関 塩田平土地改良区

※本事業参加者 「地域ため池総合整備事業西塩田地区実行委員会」規約に規定の団体＝十人等15自治会

※荒池に係る設計調査 2013年度(平成25)・地質調査～2015年度(平成27)・測量設計

※荒池に係る工事 2017年(平成29)8月31日～2018年(平成30)3月23日。ネットフェンス更新L＝312m

用水流入工改修(サイフォン水路出口部～直下流池への取り入れ部)1か所一式

堤体法尻水路改修(BF500)L＝79m。下流水路改修(BF500)L＝110m

サイフォン取水工改修(VP径150＝池から用水を吸い出すビニル管)L＝11m。波除護岸一部改修



## 33 塩野池 [しおのいけ]

## 1 塩野池の地理

塩野池は、独鈷山から流れ出す「塩野川」の麓、上田市大字前山・字「市来」の地籍にあります。東側は古刹「龍光院」や「塩田の館」のある尾根、西側は西前山集落のある低い尾根に挟まれた沢状地形に築かれています。



## 2 規模(ため池データベース)

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 総貯水量 | 34,100 m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 10,400 m <sup>2</sup> |
| 堤高   | 9 m                   |
| 堤長   | 156 m                 |
| 灌漑面積 | 11 ha                 |

## 3 歴史

## ○真田氏治世代＝戦国末期～1622年(元和8)11月

- ※ 池の灌漑地域は村落単位にとどまり、池の事業は「村」単位で行われていたとされています。
- ※ この時代での塩野池の築造に関する史料は確認されていません。
- ※ 元和8年は真田信之が松代へ移封された年です。

## ○仙石氏治世代＝1622年11月～1706年(宝永3)1月

- ※ 1704年(宝永元＝元禄17)築造。2月21日から3月13日の22日間に、突貫工事で築造されました。当時は旧暦であり、新暦では3月26日～4月16日にあたります。春暖の頃となり、作業の効率が上がったものと思われます。
- 所要人員→工事期間中の「他地区からの遣わし人足」4,300人、「所人足(地元)」1,308人、特別任務者(庄屋・小頭・食焼・獅子舞)552人、合計6,160人となっています。
- 上田領内の大勢の方々が動員され、特に真田(片道約20Km)・武石の方は早朝から塩野池まで徒歩で出勤され、作業時間に間に合わせることは、大変なことであったと思われます。
- 作業手順→朝、作業が始まる前に、工事の安全を祈って、前山獅子舞の「三頭獅子」が踊られました。この踊りは現在も保存会により存続しており、1989年(平成元)3月8日に「上田市指定無形民俗文化財」になりました。
- このときの絵図「東前山池絵図」が残されています。下記に示します。池成就の年月日が「元禄17年」(1704)と表示されています。この年は、「宝永元年」のことです。

## ○松平氏治世代＝宝永3年1月～1867年(慶応3年・大政奉還)

- ※ 1714年(正徳4)、土手を5尺(約1.5m)嵩上げ工事。

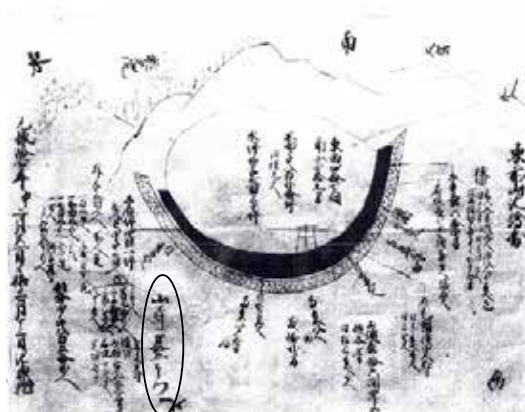
## ○近年以降

- ※ 1918年(大正7)9月より「前腹付工事」が3年計画で始められました(塩田歴史年表)。
- ※ 1962年(昭和37)・1971年(昭和46)波止護岸工、ポーリンググラウト工

## 4 塩野池周囲の環境

- ※ 池からは、遠く、根子岳や烏帽子岳が望めます。
- ※ 池の東側の尾根伝いに「塩田の館」、「龍光院」が並び、その東には「塩田城跡」、「前山寺」と重文の三重塔が続き、池の西側には塩野川を隔てて、「塩野神社」、重文の「中禅寺薬師堂」「薬師如来像」などが立ち並び、四季によっての自然の移り変わりを体感することができます。
- ※ 池の山麓側一帯のガクアジサイは見事で、夏には「アジサイ祭」が行われます。

築造時(一七〇四年)の絵図



- ※ 図の下左寄り(○囲い)に「山寺甚五左衛門」の名が見える。彼は、町屋村の庄屋職を1687年(貞享4)から1718年(享保3)まで務めた者である。「右衛門」とも読めるが「左衛門」だと思われる。因みに、この時代に奈良尾村の庄屋として「山寺源五右衛門」の名前が見える(『富士山村の歴史』)。
- ※ 塩田平では1663年(寛文3)に北之入池が築造され、1683年(天和3)に富士山の前畑池増築、1686年(貞享3)に北之入池の土手上り普請が行われており、甚五左衛門はこの折に、池築造技術の経験を積んだものと思われる。
- ※ 上記氏名が特別に塩野池の計画絵図に表示されている理由としては、池築造の技術指導の任務もあったかと思われる。

## 34 沢 山 池 〔さわやまいけ 又は さやまいけ〕

### 1 規模(ため池データベース)

|         |                                |
|---------|--------------------------------|
| 総 貯 水 量 | 1, 0 8 2, 0 0 0 m <sup>3</sup> |
| 満 水 面 積 | 1 1 7, 0 0 0 m <sup>2</sup>    |
| 堤 高     | 2 6. 9 m                       |
| 堤 長     | 8 7 m                          |
| 灌 漑 面 積 | 4 1 2 h a                      |



### 2 沢山池とは

沢山池は、塩田平のほぼ中央を流れる「産川」の上流、民話「小泉小太郎」で有名な「鞍が淵」の少し上流に、「昭和9年度(1934)時局匡救(きょうきゅう)用排水幹線改良事業」として県営で着工され、1938年(昭和13)3月20日に完成をみた、農業用水確保と洪水調節を目的とした貯水池です。「匡救」とは、「世の中を正して救う」という意味と思われます。当時としては、このような大規模なダムは県内に完成例が少なく、堰堤に立てば、当時の関係者の意気込みが伝わってきます。



### 3 沢山池築造に至る背景 『澤山瀧(貯)水池工築に関する経過報告書』(1939年(昭和14)6月8日付け)前文の経緯概要

- ① 昔から川西地方は田用水に乏しく、「祖先粒々辛苦の賜なる溜池」も、数は多いが貯水量極めて少なく、夏期用水の不足を生ずること例年である。
- ② このため、ときどき灌漑水の争奪を来し、時間と経費の不経済のみならず、感情の摩擦より来たる「精神的損失」もまた甚大である。
- ③ 殊に、「大正13年」及び「大正15年」の大旱魃は被害甚大にして、この対策として、「永久的災害防止施設」の必要を痛感するに至った。
- ④ 以上の背景を踏まえ、漸く「川西拾ヶ村揚水期成同盟会」の創立が成った。
- ⑤ 当初「千曲川導水の計画樹立」をしたが、種々事情のため計画が変更され、「北部浦野川流域」と「南部塩田平の産川流域」とを別個にして計画を樹立するに至った。  
そして、塩田平の内、535町歩の水田を対象として「川西農業水利改良事業」が計画された。
- ⑥ 本事業は県営をもって、1934年(昭和9)9月26日に起工(地鎮祭)され、1938年(昭和13)3月20日に完成した。この間の県関係官吏の苦辛努力は想像に余りあり、地元村民は等しく感謝せずにはおれない。
- ⑦ この状況のもと、関係地主並びに地元村民においても、多大の負荷を敢えてし、地方後世のため敢然この永久的大事業の完成に努力傾注されたことに、感激の情を禁ずることができない。
- ⑧ 今後一層、関係者一致協力し、貯水の管理運用は勿論、導水路の完備と負担金の償還に最善の努力を払われることを希望してやまない。

「余水吐」から産川上流を望む。余水吐けの天端は標高 600m で水深は 22m。これ以上貯まった水は産川に排出される。

### 4 産川地域における既往の旱害状況(主な被害) (単位: ヘクタール)

| 年 度         | 水田作付面積 | 被害面積計      | 収穫皆無       | 7割以上減収    | 5割以上減収     | 3割以上減収    | 3割未満減収     |
|-------------|--------|------------|------------|-----------|------------|-----------|------------|
| 1924年(大正13) | 521.8  | 505.7(97%) | 261.5(50%) |           | 131.5(25%) | 63.6(12%) | 65.2(13%)  |
| 1926年(大正15) | 519.1  | 503.9(97%) | 62.9(12%)  | 32.6(6%)  | 51.1(10%)  | 65.2(13%) | 307.3(59%) |
| 1927年(昭和2)  | 526.4  | 501.5(95%) | 15.7(3%)   | 89.0(17%) | 33.5(6%)   | 93.2(18%) | 295.0(56%) |
| 1933年(昭和8)  | 510.6  | 286.2(56%) | 5.1(1%)    | 4.5(0.9%) | 2.9(0.6%)  | 19.5(4%)  | 478.6(93%) |

### 5 沢山池築造事業の目的

- ① 塩田平西武は、産川・湯川を主要水源とするがその枯渇が甚だしい。
- ② 幾多の溜池を補給水源とするも、その補給能力が充分でない。
- ③ このため本地域(川西農業水利改良事業地域)は旱害を受けること比年(毎年)である。
- ④ 依って、この改善策として、産川上流に一大貯水池(澤山池)を新設し、本地域の用水補給に供して、以て旱害を除去し、農作物の増収と農業経営の安定を図り、併せて農村匡救の実を挙げようとするものである。



## 35 山 田 池 [やまだいけ]

## 1 地理的位置

山田池は女神岳山麓に広がる西側の池田山と東側の横山の丘陵地形を巧みに利用し、270mの一文字型堤により築造されています。水源は別所から流れる湯川からの取水と自然流水によっています。



## 2 規模(ため池データベース 2018年4月現在)

|      |                        |
|------|------------------------|
| 総貯水量 | 262,000 m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 72,000 m <sup>2</sup>  |
| 堤高   | 11 m                   |
| 堤長   | 263 m                  |
| 灌漑面積 | 44 ha                  |

## 3 歴史

| 年                   | 概 要                      |
|---------------------|--------------------------|
| 1615年(慶長20)         | 池築造                      |
| 1650年(慶安3)          | 大改修(2つ並んでいた池を1つに)        |
| 1828年(文政11)         | 二の土井伏替。翌年藩の御裁許で用水の配分が決まる |
| 1835~1841年(天保6~12)  | 池の南東斜面に上田藩の事業として薬草の甘草を栽培 |
| 1863年(文久3)          | 本土井普請                    |
| 1932年(昭和7)          | 堤かさ上げ工事で現状に              |
| 1950年(昭和25)         | 堤の一部漏水で大騒動に(35m築堤替)      |
| 1957年(昭和32)         | 温水斜樋設置                   |
| 1965年(昭和40)         | 波止護岸改修工事竣工               |
| 1965~1980年(昭和40~55) | 塩田鯉(養鯉事業)                |

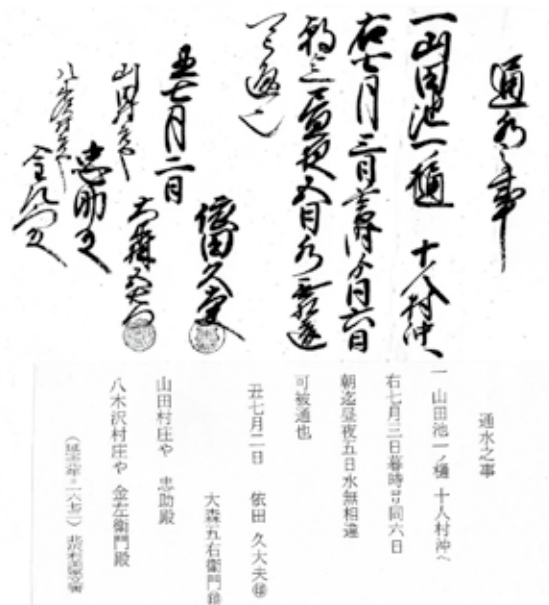
## 4 利水の歴史

この池の用水は「宝永差出帳」(1706年(宝永3))によると、地元2か村と池下6か村で必要に応じて藩の代官に願い出ると、通水切手(文書写し)が池元番庄屋に届けられ配水が行われていました。

1829年(文政12)前年の大普請の際、人足と工事費の負担をめぐって大紛争が起き、上田藩の判決により各村への配水割合が、地元の山田・八木沢両村へ50%、舞田村へ10%、五加・本郷・中野・十人・小島5か村へ40%と定められ、「本樋中棧下の水は池元両村の囲水」とされました。

この規定は慣行として永く厳守されてきました。1924年(大正13)の大旱魃の際、隣村の必死の願いに時の八木沢区長が慣行を破り半日通水したことをめぐって区民あげての大騒動になった記録が残されています。

その後、1938年(昭和13)沢山池が築造されるなどで塩田平の水利状況は大きく変わり、池下の村々は水利権を譲渡あるいは放棄し、現在は山田区と八木沢区のみで利用しています。



## 36 山田新池〔やまだしんいけ〕

### 1 池名の由来

山田地区には、塩田平で三番目に古いと言われる山田池が1615年（元和元）に築造されました。

その後、山田池より新しく造られたことから、「山田新池」と呼ばれているのではないかと思います。

築造経過は定かではありませんが、山田池に水を取水していた別所地区の湯川だけでは水量が少なかったため、山田地区を流れる追開沢川からも取水し、山田池と山田池より上部（上流）の水田に安定的に供給するため、新しく池を築造したと思われます。



### 2 地理的位置

女神岳の東側の裾野に山田地区の集落が形成されています。その集落の北側に山田新池があります。

山田池より山側（上流）に位置しています。主要地方道別所丸子線を別所温泉に向かう途中、左手に見える舌喰池、右手の塩田西小学校を通り過ぎると山田集落に入ります。そして大きな右カーブを過ぎた頃、左側の山裾に山田新池の堤体が見えます。そして、さらに進んでいくと右側眼下に広大な山田池が見えます。

### 3 歴史

古い資料文書（日記、新池大積書等）には以下のことなどが記載されています。（ふるさと塩田 村々の歴史第二集より）

- (1) 1750年（寛延三）に築造された。
- (2) 寛延3年2月2日に普請が始まり、3月1日に完成した。
- (3) 所在地と面積は大字山田字中尾131番地（北ノ沢）にあり、面積五反六畝四歩、東西二十八間南北三十八間、水面千六十四坪。
- (4) 工事人足総数5,106人、内訳は塩田組1,710人、田中組200人、国分寺組500人、武石組700人、小泉組900人、浦野組796人、塩尻組300人とあります。  
なお、大積書は残されていますが、新構築願書は発見されていません。
- (5) 近年の改修工事としては、昭和44年度に老朽ため池事業で改修工事（波止護岸 L=167m、事業費3,012千円）が行われました。

### 4 規模（ため池データベース 2018年4月現在）

|      |                      |
|------|----------------------|
| 総貯水量 | 12,000m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 5,000m <sup>2</sup>  |
| 堤高   | 7m                   |
| 堤長   | 121m                 |
| 灌漑面積 | 5ha                  |

### 5 耐震化工事

塩田平には耐震化工事が必要なため池が14箇所ありますが、山田新池はそのうちの一つで、着工は令和4年度です。

工事概要は次のとおりです。（参考：上田地域振興局農地整備課資料（令和4年9月時点計画））

- (1) 工事名：令和4年度県営農村地域防災減災事業 山田新池地区 ため池改修工事
- (2) 工期：令和4年10月～令和6年3月（予定）
- (3) 主な工事
  - ① 堤体工 地震に強い池にするため堤（土手）に、池内部の土を土壌改良して貼り付け厚くしたり、また安全のために転落防止柵を設置する等の工事
  - ② 洪水吐工 洪水を防ぐため、池が一定の水深になると自然に池から水が流れ出るように堤（土手）にコンクリートでできた設備（洪水吐）を新設する工事
  - ③ 波除護岸工 池に貯めた水によって堤（堤体）が浸食されないよう保護するために、池の内側にコンクリートブロックを新設する工事
  - ④ 取水施設工 堤（土手）を掘削して古い施設は撤去し、池から下流水路に安全に操作しやすく水を送る設備を新設する工事



## 37 舌喰池〔したくいけ〕

## 1 舌喰池の地理

舌喰池は、池の南西直線距離で約 1.5 km に聳える女神岳(927m)の山麓から流出する「竜王湧水」や「滝の沢」の流出水と、その他に舌喰池の南方約 3 km に聳える塩田平の南壁を形成する最高峰「独鈷山(1266m)」山塊の水系である 1 級河川「産川」から取水(池から直線距離で約 1.5 km 上流)した「一の堰(せんげ)」を水源としています。場所は女神岳の山麓から平地に出る境あたりに築造されています。



## 2 規模(ため池データベース)

|      |                        |
|------|------------------------|
| 総貯水量 | 137,900 m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 61,400 m <sup>2</sup>  |
| 堤高   | 7 m                    |
| 堤長   | 485 m                  |
| 灌漑面積 | 50 ha                  |

## 3 歴史(概況)

○真田氏治世代＝戦国末期～1622 年(元和 8)11 月 →史料不足で詳細不明

○仙石氏治世代＝1622 年(元和 8)11 月～1706 年(宝永 3)1 月

※ 1622 年(元和 8)増築。

※ 1692 年(元禄 5)舌喰池北側大拡張。(池敷地の距離)東西 200 間(約 364m)、南北 150 間(約 273m)。土手 4 尺(約 1.2m)上がる。

○松平氏治世代＝1706 年(宝永 3)1 月～1867 年(慶応 3 大政奉還)

※ 1713 年(正徳 3)手塚池増築。土手 5 尺(約 1.5m)上がる。

○近年以降

※ 1962～63 年(昭和 37～38) 波止め護岸工、ボーリンググラウト工 老朽ため池事業。

※ 2003 年(平成 15) 県営田園空間整備事業により、転落防止柵が金網製から木製に取替。

※ 2008 年(平成 20) 手塚農水保全会の主導により堤頂への「シバザクラ」植栽。3 年をかけて完成。

※ 2010 年(平成 22) 県営田園整備事業により「池内遊歩道」設置、「親水公園」建設。

※ 2015 年(平成 27)～2017 年(平成 29) 県営地域ため池総合整備事業(後に県営農村地域防災減災事業名に変更)により、本土井・サイフォン改修、洪水吐改修、浚渫 3,680 m<sup>3</sup>。

※ 2018 年度(平成 30) 浚渫土が置かれた旧水田跡の荒廃を防ぐため、手塚住民による舌喰池緑地公園事業を行った。全面芝張り。面積約 3,000 m<sup>2</sup>。名称は「舌喰池憩いの広場」。2019 年(令和元)11 月 23 日に「上田市都市景観賞」を受賞。

## 4 「舌喰池」の名前の由来

「舌喰池」という誠に奇妙な呼び方がいつ頃から言われるようになったか、19 世紀初頭の役所あての文書に「舌喰池」の名称が使われていたことが手塚の「曲尾ちず子家文書」で確認されます。

1811 年(文化 8) 願書注進書控(抜粋) 六月二十五日 庄屋・組頭から御役所様あて

「右は池上通り早につき申し候 並びに舌喰池水甚だ少なく罷り成り申し候

につき 恐れ乍ら右の段 書き付けを以て 御注進申し上げ奉り候 以上」

## 5 民話の舞台・舌喰池

舌喰池には悲しい民話が伝えられています。この辺りでは山田池に次ぐ大きな池で「大池」と呼ばれていました。昔、大池の工事のとき、土手から水が漏れてどうしても十分に水を貯めることができませんでした。村人は議論のすえ、苦渋の決断として「人柱」をたてることになり、くじ引きで決めることになり、くじを引き当てたのは村はずれで一人住まいの美しい娘さんでした。娘さんは悲しみの末、人柱にたつ前の晩に舌をかみ切り、池に身を投げて死んでしまいました。

村人は娘さんの遺体を手厚く供養し人柱にたて、それ以来、池の漏水が止まりました。こののち村人は、この悲しい出来事を忘れてはならないと思い、「舌喰池」と呼ぶようになり、水を一層大切に使うようになったということです。

昭和 50 年代に舌喰池周辺の圃場整備が施工された際、池の北側の田から墓石が 4 基出土しました。これらは現在、無量寺の境内へお移ししてあります。この中に、「○永○未歳 早世霜元童女位」という戒名の石塔があります(1631 年(寛永 8)にあたるか)。民話に因むものとするれば、1622 年(元和 8)手塚池増築から 10 年目に、人柱になった娘の縁者が建てたとも想像されます。

## 38 不 動 池 [ふどういけ]

### 1 不動池の所在

上田市手塚 字 滝沢 地籍。

女神岳(927m)の東山麓から平地に出る境あたりで、手塚の金井集落のすぐ南側に築造。

不動池の北北東下流約 350mに舌喰池があり、その東側に塩田の里交流館(とっこ館)及びさくら国際高等学校があります。また、池の西北に隣接して皇子塚古墳(上田市指定文化財)、南に近接して桜の名所・榛名山(はるなやま)、浄土宗・無量寺、手塚八幡社があります。



### 2 用水取り入れ口

不動池への用水取り入れ口は二系統あります。

- ①「滝の沢」からの取り入れ。古く築造当時の取り入れ口で、女神岳の山裾、無量寺の裏側(西側)を流れている沢水です。
- ②上流「産川」から取水して導水してくる「新堰」からの取り入れ。「沢山池」の少し下流から取水され、産川左岸の山裾を導水してくる水路です。新堰は山田まで延びています。

### 3 規模(ため池データベース)

|         |                            |
|---------|----------------------------|
| 総 貯 水 量 | 1 4 , 2 0 0 m <sup>3</sup> |
| 満 水 面 積 | 6 , 0 0 0 m <sup>2</sup>   |
| 堤 高     | 7 m                        |
| 堤 長     | 1 2 2 m                    |
| 灌 溉 面 積 | 5 h a                      |

### 4 歴史

- (1) 不動池の築造 (1982年(明治15)の『手塚村誌』・1922年(大正11)の『手塚村誌編纂資料』より)

|                                      |                                                                                                          |
|--------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1817年(文化14) 新築願書提出                   | 江戸時代後期、松平氏治世代                                                                                            |
| 1827年(文政10)3月 起工                     | 総人夫=16, 107人、大工=60人、杣(そま)=30人(用材の山を杣山、切出す職人を杣人という) 鋤30挺(ちょう) 五寸釘100本                                     |
| 1829年(文政12)3月24日 竣工                  | 願い出してから12年目に築造できたことになる                                                                                   |
| 名称=新池。別名: 不動池                        | 不動池の名称の由来については下記ご参照                                                                                      |
| 池の大きさ=東西が46間4尺2寸(約85m) 南北が56間(約102m) | 現在の大きさと符合する。<br>概ね、池の中央を走る直線距離。                                                                          |
| 築造当時の灌漑面積=田が1町1反3畝6歩(約1.12ha)        | 当時は、享保3年(1718)産川左岸に開削された「新堰(しんせんげ)」は、まだ上流の手塚八幡社したまでしか作られておらず、産川左岸の「一の堰」では灌漑できない山裾の小区域の灌漑を目的として築造されたと思われる |
| 水利権(慣行)=原則として、手塚自治会管轄区域内のみで使用する      | 水不足とならない年においては、他の自治会管轄区域への通水も自治会長の判断で行われる                                                                |

- (2) 不動池の名前の由来 (大正の手塚村誌より)

寛保2年(1742)8月1日、洪水あり。字滝沢より字龍王に至る地籍内の山腹崩壊せることあり。その箇所的一部分を選し、文政10年(1827)3月より起工、同12年3月24日竣工す。右池築堤の際、土中より仏体不動尊の木像一個を掘り出し、池の西方に祭祀す。これに因み不動池とも称す。

不動堂は、字滝沢、新池の辺りにあり。寛保2年(1742)、洪水にて山腹決壊のため旧滝沢 山腹所在の仏堂、土中に埋没せられたるを、後、文政13年(1830)、新池築造に際し発掘せしを今の所に勧請す。本尊不動明王、祭日は毎回彼岸社日とす。(以上:原文)

この洪水は後世に「戌の満水」と呼ばれることとなった史上最悪の大水害でした。被害は関東甲信越に及び、千曲川流域では水たまりに屍 山をなし、上田領内では死者540人、家屋流失1100戸、等が伝えられます。

なお、掘り出した不動尊を祀った「不動堂」は今はなく、その不動尊はどうなったのか、今のところ判明していません。



## 39 竜王下池 [りゅうおうしたいけ]

## 1 所在・地勢・地理

- (1) 所在：上田市手塚字山金井。この字に隣接する北西側は上田市山田字上打越(かみうちこし)。
- (2) 地勢：塩田平の西南、女神岳927mの麓。扇状地の頭部に位置する。
- (3) 地理：この池のすぐ下流東側に「金井集落」、東南東に「皇子塚古墳」・「不動池」がある。北北東へ約500m程に「舌喰池」、「とっこ館」、「さくら国際高校」がある。



## 2 規模(ため池データベース)

|      |                     |
|------|---------------------|
| 総貯水量 | 2,700m <sup>3</sup> |
| 満水面積 | 1,200m <sup>2</sup> |
| 堤高   | 5m                  |
| 堤長   | 58m(実測56m)          |
| 灌漑面積 | 7ha                 |

全景 西側より菅平方面を望む

|         |                            |
|---------|----------------------------|
| 最大水深    | 2m弱(堆泥はなはだし)               |
| 取水工     | サイフォン・内径100mm塩化ビニール管       |
| 余水吐き    | 内径300mm鉄筋コンクリート管           |
| 貯水用流入施設 | 内径150mm塩化ビニール管             |
| 緊急取水施設  | ハンドル付ゲート・通水管内径150mm塩化ビニール管 |

## 3 池の歴史 1709年(宝永6)新築(史料が少なく、詳細は不明)

- 4 水源 字・竜王にある「竜王湧水」と呼ばれる湧出水。女神岳の山麓、金井集落の上方、竜王下池から約300m上流。そこから流れ下った沢水を取水している。この水源については、1856年(安政3)11月、手塚村の庄屋・山極八郎右衛門が役所(割番)へ報告した古文書がある。

## 『この古文書の概要』

- ① 金井組の上方に字竜王と唱える所があり、組内用水や田地2千坪の養い水にしたり山田へも分水している。今から40年前(1816年=文化13)に竜王の水が細くなり、3年間ほど大難儀を被ったので1818年(文政元)に比叡山の行泉院へ「百両」を奉納し御祈禱をお願いしたところ水が加倍に涌出して関係住民は大喜びとなる。
- ② ところが、去る1853年(嘉永6)11月頃から竜王の水脈が絶え大難儀を被っていたので翌1854年(嘉永7)の春、先年の例をもって行泉院へ代参を差し立てたところ、「千日大行満常楽院御方(大行満願海のこと)」が御祈禱をして下さることになり、その結願の日に龍王の水が再び涌出して関係住民は大変喜んだ。
- ③ 本年(1856年=安政3)、願海様が善光寺へ参詣されての帰路、塩田の拙宅へ招待いたし逗留されるが、願海様は名僧であるから、噂を聞いて近隣からも参る者が多いと思われるので口上書をお届けする。

※この古文書からも、竜王湧水が昔から金井組はもとより地域住民に必要とされてきたことが分かる。

## 5 近年の改修履歴

◎2011年度(平成23)「県単緊急農地防災事業」採択。⇒平成24年3月竣工。

- ①原因：長年の浸食により、堰堤の池内法(前腹部)が著しく「オーバーハング」状になり、堰堤天端幅が痩せて2mを切っており、金井集落住民から危険である旨の要望が出されていたため、自治会から県及び上田市に要望していた。

## ②工事内容

- △堰堤の天端幅を3.0m幅に復旧し、前腹部(土羽法面)の貯水面から上に法面緑化シートを張る。  
 △灌漑配水用流出施設の更新⇒サイフォン更新・内径100mm塩化ビニール管。  
 △既設余水吐き部に「緊急取水用ゲート・内径150mm」を併設⇒貯水面から下30cmまで取水可能。  
 △余水吐き⇒内径300mm鉄筋コンクリート管

◎2016年度(平成28)「県単緊急農地防災事業」採択。⇒平成29年3月竣工。

- ①原因：平成23年度で復旧した堰堤の前腹部について、貯水面から下部が波により浸食され始めていたので、下流集落安全確保のため、手塚自治会から県及び上田市に要望していた。

## ②工事内容

- △前腹下部について、コンクリブロック張を池底面(堆積泥面)より相当深くに基礎を打ち(1.0m程度)貯水面まで張り上げた。これにより波による前腹部の浸食は止まる。延長=(実測)36.4m。

## 6 池の活用

鯉の生産⇒1990年(平成2)に手塚自治会の協議員数人で「ひやけ会」を結成し、手塚自治会から不動池と竜王下池を借りて鯉の生産を始めた。自治会からは「養鯉のために水田配水に支障を与えない・営利を目的としない」という条件が示された。当初は種鯉になる稚魚を佐久市まで買いに行った。そして不動池で成魚になるまで3年程養鯉し、成魚を竜王下池に移し、予め作っておいた「網いけす」に入れて泥を吐かせ必要に応じて会員や希望者に配った。⇒平成23年にひやけ会解散。

※「ひやけ会」という名称は、平成2年は塩田平が大旱で「役水配水」に苦労したことから付けたとのこと。

## 40 上 一 池 [かみいちいけ]

1 所在地 上田市山田字上打越

2 築造年 1709 年(宝永 6)

3 規模(ため池データベース 2018 年 4 月現在)

|         |                       |
|---------|-----------------------|
| 総 貯 水 量 | 60,000 m <sup>3</sup> |
| 満 水 面 積 | 13,000 m <sup>2</sup> |
| 堤 高     | 11 m                  |
| 堤 長     | 96 m                  |
| 灌 溉 面 積 | 20 ha                 |



4 その他特筆すべき事項

- (1) 築造に関する資料が確認できませんでした。池名の由来も不明です。土地登記簿から池の所有者は個人(手塚地区)所有であることがわかりました。
- (2) 現在、山田自治会及び手塚自治会の両自治会とも池の管理は行っていません。
- (3) 当池の管理は、池の上流にある手塚の「竜王湧水」からの分水水路の管理とあわせ、山田及び手塚の関係者が共同で行ってきたのではないかと思います。
- (4) しかし、当池の受益とする水田は山間地にあり、圃場整備された田に比べ耕作が非常に非効率であること、さらに耕作者の高齢化と離農が進み、水田が荒廃化してきたものと思われます。その結果、当池の管理も困難になり、荒れてきたものと思われます。

現況写真(令和4年9月29日撮影)



堤体から池面①



堤体から池面②



堤体から下流側①



堤体から下流側②

- (5) 上一池は上田市の「防災重点ため池」として指定されている64池のうちの一つで、令和元年度にため池ハザードマップが作成されています。

※参考 「防災重点ため池」の要件 以下のいずれかに該当した場合

- ① 総貯水量100,000 m<sup>3</sup>以上
- ② 堤高10 m以上
- ③ 市町村地域防災計画に定められた池
- ④ 決壊した場合、下流に民家等があり人的被害を及ぼし恐れがあると判断した場合

- (6) こうした中、平成30年7月豪雨により、国内の多くの農業用ため池が決壊し、人的被害を含む甚大な被害が発生したこと、一方で決壊により下流の住宅等被害をおよぼすおそれがある農業用ため池は全国に数多く存在していること、さらに、地方公共団体などからは、財政やマンパワーに限界があり、防災工事等を推進するためには財政支援や技術支援が必要との声が多く寄せられました。

- (7) そのため、農林水産省は「防災重点農業用ため池に係る防災工事等を集中的かつ計画的に推進すること」を目的に、「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」を制定しました(令和2年10月1日施行)。ここでは、「防災重点ため池」を新たに「防災重点農業用ため池」と名称変更し、その定義を「決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設等が存在し、人的被害を与えるため池」としました。具体的な指定要件を次のとおりです。

- ① ため池から100m未満の浸水区域内に居住者等の避難が困難となる家屋等があるもの
- ② ため池から500m未満の浸水区域内に居住者等の避難が困難となる家屋等があり、かつ、ため池の貯水量が1,000 m<sup>3</sup>以上あるもの
- ③ ため池の浸水区域内に居住者等の避難が困難となる家屋等があり、かつ、ため池の貯水量が5,000 m<sup>3</sup>以上あるもの

- ④ 上記以外で、決壊による水害その他の水害その他の災害を防止する必要性が特に高いと認められるもの

※ なお、上一池は『上田市地域防災計画』に位置付けられていたとともに、地滑り警戒区域の中に位置することや、決壊した場合、下流に民家等があり、人的被害を及ぼす恐れがあると判断したことから、令和2年の特別措置法制定以前に「防災重点ため池」に指定したものと思われます。



## 41 幕 宮 池 [まぐみやいけ]

## 1 概 要

塩田平の西部別所温泉から浦野に通ずる市坂峠の登り口付近幕宮地籍にあります。

別所温泉北東部の宮前と八木沢および舞田の腰巻川沿は、昔から水田として利用されてきました。

この地域に灌漑する主な河川は夫神岳を源にした一級河川湯川ですが、集水面積が小さく水量が少ないうえ急こう配なため取水口からの導水距離が長くなり効率がよくありません。

また、安楽寺の西部弁財地籍を水源にする普通河川腰巻川も急流で集水面積が小さいため水量が少なく、こうしたことから、この地域に灌漑するには大変苦労がありました。

このような地形的条件と大事な水田を潰さずにすむ場所として、幕宮の沢出口付近をせき止めた、ため池・幕宮池が造られたと思われます。

しかし幕宮池に入る沢は集水面積が  $0.05 \text{ km}^2$  と極端に少ないため、湯川からの取水口を柏屋別荘前に設けて腰巻川に一旦落とし、腰巻川の水も合わせて中流部のやけ橋地籍に取水口を設け、勾配の少ない導水路により高い位置から取水し貯水量を確保しています。

現在、池周辺は、水辺公園として整備され市民・観光客の憩いの場所としても利用されています。



湯川からの取水口



腰巻川からの取水口



斜樋岡部式（尺八式土井）

## 2 規模(ため池データベース 2018年4月現在)

|         |                     |
|---------|---------------------|
| 総 貯 水 量 | 60,000 $\text{m}^3$ |
| 満 水 面 積 | 13,000 $\text{m}^2$ |
| 堤 高     | 11 m                |
| 堤 長     | 96 m                |
| 灌 漑 面 積 | 20 ha               |

## 3 歴史

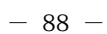
| 年 代                | 事 柄                                                    |
|--------------------|--------------------------------------------------------|
|                    | 沢筋に小さな池か沼が数個あったと思われる。                                  |
| 1715 年<br>(正徳 5)   | 増築、正月 26 日より 4 月 28 日まで 37,647 人の人手(御奉行山極猪太夫、下役平野多左衛門) |
| 1818 年<br>(文政元)    | 掛入堰(材料・杭材は藩の御林から支給)                                    |
| 明治 初期              | 面積 13,200 $\text{m}^2$ 深さ 7.6m 堤長 91m                  |
| 1952 年<br>(昭和 27)  | 温水ため池工事                                                |
| 1954 年<br>(昭和 29)  | 堤体土砂入れ替え(ブルドーザー・トラック使用)                                |
| 1963 年<br>(昭和 38)  | 波止め護岸工事、グラウト工事                                         |
| 1950 年頃<br>(昭和 25) | 1955 年(昭和 30)初期小中学校スケート授業(げたスケートが主)                    |
| 1971 年<br>(昭和 46)  | 1988 年(昭和 63)まで鯉の養殖                                    |
| 1984 年<br>(昭和 59)  | 水辺公園整備                                                 |
| 1985 年<br>(昭和 60)  | 自由広場、テニスコート、アスレックス、散策路                                 |

# た め 池 一 覧

| 池 名 |           | 規模 (ため池データベース 2018 年 4 月 1 日現在) |                        |         |         |            | 築造年  | 増築年                 | 備考                 |
|-----|-----------|---------------------------------|------------------------|---------|---------|------------|------|---------------------|--------------------|
|     |           | 貯水量<br>m <sup>3</sup>           | 満水面積<br>m <sup>2</sup> | 堤高<br>m | 堤長<br>m | 灌漑面積<br>ha |      |                     |                    |
| 1   | 夫 婦 池     | 5,000                           | 6,000                  | 3       | 145     | 5          | 1611 |                     |                    |
| 2   | 瓢 箪 池     | 2,000                           | 2,000                  | 3       | 105     | 2          | 1709 |                     |                    |
| 3   | 迎 原 下 池   | 560                             | 1,000                  | 2       | 58      | 2          | 1711 |                     |                    |
| 4   | 迎 原 上 池   | 980                             | 1,000                  | 3       | 33      | 2          | 1690 |                     |                    |
| 5   | 宮 原 上 池   | 980                             | 1,000                  | 3       | 72      | 2          | 1711 |                     |                    |
| 6   | 鳥 居 上 池   | 900                             | 1,000                  | 3       | 75      | 2          | 1630 |                     |                    |
| 7   | 浅 間 池     | 41,000                          | 6,000                  | 9       | 202     | 25         | 1771 |                     |                    |
| 8   | 居 守 沢 大 池 | 3,000                           | 4,000                  | 3       | 113     | 3          | 1630 |                     |                    |
| 9   | 中 池       | 6,000                           | 5,000                  | 3       | 91      | 5          | 1624 |                     |                    |
| 10  | 下 之 郷 新 池 | 74,000                          | 36,000                 | 7       | 431     | 32         | 1642 |                     |                    |
| 11  | 清 水 池     | 6,000                           | 5,000                  | 4       | 132     | 5          | 不明   | 1807                | 1689年の池数改め帳に池の記載あり |
| 12  | 久 保 池     | 5,000                           | 5,000                  | 3       | 80      | 5          | 1576 |                     |                    |
| 13  | 北 ノ 入 池   | 266,000                         | 78,000                 | 9       | 363     | 92         | 1663 | 1686・1714・1813・1961 |                    |
| 14  | 砂 原 池     | 44,000                          | 10,000                 | 9       | 151     | 6          | 1714 | 1775                |                    |
| 15  | 水 沢 池     | 32,000                          | 13,000                 | 5       | 285     | 18         | 1647 |                     |                    |
| 16  | 来 光 寺 池   | 231,000                         | 50,000                 | 9       | 440     | 70         | 1622 | 1961・1691・1841・1942 |                    |
| 17  | 手 洗 池     | 91,000                          | 30,000                 | 7       | 384     | 27         | 1654 | 1716・1817           |                    |
| 18  | 平 井 寺 池   | 5,000                           | 14,000                 | 9       | 78      | 5          | 1949 |                     |                    |
| 19  | 倉 保 根 池   | 7,000                           | 8,000                  | 3       | 144     | 7          | 1644 | 1881                |                    |
| 20  | 上 原 池     | 46,000                          | 14,000                 | 6       | 464     | 25         | 1638 | 1726・1849           |                    |
| 21  | 小 島 大 池   | 102,000                         | 39,000                 | 6       | 577     | 45         | 1618 | 1717                |                    |
| 22  | 加 古 池     | 6,000                           | 6,000                  | 2       | 125     | 8          | 1704 |                     |                    |
| 23  | 塩 吹 池     | 115,000                         | 35,000                 | 8       | 474     | 48         | 1702 | 1705(第2期) 1770      |                    |
| 24  | 女 池       | 18,000                          | 9,000                  | 3       | 202     | 10         | 1650 |                     |                    |
| 25  | 男 池       | 50,000                          | 21,000                 | 5       | 565     | 20         | 1644 | 1680                |                    |
| 26  | 五 加 前 池   | 45,000                          | 18,000                 | 5       | 512     | 15         | 1622 |                     |                    |
| 27  | 共 有 池     | 28,000                          | 18,000                 | 4       | 62      | 10         | 1622 |                     |                    |
| 28  | 上 平 池     | 25,000                          | 14,000                 | 4       | 277     | 20         | 1622 |                     |                    |
| 29  | 中 野 前 池   | 40,000                          | 18,000                 | 5       | 555     | 24         | 1630 |                     |                    |
| 30  | 甲 田 池     | 94,000                          | 30,000                 | 6       | 665     | 28         | 1621 | 1641・1854           |                    |
| 31  | 上 窪 池     | 25,000                          | 12,000                 | 4       | 312     | 12         | 1645 | 1848                |                    |
| 32  | 荒 池       | 19,000                          | 8,000                  | 4       | 380     | 27         | 不明   | 1781                | 1689年の池数改め帳に池の記載あり |
| 33  | 塩 野 池     | 34,000                          | 10,000                 | 9       | 156     | 11         | 1704 | 1714                |                    |
| 34  | 沢 山 池     | 1,082,000                       | 110,000                | 27      | 65      | 412        | 1938 |                     |                    |
| 35  | 山 田 池     | 262,000                         | 72,000                 | 11      | 263     | 44         | 1615 | 1650・1932           |                    |
| 36  | 山 田 新 池   | 12,000                          | 5,000                  | 7       | 121     | 5          | 1751 |                     |                    |
| 37  | 舌 喰 池     | 138,000                         | 61,000                 | 7       | 485     | 50         | 1622 | 1692・1713           |                    |
| 38  | 不 動 池     | 14,000                          | 6,000                  | 8       | 122     | 5          | 1829 |                     |                    |
| 39  | 竜 王 下 池   | 3,000                           | 1,000                  | 5       | 58      | 5          | 1709 |                     |                    |
| 40  | 上 一 池     | 1,000                           | —                      | 3       | 56      | 7          | 1709 |                     |                    |
| 41  | 幕 宮 池     | 60,000                          | 13,000                 | 11      | 96      | 20         | 1715 |                     |                    |
| 合 計 |           | 3,040,420                       |                        |         |         | 1,166      |      |                     |                    |

(注) 築造年・増築年は、塩田平文化財保護協会事務局員調査、上田市誌及びデータベースによる。









今回の調査で明らかになったこと、また、これからの課題を整理して、本書のまとめとしたい。

現地調査の結果、小規模ため池は83ヵ所を把握することができた。その分布について、41ヵ所のため池は比較的平地部にも点在しているが、小規模ため池については手塚や下之郷など山麓部に集中していることが確認できる。小規模のため池は個人や小集団によって築造されているため、沢等の水源に近いところに設けていると考えられる。

今回の調査によって把握することができた小規模ため池83ヵ所と既に把握されている41ヵ所のため池を合わせると124ヵ所となる。『上田市誌』と比較するとほぼ半分、『わたしたちの上田市』と比較しても6割程度である。この結果をそれぞれが把握した時点からの減少数と捉えるか、現地調査による成果と捉えるかは今後の検証が必要であるが、どちらの要素も影響していると考えられる。

今回の調査においては、現状で堤の形状が確認できるなど、池としての形が保たれているものをカウントしたが、調査の中において現状は埋め立てられていたり堤が崩壊したりしているものも多く見られた。そういったものが利用・管理されていた時代、すなわちため池最盛期の数量調査を行うことは叶わなかった。文献等も検証しながらかつての塩田平のため池群の姿を明らかとしていくことは今後の課題としたい。

また、今回はため池としての形状を保っているものをカウントして掲載したが、防火水槽や住宅の庭の池も「ため池」であることは間違いない。それらを含めると数はさらに増える。一方、調査をさらに進め現在も農業用水確保のために利用され続けているものに限定すると逆に数が絞られる。こういった条件を付して拾い上げることが「塩田平のため池群」を認識するうえで好ましいかについても今後の課題となる。

#### 〈参考・引用文献〉

『上田市誌別巻（2）図でみる街や村のうつりかわり』 上田市 1999

『わたしたちの上田市 小学校3・4年 社会科学習帳』 上田市教育委員会 2022

今回の調査を実施するにあたり、文化庁をはじめ、長野県教育委員会のほか、資料提供、聞き取り調査等で大勢の皆様にたいへんお世話になりました。厚く御礼を申し上げます。今後もよりいっそうの御厚情を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 参考資料

令和 2 年度日本遺産認定申請書から抜粋

### 様式 3-1 構成文化財一覧表

### 様式 3-2 構成文化財写真一覧

※写真は一部変更しています



ストーリーの構成文化財一覧表

| 番号       | ふりがな<br>文化財の名称<br>(※1)                                            | 指定等の状況<br>(※2) | ストーリーの中の位置づけ<br>(※3)                                                                                                                                                                                                                                       | 文化財の所在地 (※4) |
|----------|-------------------------------------------------------------------|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| ■「信州の学海」 |                                                                   |                |                                                                                                                                                                                                                                                            |              |
| 1        | あんらく じ はっかくさんじゅうのとう<br>安楽寺八角三重塔                                   | 国宝             | <p>中国から伝わった「禅宗様」で造られた、現存する日本唯一の木造八角三重塔で、長野県の「国宝第一号」。かつては「四重塔」とされたが、現在は一番下の屋根は裳階（ひさし）と解釈されている。禅宗寺院であるにも関わらず一層内部に大日如来像が安置されており、太陽信仰との関連をうかがわせる。</p> <p>創建は1290年代とされ、八角形のどっしりとした落ち着きがある塔で、頂上には相輪が青天高くそびえている。屋根の下の華やかな木組みも相まって、安定感と崇高美、華麗さを兼ね備えた、天下の名塔である。</p> |              |
| 2        | もくぞう い せんおしょう ざ ぞう<br>木造惟仙和尚坐像・<br>もくぞう え にんおしょう ざ ぞう<br>木造恵仁和尚坐像 | 国重文            | <p>安楽寺の創立は慈覚大師ともいい、宗派は天台あるいは律宗とも考えられている。その後、信濃出身の僧・樵谷惟仙が臨済寺院として中興開山した（現在は曹洞宗）。境内の伝芳堂に、惟仙と開山二世幼牛恵仁の等身大の僧侶の椅像「頂相」が並んで祀られている。没後、弟子たちがその徳を慕い造立したもので、安楽寺が鎌倉と同水準の禅宗文化を受容し、「信州の学海」として、修行僧を多数輩出していたことがうかがえる。</p>                                                   |              |
| 3        | じょうらくじほんどう<br>常楽寺本堂                                               | 市建造物           | <p>天台宗別格本山。平安時代初めに慈覚大師が開創と伝え、樵谷惟仙をはじめ、多くの青年僧が学んだ「信州の学海」を支えた寺院として名高い。</p> <p>本堂は寄棟造、茅葺の建物で、江戸時代中期後半の建築で、本尊は大日如来の五つの智慧を表す五智如来の一尊である妙観察智阿弥陀如来である。</p>                                                                                                         |              |

|   |                                          |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                           |  |
|---|------------------------------------------|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 4 | じょうらくじせきどう た ほうとう<br>常楽寺石造多宝塔            | 国重文                            | <p>石造多宝塔は弘長2年(1262)の作で、総高274.0cmの重厚で堂々とした風格や造り方は鎌倉期多宝塔の優品。塔が建てられている所は、北向観音の出現地といい、境内でもっとも神聖な場所とされる。</p> <p>多宝塔は大日如来を具現化したものとされ、太陽信仰の一端をも垣間見ることができる。</p>                                                                                                                   |  |
| 5 | きたむきかんのんどう<br>北向観音堂                      | 未指定<br>(建造物)                   | <p>平安時代初期に比叡山延暦寺座主慈覚大師円仁が開いた霊場。北向きの本堂(本尊は千手観音菩薩像)は全国でもほとんど例が無く、南向きの善光寺本堂と相対している。「極楽往生」を願う善光寺と「両参り」し、ここで「現世利益」を祈ることで、御利益があるとされる。</p> <p>かつて参道脇に長楽寺(常楽寺、安楽寺とともに天台宗の「別所三楽寺」のひとつ)があったが、現在は常楽寺を本坊とする。昭和36(1961)年に善光寺本堂と同じく、「撞木造り」の建物として増改築された。なお、手水舎には境内から湧出している温泉が使われている。</p> |  |
| 6 | ぜんこうじ じ しん え ま<br>善光寺地震絵馬                | 未指定<br>(有形民俗文化財)               | <p>「善光寺だけでは片参り」のいわれを伝える絵馬。北向観音で厄除札を受けた後、善光寺御開帳に向かった尾張の市之助が、門前宿で弘化4(1847)年の善光寺地震に遭遇した際に、北向観音で受けたお札が身代わりになってくれたおかげで、災難を逃れたという伝説を描いている。</p>                                                                                                                                  |  |
| 7 | あいぜん<br>愛染カツラ<br><br>べっしょ ご ぼく<br>(別所五木) | 市天然記念物<br><br>(未指定)<br>(天然記念物) | <p>神仏が姿を現した「影向の桂」といわれる霊木で、目通り幹囲5.8mの太さがある。ハート形の葉が珍しく、故川口松太郎原作の日活映画『愛染かつら』のモデルとなり、今でも縁結びの霊木として老若男女に親しまれている。</p> <p>別所温泉には他に、北向観音の夫婦杉〈夫婦円満〉、薬師堂のねじり紅葉〈素直な心〉、常楽寺の御船の松〈極楽浄土に導く〉、安楽寺の高野槇〈希望〉の霊木があり、「別所五木」と呼ばれて親しまれている。</p>                                                     |  |



|             |                             |        |                                                                                                                                                                                                                                                                              |  |
|-------------|-----------------------------|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 8           | まい た せきぞう ごりんとう<br>舞田の石造五輪塔 | 県宝石造物  | <p>五輪塔は、はじめ大日如来を尊ぶことから造られたといい、その後、身分が高い人の供養塔として用いられるようになった。総高 212cm の鎌倉時代の五輪塔の優品で、塩田平にたくさんある石造文化財の中でもひととき目立つ雄大な塔だ。</p> <p>地輪、水輪、火輪、風輪、空輪からなり、本例は風・空輪が一石で造られている。水輪には梵字「バン」(大日如来)が刻まれている。各部材の様式等からみて、鎌倉初期の建立と推定されている。</p> <p>文治 2 (1186) 年この地に金王庵を創建した渋谷土佐入道昌順の墓塔と伝えられている。</p> |  |
| ■神宿る「山」への祈り |                             |        |                                                                                                                                                                                                                                                                              |  |
| 9           | ぜんさん じ さんじゅうのとう<br>前山寺三重塔   | 国重文    | <p>前山寺は塩田城の祈願寺と伝えられ、本尊は大日如来。三重塔は室町時代初期の造立とされ、初層と二層に掲げられた大日如来の額で金剛界五仏を表す。二層・三層目の勾欄が未完成であるにも関わらず、何の不調和感もなく、「未完成の完成塔」と絶賛される。荘厳な九輪の下、柿葺きの屋根が重なり合った美しい曲線が四季の山色に映え、その姿は、名塔の誉れを欲しいままにしている。</p> <p>真言宗の「信濃の四談林」のひとつであり、三楽寺とともに「信州の学海」としての役割を担った。</p>                                 |  |
| 10          | いし さん ち<br>ちがい石とその産地        | 市天然記念物 | <p>「ちがい石」は、2 つの中性長石が X 形に交わって晶出した鉱物で、ここ弘法山でしか産出しない。「誓い石」とも呼ばれ、弘法大師空海が「大切に保持すれば災厄から免れさせる」ことを誓ったという伝説を秘める。</p>                                                                                                                                                                 |  |
| 11          | さいこうじ あみだどう<br>西光寺阿弥陀堂      | 県宝建造物  | <p>弘法大師空海が大日如来像・阿弥陀如来像を彫刻し、小堂を建てたのが開創と伝え、鎌倉時代に塩田北条氏が開基となり、足利から実勝和尚を招いて開山とした。阿弥陀堂は室町後期の寄棟造の建物で、飾らない檜皮葺のシルエットが美しい。</p>                                                                                                                                                         |  |

|    |                                                  |      |                                                                                                                                                                                                                         |  |
|----|--------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 12 | ちゅうぜんじやく し どう<br>中禅寺薬師堂                          | 国重文  | <p>約800年前の建物と推定される中部日本最古の木造建築で、塩田平に仏教文化が根付いた時期を示すものだ。</p> <p>宝形造の素朴な茅葺屋根と青空とのコントラストが美しい。薬師如来像を祀る「薬師堂」であるが、「方三間の阿弥陀堂」形式の不思議な建物だ。</p>                                                                                     |  |
| 13 | ちゅうぜんじもくぞうやく し によらい ざ ぞう<br>中禅寺木造薬師如来坐像          | 国重文  | <p>薬師堂の本尊で、平安時代後期（藤原期）の「定朝様」に進取の鎌倉様式を取り入れた、いわゆる「藤末鎌初」の仏像。像高は97.8cmで、その台座（受座）には流鏑馬を描いた墨書戯画が見られる。塩田平に鎌倉から流入した仏教文化の影響を示す作品である。</p>                                                                                         |  |
| 14 | ちゅうぜんじもくぞうこんごうりき し ぞう<br>中禅寺木造金剛力士像              | 県宝彫刻 | <p>薬師堂仁王門に安置された、平安時代末の信州最古の金剛力士像。寄木造で像高207cmのやや小振りの像だ。制作時期は薬師堂本尊とほぼ同じとみられ、この像から、当時、中禅寺が進取の様式により伽藍を整えていたことがうかがえよう。</p>                                                                                                   |  |
| 15 | まえやましお の じんじゃ<br>前山塩野神社<br>はいでんおよ ほんでん<br>拝殿及び本殿 | 市建造物 | <p>「延喜式」等に記載の古社で、独鈷山の北麓に鎮座し、かつては山上の鷲岩という巨岩に祀られていたという。</p> <p>棟札から、拝殿は寛保3（1743）年のものとみられ、二階建ての「楼門造り」という珍しい建物だ。また、本殿は寛延3（1750）年の建築と考えられ、「一間社流れ造り」の様式で、見事な龍の彫刻が目目を引く。</p> <p>神が降る岩「磐座」と境内を流れる塩野川は、異空間に迷い込んだような錯覚を覚えさせる。</p> |  |
| 16 | ほうじゅうじ こ く ぞうどう<br>法住寺虚空蔵堂<br>つけたりず し<br>附 厨子    | 国重文  | <p>平安時代に創建されたと伝える天台宗の古刹。独鈷山を主峰とする虚空蔵信仰の山麓寺院（南麓）として捉えられる。堂全体は「和様」で造られているが、懸魚などには「禅宗様」の要素も見られ、室町時代中頃に造られた建物と考えられる。</p> <p>厨子の時代はお堂と同じ頃と考えられ、方一間入母屋造という禅宗様式独特の方式で造られている。中には虚空蔵菩薩坐像（室町時代・寄木造・像高45.4cm）が安置されている。</p>         |  |



|    |                                                                                     |                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |  |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 17 | べっしょおんせん たけ のぼりぎょうじ<br>別所温泉の岳の幟行事                                                   | 国選択無形<br>民俗文化財                           | <p>永正元（1504）年に大旱魃に苦しんだ農民が、雨の神様に貴重な反物をささげて祈ったことが始まりとされ、嘉永2（1849）年「善光寺道名所図会」にも記される雨乞いのまつりである。</p> <p>本来は7月15日が祭日であるが、現在はそれに近い日曜日に行く。天に昇る龍を象った幟は、長さ約6mの青竹竿に赤・青・黄などの色鮮やかな布が取り付けられている。</p> <p>夫神岳の頂上に祀られた「龍”オカミ”」九頭龍神の祠で住民代表が神事を行った後、降り龍の幟を先頭に70本もの幟が山を下る。麓で別所神社の神主総代や三頭獅子とささら踊りの一行と合流して温泉街を一巡する。</p> <p>平成10（1998）年に開催された長野冬季オリンピックの閉会式会場でも披露された。</p> |  |
| 18 | べっしょじんじゃほんでん<br>別所神社本殿<br><br>かぐらでん<br>(神楽殿)<br><br>ほんちょうえんむすびおおかみのほくら<br>(本朝縁結大神祠) | 市建造物<br><br>(未指定)<br>建造物<br>(未指定)<br>建造物 | <p>別所温泉の北方、塩田平をはじめ遠く浅間連峰が望める小高い丘にある産土神。岳の幟行事の終着地である。</p> <p>建物は天明8（1788）年のものと思われる、安楽寺の山門など、塩田平の神社建築に多くの優れた作品を残した、上田房山の末野一族の手によるもの。</p> <p>なお、境内の立派な神楽殿や、本殿の背に祀られる「本朝縁結大神」なども貴重な文化財だ。</p>                                                                                                                                                          |  |
| 19 | くら ふち じゃこつし<br>鞍が淵と蛇骨石                                                              | 未指定<br>(名勝・天然記念物)                        | <p>鞍が淵の名は、独鈷山から落下した2つの大岩が折り重なって鞍のように見えることが由来だ。岩の間を流れる産川が造る淵には、かつて大蛇が住んでいたという。周辺で採取される蛇骨石（灰沸石）は独鈷山の岩石に含まれる鉱物で、色と形がヘビの骨に似ていることからこの名がある。</p> <p>「小泉小太郎」とは、大蛇を母とする大柄な男の子で、産川（鞍が淵）は小太郎が産み落とされた場所。この伝説は、大蛇は水の神であり、産川の源である独鈷山が水神として崇められていたことをうかがわせる。小泉小太郎伝説は、松谷みよ子の「竜の子太郎」のモデルとなった。</p>                                                                  |  |

| ■祈りの言葉は「アメフラセタンマイナ」 |                                |                  |                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------|--------------------------------|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 20                  | せん だ だ<br>千駄焚き・百八手             | 未指定<br>(無形民俗文化財) | 日照りの年に、山頂やため池の土手で、松明を点したり、藁の束などに火をつけ、「雨降らせタンマイナ」と唱える雨乞いの習俗である。祈りの方法は集落やため池ごとに、若干の違いがある。                                                                                                                                                                                |
| 21                  | な ら お せきぞうおお ぼ ぞう<br>奈良尾石造大姥坐像 | 市彫刻              | 大旱魃の際に、富士嶽で雨乞いをしたところ、忽ちのうちに雨が降ったので、御礼として、寛正7年(1466)に造られたものという。その後、「祈りのかたち」は、この石像に願掛けをした千駄焚きや、石像を池の中に放り込むなどに変化した。祈りの言葉はここでも「雨降らせタンマイナ」だ。<br>怖い顔に反して「大姥さま」と親しみを込めて呼ばれる像は、写実的で迫力を感じる見事な石像である。                                                                             |
| 22                  | ほ や き おんさい<br>保野の祇園祭           | 市指定無形民俗文化財       | 保野の集落は、中世には三斎市が立った塩田平の経済を支えた場所として知られる。保野塩野神社の祇園祭は、大凶作でまつりを休んだところ、疫病が大流行したため、その後は凶作でも休まずに続けてきた。<br>仮宮の市神に移られたお旅所前と、翌日午後に本社に帰られた広庭で、早乙女の揃い姿で踊るささら子の踊りと天狗と雄獅子2体、雌獅子1体による獅子踊りが舞われる。<br>凶作が行事の存続に関与した事例として注目されるまつりだ。                                                        |
| ■未来への懸け橋            |                                |                  |                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 23                  | し な の こくぶん じ あと<br>信濃国分寺跡      | 国史跡              | 天平13(741)年の「国分寺建立の詔」により、信濃国分寺は上田に造られることとなり、770年頃には伽藍が整備されたと推定される。寺伝には、承平8(938)年の平将門と平貞盛の戦いの際に兵火で焼失したとある。<br>昭和38(1963)年から46年に行われた発掘調査では、全国的にも稀な僧寺と尼寺が並ぶ伽藍配置と瓦、什器などの遺物が検出されるとともに、10世紀頃の衰退の痕跡をも確認するなど、大きな成果を残した。この結果を元に史跡公園として整備された。<br>寺域の東北隅の高台に鎮座する国分神社が、レイラインの起点となる。 |



|    |                                 |      |                                                                                                                                                                                                                                                                   |  |
|----|---------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 24 | しなのこくぶんじほんどう<br>信濃国分寺本堂         | 長野県宝 | <p>天台宗の寺院で、本堂は薬師堂と呼ばれている。現在の信濃国分寺の境内は、天平の伽藍の北側の一段高い場所に、かつての僧寺と主軸線を合わせて整備されている。</p> <p>万延元（1860）年に竣工し、彫工は地元上沢村の竹内八十吉であり、龍や鳳凰の彫刻が見事である。</p>                                                                                                                         |  |
| 25 | しなのこくぶんじさんじゅうのとう<br>信濃国分寺三重塔    | 国重文  | <p>寺伝では、建久8（1197）年に源頼朝が善光寺参詣の帰途、寺の衰退を憂い、塔の復興を命じたという。建築様式から、室町時代に建立されたものと推定され、「和様」の外観は堂々と落ち着いた雰囲気呈している。</p> <p>第一層の大日如来が安置されている仏壇の鏡天井を囲む「如意頭文」は「禅宗様」の建物で用いられるもので、一層の内部は赤や緑の顔料で、鮮やかに塗られていた。</p> <p>別所温泉の安楽寺八角三重塔とともに大日如来が安置されたふたつの塔は、レイラインの発着点を示す象徴とされたのかもしれない。</p> |  |
| 26 | しなのこくぶんじせきぞうたほうとう<br>信濃国分寺石造多宝塔 | 市指定  | <p>高さ152cmと常楽寺のものに比べるとやや小振りであるが、各部の様式・手法などから鎌倉期の多宝塔とされる。常楽寺のものがレイラインの終着点に置かれた塔だとすると、こちらは起点とされた塔なのかもしれない。</p> <p>屋根や塔身にある窪みは堅い石で叩いて粉にして飲むと病気が治るとか、お守りにすると良いという信仰の痕跡とみられる。</p>                                                                                      |  |
| 27 | こずてんのうさいもん<br>牛頭天王祭文            | 市指定  | <p>信濃国分寺八日堂縁日（毎年1月8日）で頒布される「蘇民将来符」のいわれが記されている。この「祭文」の写しは全国で4通確認されているが、文明12（1480）年に書写された国分寺のものが最古と判明した。</p> <p>牛頭天王は薬師如来が姿を現したものとされ、厄病除けの神として信仰され、やがて息災延命、七難即滅などの諸々の御利益が付け加わりながら信仰されてきた。</p>                                                                       |  |

|    |                                                               |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |  |
|----|---------------------------------------------------------------|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 28 | うえだ しょう か どう<br>上田市八日堂の<br>そみんしょうらい ふ はん お しゅうぞく<br>蘇民将来符頒布習俗 | 国選択無形<br>民俗文化財 | <p>「蘇民将来符」は厄除けのお守りで、家の戸口に掛けたり、神棚に供えられる。泥柳（ドロヤナギ）の木を手彫りした六角錐形の護符だ。</p> <p>室町時代から制作されてきたといわれ、門前に家を構える人たちで作る「蘇民講」が重要な役割を果たしている。まず、師走の朔日に寺に集まり、木材から護符を「蘇民包丁」で切り出す「蘇民切り」を行う。</p> <p>寺で頒ける護符には、住職が大福・長者・蘇民・将来・子孫・人也の文字と魔除けの紋様を、墨と朱で六面に交互に描く。また、蘇民講の面々は、文字とともに、家それぞれにオリジナルの七福神の絵姿を描いた護符を作って頒布する。</p> <p>蘇民将来信仰は全国に見られるが、木製の護符を分けるところは少なく、蘇民講と寺の制作・頒布過程が他に見られない行事である。</p> |  |
| 29 | よう か どうえんにち ず<br>八日堂縁日図                                       | 市指定            | <p>描かれている信濃国分寺本堂の形状等から、江戸時代中期前半に描かれたものと推定され、写実的であり、当時の参詣風景等が分かる風俗史料として貴重である。</p> <p>この図からは「蘇民将来符」が頒ける姿や、農業に必要な種子や農具、生活必需品、浮世絵等の嗜好品が商われている様子がうかがえ、当時の人々の暮らしと祈りの一端が垣間見える。</p>                                                                                                                                                                                       |  |
| 30 | どろみや<br>泥宮                                                    | 未指定<br>(建造物)   | <p>泥宮は字の如く「大地（泥）」を御神体とし、生島足島神社が創建された時に、遺霊をここに残したという。「泥宮」という呼称は寛政2（1790）年以降とされ、それまでは「諏訪大明神」であった。</p> <p>かつては生島足島神社の西鳥居とまっすぐな道で繋がっていたといい、御神体を同じくするこのふたつの神社は、深い関係があることを示す。</p> <p>神社はレイラインを構成する、聖地のひとつとして親しまれている。</p>                                                                                                                                                |  |



|    |                                                   |       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |  |
|----|---------------------------------------------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 31 | いくしまたるしまじんじゃほんでん<br>生島足島神社本殿内殿                    | 県宝建造物 | <p>平安初期にまとめられた「延喜式」に載る古社で、生島大神と足島大神を祭神とする。御神体は「大地」であり、日本列島の真ん中に鎮座する神だ。</p> <p>寛政 11（1799）年に生島足島神社と社名を改めており、中世以降には「下之郷大明神」「諏訪法性大明神」などと呼ばれ、武田信玄や真田氏、歴代上田藩主の手厚い加護を受けた。</p> <p>生島大神と足島大神を祀る神社は全国的にも珍しく、近畿地方を中心に数社しかなく、東日本では皇居内宮中三殿とこのみである。</p> <p>太陽が夏至には東の鳥居の真ん中から上がり、冬至には西の鳥居の真ん中に沈むよう、鳥居が太陽の至点と一致するように配置されており、まさに「太陽」と「大地」を結ぶ神社だ。</p> <p>境内には夫婦櫓と呼ばれる樹齢 800 年を超えると推定される大木があり、良縁子宝等が祈願される。</p> |  |
| 32 | いくしまたるしまじんじゃ<br>生島足島神社<br>せっしゃすわしやほんでん<br>撰社諏訪社本殿 | 市指定   | <p>棟札から、慶長 15（1610）年に藩主・真田信之が建てたことが判明している。諏訪神を祭神とし、雨神や農耕神ともされ、神格が龍や蛇、神使は蛇とされる。ここでは蛙が禁忌の動物であり、本殿との間にある神池では毎年正月の 1 月 15 日に蛙狩神事が行われる。境内には大蛇が住んでいて、神池には蛙はいないとされる。なお、神池は日によって色が違って見えるという。</p>                                                                                                                                                                                                     |  |
| 33 | いくしまたるしまじんじゃもんじょ<br>生島足島神社文書                      | 国重文   | <p>武田信玄武将の起請文（83 通）ほか信玄願文、真田信幸寄進状など 11 通、合計 94 通からなる古文書群。</p> <p>信玄が配下の武将に、謀叛しないことを誓わせた起請文や、越後の上杉謙信との戦いにあたって勝利を祈願した願文からは、信濃攻略を果たした信玄が、上杉との本格決戦に向けて神の加護を得ようとした心中を察することができる史料だ。</p>                                                                                                                                                                                                            |  |

|    |                                   |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |  |
|----|-----------------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 34 | ちょうふくじどうぞう ぼ さつりゅうぞう<br>長福寺銅造菩薩立像 | 国重文          | <p>長福寺「信州夢殿」の本尊として安置されている。アルカイックスマイルを特徴とする、像高 36.7cm の小金銅仏で、7 世紀後半の白鳳時代の作品と考えられる。</p> <p>もとは上高井郡小布施町の旧家に伝わるものだったが、昭和 13 (1938) 年に長福寺に移された。</p>                                                                                                                                                                                                    |  |
| 35 | べっしょせん てつどう し せつ<br>別所線の鉄道施設      | 未指定<br>(建造物) | <p>蚕都上田を支えた鉄道網のうち、唯一現役なのが別所線。上田から別所温泉に至るこの路線は大正 10 年 (1921) に開通した。</p> <p>電車が上田駅を発つと間もなく真っ赤な鉄橋を渡って千曲川を渡る。この千曲川橋梁は、大正 13 年 (1924) の建設で、橋長は 224 m。橋桁はプラットラス 5 連からなり、一番端の斜材 (コリションストラット) を持っているのが特徴である。また、中塩田駅や別所温泉駅など、駅舎に近代の趣きを残す建物が多いことも特徴である。</p> <p>別所線の上田駅から別所温泉駅まで 11.6km の軌道は、下之郷駅から大きく西に曲がり、終点の別所温泉駅までの軌道は、まるでレイラインに沿って夫神岳に向かっているように見える。</p> |  |
| 36 | しお だ だいら<br>塩田平のため池群              | 未指定<br>(史跡)  | <p>雨の少ない塩田平での稲作において欠かすことのできないのが各地に点在するため池群である。古代から築造は進められてきたと考えられるが、仙石氏統治時代 (1622 年～ 1706 年) に最も築造が行われ、最盛期は 300 以上もあったとされており、上田随一の穀倉地帯を支えた。</p> <p>小規模なため池を含めた現在の総数は明らかではないが、塩田地域で名称や貯水量等が把握されているものだけでも 41 を数える。</p> <p>築造に伴う人柱や、水神としての河童の伝説が残り、雨乞い行事「百八手」が行われるなど、人びとの努力と信仰が現れる場所である。</p>                                                         |  |
|    | ①                                 | 夫婦池          | <p>慶長 16 年 (1611) 築造。皿池。下之郷地区へ灌漑を行う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |  |

|    |   |                  |  |                                                                                            |  |
|----|---|------------------|--|--------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 36 | ② | ひょうたん<br>瓢箪池     |  | 宝永6年(1709)築造。皿池。下之郷地区へ灌漑を行う。灌漑用水としての役割のほか、マダラヤンマ（市指定天然記念物）等の貴重な動植物が生息し、市民がくつろぐ広場としての役割も担う。 |  |
|    | ③ | むかえはらしも<br>迎原下池  |  | 正徳元年（1711）築造。下之郷地区へ灌漑を行う。                                                                  |  |
|    | ④ | むかえはらかみ<br>迎原上池  |  | 元禄3年（1690）築造。皿池。下之郷地区へ灌漑を行う。                                                               |  |
|    | ⑤ | 宮原上池             |  | 正徳元年（1711）築造。皿池。下之郷地区へ灌漑を行う。                                                               |  |
|    | ⑥ | 鳥居上池             |  | 寛永7年（1630）築造。皿池。下之郷地区へ灌漑を行う。生鳥足島神社の鳥居が付近にあったことから名づけられたと考えられる。                              |  |
|    | ⑦ | 浅間池              |  | 正徳元年（1771）築造（当時の名称は大吹池）。谷池。下之郷地区へ灌漑を行う。巨人「デラボッチ」の伝承が伝わる。                                   |  |
|    | ⑧ | いもりざわおお<br>居守沢大池 |  | 寛永7年（1630）築造。皿池。富士山地区へ灌漑を行う。                                                               |  |
|    | ⑨ | 中池               |  | 寛永2年（1625）築造。皿池。下之郷地区へ灌漑を行う。                                                               |  |
|    | ⑩ | 下之郷新池            |  | 寛永18年（1641）築造。皿池。下之郷地区へ灌漑を行う。                                                              |  |
|    | ⑪ | 清水池              |  | 文化元年（1818）に修復の記録が残る。皿池。古安曽地区等へ灌漑を行う。かつてはスケートリンクや鯉の養殖池として利用された。                             |  |
|    | ⑫ | 久保池              |  | 天正4年（1576）築造。皿池。富士山地区へ灌漑を行う。41のため池の中では最古とされる。かつてはスケートリンクや鯉の養殖池として利用された。                    |  |



|    |   |                |  |                                                                                                                                     |  |
|----|---|----------------|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 36 | ⑬ | 北ノ入池           |  | 寛文 3 年 (1663) 築造。皿池。富士山地区へ灌漑を行う。沢山池に次ぐ規模で、東塩田地区への灌漑を行う。コウノトリが飛来したこともあるなど、貴重な動植物が生息する。かつては鯉の養殖が行われた。また、干ばつ時には千駄焚が行われた。               |  |
|    | ⑭ | 砂原池            |  | 正徳 4 年 (1714) 築造。谷池。富士山地区への灌漑を行う。マダラヤンマ (市指定天然記念物) 等の貴重な動植物が生息している。かつては干ばつ時に千駄焚が行われた。                                               |  |
|    | ⑮ | 水沢池            |  | 正保 4 年 (1647) 築造 (当時の名称は唐沢池)。谷池。富士山地区への灌漑を行う。「唐」が「空」に通じ、縁起が悪いことから水沢池に変更されたという伝承が伝わる。住民が水不足に対して非常に恐れていたことを表す伝承である。かつては干ばつ時に千駄焚が行われた。 |  |
|    | ⑯ | らいこう じ<br>来光寺池 |  | 元和 8 年 (1622) 築造。皿池。古安曾地区等へ灌漑を行う。干ばつ時に石造の「大姥様」を池に沈め、怒らせて降雨を願った伝承が伝わる。現在でも大姥様は地域で大切に守られている。また、百八手も行われていた。                            |  |
|    | ⑰ | 手洗池            |  | 承応 3 年 (1654) 築造。谷池。古安曾地区等へ灌漑を行う。池の名は弘法大師空海や木曾義仲の家臣手塚太郎金刺光盛が池で手を清めたことに由来するとの伝承が伝わる。築造時には上田藩内から人が集められたと伝わる。                          |  |
|    | ⑱ | 平井寺池           |  | 昭和 24 年 (1949) 築造。谷池。古安曾地区への灌漑を行う。塩田平では最も新しいため池で、現代まで塩田平の住民が水の確保のため、ため池の築造を行っていたことを表している。                                           |  |

|    |   |              |  |                                                                                                                              |  |
|----|---|--------------|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 36 | ⑲ | くらほね<br>倉保根池 |  | 正保2年(1645)築造。皿池。本郷地区等への灌漑を行う。かつては鯉の養殖が盛んに行われた。                                                                               |  |
|    | ⑳ | うわはら<br>上原池  |  | 寛永14年(1637)増築の記録があり、それ以前からあったとされる。皿池。本郷地区等への灌漑を行う。村上義清に関わる伝承が伝わる。                                                            |  |
|    | ㉑ | 小島大池         |  | 元和8年(1622)の史料で名が確認でき、それ以前からあったとされる。皿池。小島地区へ灌漑を行う。徳川綱吉将軍時代にイノシシが溺死したという「小島大池のイノシシ騒動」が伝わる。                                     |  |
|    | ㉒ | かこ<br>加古池    |  | 元禄17年(1704)築造。皿池。保野地区等への灌漑を行う。毎年蓮が咲くためかつては蓮根が地域の貴重な食料とされていた。現在でもお盆の「花市」用に購入する業者が数軒ある。                                        |  |
|    | ㉓ | 塩吹池          |  | 元禄15年(1702)改修の記録があり、それ以前からあったとされる。谷池。保野地区等への灌漑を行う。かつては保野塩野神社の手洗い池として利用された。晴天が2～3日続くと地面に塩が吹き出したことにより名付けられた。かつては干ばつ時に百八手が行われた。 |  |
|    | ㉔ | 女池           |  | 正保元年(1644)築造。皿池。男池と隣接しており、一部堤を共有している。産川より取水し、五加地区等へ灌漑を行う。                                                                    |  |
|    | ㉕ | 男池           |  | 慶安2年(1649)築造。皿池。女池と隣接しており、男池の方が一回り大きく、一部堤を共有している。産川より取水し五加地区等へ灌漑を行う。                                                         |  |
|    | ㉖ | 五加前池         |  | 元和8年(1622)の史料で名が確認でき、それ以前からあったとされる。皿池。五加地区へ灌漑を行う。かつては鯉の養殖がおこなわれた。                                                            |  |

|    |    |              |  |                                                                                                                              |  |
|----|----|--------------|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 36 | ②⑦ | とも<br>共有池    |  | 元和 8 年 (1622) 築造。皿池。舞田地区等へ灌漑を行う。その形から「ハート池」とも呼ばれる。貴重な動植物が生息し、かつては鯉の養殖がおこなわれた。                                                |  |
|    | ②⑧ | うわだいら<br>上平池 |  | 元和 8 年 (1622) 築造。谷池。舞田地区へ灌漑を行う。かつては鯉の養殖がおこなわれた。                                                                              |  |
|    | ②⑨ | 中野前池         |  | 寛永 7 年 (1630) 築造。皿池。中野地区等へ灌漑を行う。かつては干ばつ時に百八手が行われた。                                                                           |  |
|    | ③⑩ | 甲田池          |  | 元和 8 年 (1622) の史料で名が確認でき、それ以前からあったとされる。皿池。十人地区等へ灌漑を行う。かつては干ばつ時に百八手が行われた。カップ伝説も伝わる。                                           |  |
|    | ③⑪ | 上窪池          |  | 正保 2 年 (1645) 改修の記録があり、それ以前からあったとされる。皿池。本郷地区等への灌漑を行う。改修前は泥池と呼ばれ、池の西側には泥宮が鎮座する。かつて塩田地域の多くのため池で行われた鯉の養殖発祥の地である。干ばつ時には百八手も行われた。 |  |
|    | ③⑫ | 荒池           |  | 安永 10 年 (1781) 増築の記録があり、それ以前からあったとされる。皿池。十人地区等へ灌漑を行う。かつては鯉の養殖が行われていた。                                                        |  |
|    | ③⑬ | 塩野池          |  | 宝永元年 (1704) 築造。谷池。前山地区へ灌漑を行う。前山塩野神社の境内を流れる塩野川を水源としている。築造時には前山三頭獅子舞が奉納された。かつては干ばつ時に百八手が行われた。                                  |  |
|    | ③⑭ | さやま<br>沢山池   |  | 昭和 13 年 (1938) 築造で、塩田平最大のため池。谷池。産川を水源とし、鞍が淵のすぐ上流に位置する。産川流域の農業用水確保のほか、水害対策としても大きな役割を負っている。                                    |  |



|    |    |             |  |                                                                                                                                                                                                  |  |
|----|----|-------------|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 36 | ③⑤ | 山田池         |  | 元和8年(1622)の史料で名が確認でき、それ以前からあったとされる。谷池。八木沢地区等への灌漑を行う。江戸時代の修築時に上田藩主へ設計図を提出したところ、「大きな池にすると堤の決壊時に上田城やまちに甚大な被害が及ぶため1尺堤を低くするように」との指示があったとの伝承が伝わる。別所温泉から流れる湯川を水源とし、山田地区等へ灌漑を行う。かつてはスケート場や鯉の養殖池として利用された。 |  |
|    | ③⑥ | 山田新池        |  | 寛延3年(1750)築造。谷池。山田地区等へ灌漑を行う。                                                                                                                                                                     |  |
|    | ③⑦ | 舌喰池         |  | 元和8年(1622)改修の記録があり、それ以前からあったとされる。谷池。手塚地区へ灌漑を行う。池の築造時に人柱となった娘が舌をかみ身を投げた伝承が伝わり、池の名ともなっている。かつては鯉の養殖が行われていた。                                                                                         |  |
|    | ③⑧ | 不動池         |  | 文政12年(1829)築造。谷池。「戌の満水」時に埋没した不動明王の仏像が築造時に掘り出されたことからその名がついたと伝わる。手塚地区へ灌漑を行う。かつては鯉の養殖が行われていた。                                                                                                       |  |
|    | ③⑨ | 竜王下池        |  | 正徳元年(1711)築造。谷池。灌漑面積は7ha、満水面積は約1,220㎡。水をつかさどる女神である「弥都波能売神」を祀る竜王社が脇に建つ竜王湧水を水源としていることからその名がついたと考えられる。手塚地区へ灌漑を行う。                                                                                   |  |
|    | ④⑩ | かみいち<br>上一池 |  | 築造等の記録は残っていないが、竜王湧水を水源とし、手塚地区へ灌漑を行う。谷池。                                                                                                                                                          |  |
|    | ④⑪ | 幕宮池         |  | 正徳5年(1715)築造。谷池。別所温泉地区等へ灌漑を行う。現在は水辺公園として整備され、市民・観光客の憩いの場として利用されている。                                                                                                                              |  |

## 構成文化財の写真一覧

### 1 安楽寺八角三重塔



### (塔内 大日如来坐像)



### 2 木造惟仙和尚坐像・木造恵仁和尚坐像





3 常楽寺本堂



4 常楽寺石造多宝塔



5 北向観音堂



7 愛染カツラ



6 善光寺地震絵馬





8 舞田の石造五輪塔



9 前山寺三重塔



11 西光寺阿弥陀堂



10 ちがい石とその産地



12 中禅寺薬師堂



13 中禅寺木造薬師如来坐像



14 中禅寺木造金剛力士像



15 前山塩野神社本殿及び拝殿



16 法住寺虚空蔵堂 附 厨子





## 17 別所温泉の岳の幟行事



## 18 別所神社本殿



本殿の背後に鎮座する「本朝縁結大神」祠





## 19 鞍が淵と蛇骨石



鞍が淵



蛇骨石



20 千駄焚き・百八手



21 奈良尾石造大婆坐像



22 保野の祇園祭





23 信濃国分寺跡



26 信濃国分寺石造多宝塔



24 信濃国分寺本堂





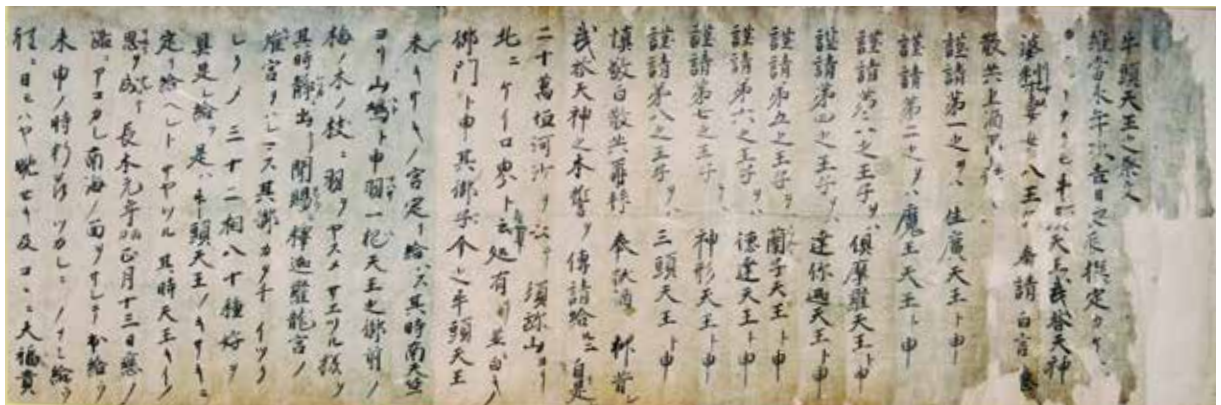
25 信濃国分寺三重塔



(塔内 大日如来坐像)



27 牛頭天王祭文（冒頭部分）



28 上田市八日堂の蘇民将来符頒布習俗





## 29 八日堂縁日図



本堂前で 蘇民将来符を頒布する光景

## 30 泥宮





## 生島足島神社



31 生島足島神社本殿内殿



32 生島足島神社摂社諏訪社



33 生島足島神社文書



### 34 長福寺銅造菩薩立像

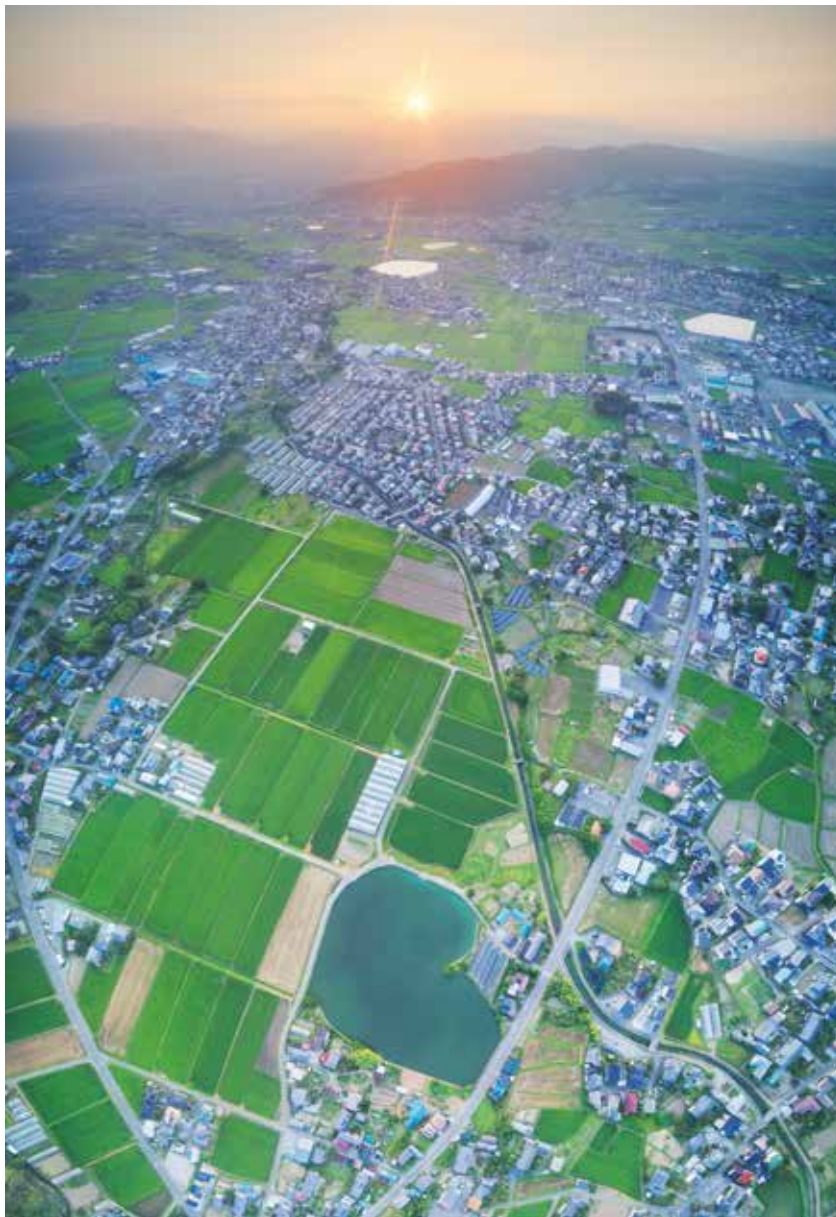


### 35 別所線の鉄道施設





### 36 塩田平のため池群



上田市日本遺産オリジナルロゴマーク



太陽と大地の聖地  
信州上田  
塩田平  
JAPAN HERITAGE

---

■お問い合わせ

上田市日本遺産推進協議会

事務局／上田市役所 政策企画部 交流文化スポーツ課

TEL.0268-75-2005

E-mail: koryusports@city.ueda.nagano.jp

■文化財に関するお問い合わせ

上田市教育委員会 生涯学習・文化財課

TEL.0268-23-6362

E-mail: shogaku@city.ueda.nagano.jp